

2019年度 年報

Annual Report 2019



大阪大学国際教育交流センター

Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長

有 川 友 子

国際教育交流センターは、平成22年4月の留学生センターからの改組以降も、大阪大学の国際化に引き続き貢献し、質の高い留学生教育交流支援を目指すという大きな目標のもと、4WD（日本語教育研究、短期プログラム開発研究、交流アドバイジング研究の3チーム＋サポートオフィス）体制にて各種活動に積極的に取り組んでおります。この度、2019年度の活動につきまして報告いたします。最初に本年度のトピックス、その後各活動について詳細に報告しております。

大阪大学の外国人留学生数は2019年5月1日現在で2,594名となりました。近年の留学生数の増加とともに多様化が進む中、留学生に関わる教育支援活動、また海外派遣の推進に関わる各種プログラムにつきましても多様化が進んでおります。更に留学生のキャリア支援やキャリア教育に関わる各種取組や学内外との連携協力も進んでおります。

国際教育交流センターは、新たなニーズに応えるべく様々な新たな活動につきまして積極的に取り組むとともに、これまでと変わらず重要である全大阪大学のニーズに柔軟に対応した教育、各種交流や支援に関わる活動、各教員の専門分野に応じた研究活動を行っております。

例えば大阪大学の全留学生の約8割の2,000名弱の留学生が、本センター日本語教育研究チームによる多様なニーズに対応した各種日本語科目を受講中もしくは受講経験をもっております。今後留学生数が更に増えることが見込まれる中、日本語教育の質を保ちながら、改革にも取り組み、例えば「OU日本語ひろば」の機能を引き続き充実させ、「OUマルチリンガルプラザ」開設準備を進めました。また本センターの短期プログラム開発研究チームは通常の学期をベースとした交換留学に加えて、米国カリフォルニア大学や豪州の協定校の学生を主な対象とした短期間のJ-ShIPや超短期プログラムを開発し先駆的に実施してきた実績を持っております。また受入だけでなく、交換留学や短期研修プログラム等、また本学学生の派遣についても全学的な立場から相談対応や支援、コーディネートを行っております。更に交流アドバイジング研究チームはIRIS（留学生交流情報室）をベースに、留学生相談対応は勿論、学生間交流、地域との交流等、関係部局等と緊密な連携とネットワークを活用して活動を行っております。そしてサポートオフィスは外国人留学生と研究者受け入れに関わり、主にビザに関わる支援と宿舎情報提供を全学的に行ってきました。

大阪大学において留学生数の増加とともに各種コースやプログラムの多様化が進む中で、留学生・一般学生に関わる教育交流支援の質の保証が益々重要となっております。留学生が大阪大学の学生として教育研究を含む各種活動について日本人など一般学生と同じ機会を持つこと、言語文化等多様な背景をもつ留学生に対して大学として必要なサポートを充実させていくこと、いずれも不可欠です。

最後になりますが、2020年春からの新型コロナウイルス拡大に伴い、本センターが関わる各種活動も大きな影響を受けております。ウィズコロナ・ポストコロナを見据えて、これからも関係部署と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター 2019年度 年報

目 次

巻 頭 言	1
I. 本年度のトピックス	4
1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600）が開講	4
2. OUマルチリンガルプラザとOU日本語ひろば	5
3. メルボルン大学によるFaculty-ledプログラム‘UMOS’	7
4. 冬J-ShIP生およびモナシュ研修生対象の石橋商店街コラボイベント	9
5. 短期プログラムの課題と展望	10
6. 2019年度 国際教育交流センタースピーチコンテスト	12
7. CIEE研究協議会シリーズ―多文化交流の最前線	15
8. ビジネスコミュニケーション講演会	16
II. 現 況	18
1. 運営形態	18
2. 組 織	19
3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	20
4. 今年度の動き	21
III. 留学生対象日本語プログラム	22
1. 日本語集中コース	23
2. 留学生日本語選択コース	28
3. 全学共通教育	29
4. 国際交流科目	31
5. 学際融合教育科目	32
IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム	33
1. 時 間 割	33
2. 学生数と進学先	34
3. 令和元年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会	34
4. 韓国教育部国際教育院および大阪韓国教育院との連携	35
V. 国際教養・専門複合型プログラム	36
1. 行 事	37
2. 2019年度 春夏学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	39
3. 2019年度 秋冬学期：OUSSEP学生名簿と国際交流科目開講リスト	42
4. OUSSEP学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	45
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	46
VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム	50
1. 『超短期』プログラム	50
2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』J-ShIP	52
3. 『学外連携実習』ExPERT	55
4. Faculty-ledプログラム UMOS	55

VII. 留学生支援	56
1. 生活・就学支援	56
2. 地域との連携	62
3. 留学生に対するキャリア支援	65
4. 防犯・防災の講習会等	69
VIII. 海外派遣留学支援	70
1. 海外研修・異文化体験プログラム	70
2. 海外留学オリエンテーション	73
3. 大学間交換留学者数	74
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	76
5. 海外留学相談	78
6. 英語学習支援プログラム Project HELP!	79
IX. サポートオフィスの活動	81
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	81
2. 住宅・宿舎手配の情報提供・支援	82
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	82
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	83
5. ホームページの管理運営	83
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	84
X. 大学院・学部教育	85
1. 授業担当	85
2. 研究指導	91
3. 研究指導学生学位論文	93
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	93
XI. その他の活動	94
1. 各種行事	94
2. 海外出張・海外研修	98
3. CIEE 研究会	99
4. 出版物・印刷物等（2019 年 5 月から 2020 年 4 月まで）	100
5. 来訪者対応	100
6. 研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語	101
7. にほんごテーブル	101
XII. 教員個人データ	104
資料編	
資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2019 年度 留学生日本語プログラム 時間割	142
資料 2 2019 年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数（実人数）一覧	146
資料 3-1 国際交流科目授業時間割（平成 31 年 春・夏学期）	148
資料 3-2 国際交流科目授業時間割（平成 31 年 秋・冬学期）	149
資料 4 日本語授業についてのアンケート	150
資料 5-1 国際交流科目 授業アンケート（質問票）	154
資料 5-2 国際交流科目 授業アンケート（学期末 Web 質問票）	156
資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	160

I. 本年度のトピックス

1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600）が開講

2016年度～2018年度の年報で詳しく進捗状況をお伝えしてきた「日本語・グローバル理解演習」（Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600）科目の計画が実現し、2019年度秋～冬学期に開講・実施した。開講科目のテーマは以下の通りである。

「生命倫理」「ヒューリスティックな知」「社会におけるプロスポーツの存在意義」

また、2020年度春～夏学期には、以下の3科目の開講を予定している。

「外国人・移民・難民」「社会と進化系交通サービス」「言語と思考の関連性」

さらに、2020年度秋～冬学期には、500レベルにも「日本語・グローバル理解演習」科目を開講する予定である（テーマ未定）。

なお、「日本語・グローバル理解演習」開講の背景や理念、概要等については、年報（2016年度 pp.1-2、2017年度 pp.1-3、2018年度 p.4）および紀要（2018年度 pp.29-34）を参照願いたい。

2019年度秋～冬学期に開講・実施した3科目は、各クラス十数名程度の参加者があり、それぞれのテーマについて教員の講義を受けて知見を深めた後、数名規模のグループに分かれてグループ毎に調査やディスカッションを行い、その結果をまとめて全員の前で発表した。それをもとに、クラス全体でフィードバックや討論を実施することを通して、さらに知識を深めたり新たな視点を身につけたりした上で、その経験を次の調査・発表に生かすことができた。そして、その過程で、ややアカデミックな日本語による書記・口頭言語能力を伸長させるとともに、プレゼンテーション能力を向上させることにも成功した。学期の最後には、調査や発表から得られた考察をレポートにまとめて提出できる程度の、テーマへの理解と書記日本語力を身につけた。

以下、一例として「生命倫理」を取り上げた授業で発表されたタイトルを記すと、「脳死と臓器移植」「代理母の光と影」「人工妊娠中絶手術」「安楽死・延命治療中止」「この先の「終活」」「死刑——法律・倫理・正義」であった。どの発表も、各国の法制度や倫理感情に広く目配りして比較・検討しながら、利点や問題点、今後の課題などについて種々の資料をもとに考察した上で、グループとしての意見を述べる、興味深いものであった。ディスカッションの過程では、出身国の法制度や文化・習慣等、あるいは、各自の持つ倫理観や宗教観等の相違から、様々な驚きや発見もあり、一連の活動は、自身の文化や価値観を相対化しつつ他者のそれを尊重する多文化共生能力の涵養にも役立ったと考えられる。

上記年報や紀要でも詳述した通り、「日本語・グローバル理解演習」科目は、「国際性を涵養するグローバル時代の日本語教育として、日本の文化の中のさまざまな事象やテーマを主題的に採りあげたり、人類全体の歴史的あるいは現代的諸問題を扱ったりしながら、それを体系的にそしてグローバルな視点で理解するということを日本語で行うことを通して、内容と言語の共促進を図る教育」（2017年度 年報 p.2）を企図しているが、まずは順調なスタートを切ったと言えるだろう。

2020年度秋～冬学期からは、日本語力の制約が多い500レベルでも開講を予定しているが、JGU600で得られた経験を生かしつつ、両レベルとも、新しいテーマや方法論を工夫していきたい。

2. OUマルチリンガルプラザとOU日本語ひろば

大阪大学では現在、概算要求プロジェクト「『キャンパスライフ一貫型』言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」に基づき、言語教育体制の整備に取り組んでいる。この取り組みは、1) 学部・大学院における専門英語教育体制の確立、2) 英語発信力の強化、3) 日本語学習支援の強化、4) 多言語学習支援のための「OUマルチリンガルプラザ」の整備、を行うことにより、国際通用性を備えた人材養成の強化、および、多様な人材と切磋琢磨できる環境の醸成を目指すものである。概算要求プロジェクトの実施主体はマルチリンガル教育センターであるが、設置・運営にあたっては言語文化研究科、外国語学部、工学研究科、サイバーメディアセンター、国際教育交流センターが協力部局となり連携を図っている。

国際教育交流センターの日本語教育研究チームでは、上記3)の日本語学習支援の強化として、日本語学習ポータルサイト「OU日本語ひろば」を開発し、4)の「OUマルチリンガルプラザ」のとの連携体制の確立を行った。これら2つの項目について、紹介する。

(1) OU日本語ひろばの開発

「OU日本語ひろば」は、2018年度まで国際教育交流センターが開発を進めていた日本語学習支援のためのオンラインプラットフォームである。2017年度より開発に着手し、2018年に開設、2019年度は、OUマルチリンガルプラザの取り組みと連携して、より機能を充実させた。「OU日本語ひろば」には、以下のよう3つの項目がある。

- 1) 「教室をさがす」：日本語を学びたい利用者に向けて、大阪大学国際教育交流センターが提供する日本語教育プログラムだけでなく、学内の各部局が提供している日本語教室や、チューターやボランティアなどの日本語学習支援の取り組みを紹介するものである。そのほか、学外の近隣地域で実施されている日本語教室についても、その内容や場所、開かれている時間などを一覧にまとめたものを公開している。
- 2) 「相談する」：日本語学習に関する質問や相談を受け付けるために、オンラインフォームを設置している。
- 3) 「教材をさがす」：大阪大学総合図書館（豊中キャンパス）の留学生図書に配架されている日本語学習教材を検索できる。

これらの機能はいずれも「リアルとバーチャルをつなぐ」「キューレーションを通じて既存リソースへのアクセスを促進する」という「OU日本語ひろば」の基本方針を反映したものである。2019年度末には、情報提供・動画掲載のためのコンポーネントを追加した。それにより、2020年度以降は、より多様な形で情報提供が可能となった。



図1 「OU日本語ひろば」の動画掲載ページ

(2) OUマルチリンガルプラザの開設

OUマルチリンガルプラザは、上記の概算要求プロジェクトのひとつで、大阪大学構成員の自律的な言語学習とともに、多言語・多文化交流を支援するための場所である。国際教育交流センターもさまざまな形でこのプロジェクトに関与し、支援をおこなっている。この施設の設立目的は、1) 英語・日本語をはじめ、大阪大学に教育体制が備わっている 25 言語の学習支援を行う、2) 留学生や外国人研究員と日本人学生とが多様な国際交流を図ることのできる環境を醸成する、の 2 点で、「リアルとバーチャルを結ぶ」がキーワードとなっている。リアル（実際の場所）では、対面による言語に関する相談業務を行いつつ、目標言語や文化への知識、理解を深めるために、ワークショップなどのイベントを開催する。バーチャル（ウェブサイト）では、大阪大学の学内の言語学習情報を一元化し発信することや、オンラインで学べる教材を紹介することで、自律的な言語学習を支援する。

2019 年度は、OUマルチリンガルプラザ開設のための調査および準備を行った。調査は、他大学の自律学習支援施設（神田外語大学の KUIS8、千葉大学 English House、国際教養大学の言語異文化学修センター、九州大学の SALC）の視察を行い、その他の国内外施設については文献調査を行った。また、大阪大学内で課外の言語学習機会を提供している外国語学部、工学研究科、全学教育推進機構、文学研究科の担当者に面会し、運営体制についての知見を得た。開設場所が、豊中キャンパスのサイバーメディアセンター 4 階のフリーメディアスペースに決定したのち、什器等の整備とウェブサイトの立ち上げを行った。

2020 年春のオープンに備え、2019 年末には、オープンスペースにグループ学習スペース、個人学習スペース、相談スペース（机 10 台、椅子 25 脚）、個室に相談スペース（机 2 台、椅子 4 脚）を設けた。また、利用者が使用できる独習用の 25 言語分の図書・教材と、iPad、CD プレーヤー、プロジェクター、モニターなどの機器を揃えた。施設のスタッフには、コーディネーター 2 名に加え、大学院生の TA を雇用し、学習支援体制を整える予定である。

自律学習支援の施設では、学習者が自己主導型学習のサイクルを作り、継続するにあたり、学習アドバイザーがリソースの紹介やアドバイジングを実施することで、より支援体制が整う。OUマルチリンガルプラザでは、2020 年度に新規開設予定の学際融合教育科目「言語学習アドバイジング」とも連携し、言語学習に関する情報提供やアドバイジングを行う予定である。

2019 年度は、ハード面を整えることに注力したが、2020 年度は開設した場での言語学習支援活動、イベントやワークショップの企画、実施だけでなく、ウェブサイトの中のコンテンツの充実を図る予定で、OUマルチリンガルプラザと OU 日本語ひろばの連携体制もより有機的なものにしていく予定である。



図 2 「OU マルチリンガルプラザ」のホーム画面

3. メルボルン大学によるFaculty-ledプログラム‘UMOS’

2019年度は、メルボルン大学から依頼があり、新たにUMOS（University of Melbourne Overseas Subject）というFaculty-ledプログラムを開始した。UMOSは、メルボルン大学で開講されている科目と同等の授業を海外の大学で実施し、メルボルン大学の単位として認定するプログラムである。大阪大学では、「Variation in Japanese Language」という科目が開講され、大阪大学の単位（4単位）が付与された。授業の目的は、日本語上級レベルを持つメルボルン大学の学生が、授業、一日職業体験、ホームステイおよび文化体験を通して日本語のバリエーションについて学ぶことである。メルボルン大学の渡邊講師が招へい教員・プログラムコーディネーターとしてプログラムを遂行し、約3週間で計30コマの授業を実施した（吹田市旭通商店街での職業体験2コマを含む）。各日、渡邊講師によるレクチャー（1コマ）および大阪大学国際教育交流センター非常勤講師4名によるセミナー（1コマ）を実施した。

参加学生は7名で、全員が無事修了した。実施期間・場所については、2020年1月20日（月）～31日（金）は吹田市旭通商店街協同組合の協力により組合事務所にて行われた。2月3日（月）～7日（金）は吹田キャンパスICホール講義室で実施した。1月29日（水）の一日職業体験では5店舗（宝石・時計の店 美王、ハイ・フレンズ英会話スクール、貸衣装店 秋田屋、西重フルーツ、旭通商店街協同組合事務所）から学生の受け入れの協力を得た。

文化体験としては、旭通商店街イベントのボランティア体験、着物の着付け体験、書道体験、吹田歴史文化まちづくりセンター 浜屋敷（古民家）における授業実施（1月31日）、池田高校訪問（高校生との交流）が行われた。

具体的な学習内容と成果については、日本語上級科目として、日本語のバリエーション（敬語、女性語・男性語、書き言葉・話し言葉、方言、若者言葉など）を学習し、豊富に実践することができた。例えば、休日や昼休み、授業後に、ホームステイ先の家族や商店街の人々との会話を通して、学習内容を応用することができ、自然な敬語の使い方や関西方言を学んだ。特に商店街では、常ににこやかな接客態度と婉曲的な言葉遣いが参加学生の印象に残ったようである。また、池田高校訪問では、高校生との交流を通して若者言葉に触れることができた。さらに、職業体験のお礼状を書くことでフォーマルな書き言葉を学習し



【職業体験の様子1】



【職業体験の様子2】



【職業体験の様子 3】



【浜屋敷（古民家）における授業の様子】

た。このように授業とともに職業体験や文化体験を通して、教科書だけでは学べない日本語と日本文化のつながりを学習することができた。

今後もメルボルン大学からの依頼により、UMOSプログラムは継続して実施する予定である。

4. 冬J-ShIP生およびモナシュ研修生対象の石橋商店街コラボイベント

2020年1月11日（土）に、池田市立石橋南小学校において、5週間のモナシュ英語研修に参加する阪大生と冬季J-ShIP生対象のコラボイベントを実施した。イベント終了後には、石橋商店街の協力で、自由参加の餅つき体験イベントも開催された。

このイベントは、阪大生にとっては事前研修の一環として、またJ-ShIP生にとっては授業の一部として参加が義務付けられていた。参加者は阪大生21名、J-ShIP生29名、児童18名であった。イベント開催にあたっては、石橋南小学校草野校長や石橋商店街の菱田氏（タローパン社員）および商店街ボランティア、そして児童保護者からの協力を得た。

イベントでは、阪大生とJ-ShIP生から成るグループが、小学生と阪大教職員が待機する9つの教室を巡回しながら、児童と英語でコミュニケーションを取り、阪大生には通訳を担当してもらった。アンケートの結果、阪大生、J-ShIP学生、小学校校長および保護者から高評価を得た。

また、同日夕方から12日（日）にかけて、石橋商店街と石橋南小学校において、J-ShIP生参加希望者に一泊合宿も実施された。商店街の人々と一緒に商店街散策、夕食作り、花火体験等を行い、夜は小学校の多目的室に宿泊した。翌朝は児童と共に早朝から阪大坂で「ゑびす男選び」（阪大坂を駆け上がり、福男・福女を決定するレース）を見学し、その後石橋商店街にある「タローパン」にてパン作り体験を行った。J-ShIP生にとっても地域の文化に触れる貴重な体験となり、地域の国際交流にも貢献するイベントとなった。



【コラボイベントの様子】



【餅つき体験イベントの様子】



【パン作り体験の様子】



【地域の人々との交流の様子】

5. 短期プログラムの課題と展望

短期の学生交流の活性化については学内の様々なレベルで議論されているが、基本的に派遣・受入双方についてその意義や「テコ入れ」するべきポイントと、現在やや硬直化しつつあるパラダイム変換の可能性について述べておきたい。

【派遣】

一般的に「本学学生を派遣する」と言う課題については、本学に籍を置いたまま学生が海外で単位を付与されるなどの外形的な条件を整えながら、意義ある学びをする、というところに尽きる。デフォルトとなっているのは1もしくは2セメスターの交換留学参加である。古典的な短期から中期の留学形態であり、現在はそこに投入されている学内資源が一番多い。端的に言えば「80年代以来国際部が本来的に仕事にしている」留学形態が交換留学である。ただし派遣留学生を増やしていくためにはこういった学内資源の強化とともに、資源再配分をする事を考えても良いのではないか。今後は認定留学のエージェント等とも組むことで、国際部や本センターが一義的に行っているコンサルタントや学生管理などの業務を一部外出しすることも可能になる。

既にサマースクールなどでは企画や運営に全面的にセンターが関わっていく体制から、必要スペックを提示する企画・設計へと教職員の役割が変わりつつある。もちろん効率化だけに走って丸投げとなることは避けなければならないものの、限られた人員の中でより効率的に「量」を求めなければならないのであれば、センター教員や国際部職員は「渉外・調査・調査」により重点を置く方向は一考に値すると考えている。学外での「まなび」を広く捉えて、インターンシップの機会を増やすなど、従来の学生の「お世話」から、より制度的な整備に注力する方向性を考えていきたい。

【受入】

留学生受入の本道・王道は学位取得留学生の獲得・教育であり、短期の受け入れ（非正規生）は、本来的には補助的な達成目標として扱われるべきであろう。ただし多くの国際化イニシアティブなどで「数」が問われているのも事実であり、また、入学定員の厳格化などによって正規の外国人学生に対して門が狭くなりつつある中、それなりの考慮・工夫が必要であることも認めざるを得ない。

そのような状況で、本センターでは定評のあるサマースクールのJ-ShIPに加え、2018年度には外部機関と連携したExPERT（Extension Program for Education in Real-world Trainings）を運営し、R1年度からはFaculty LedのプログラムであるUMOS（University Melbourne Overseas Programs）の受入をはじめた。ExPERTのような資源（例えば宿舍・教室・教員）の節約と多様化する学生ニーズに応える取り組みについては、もう少し幅を広げていく予定である。またJ-ShIPとExPERTを組み合わせる「日本語集中プラス模擬インターン」といった形態のニーズも、R1年度にはUMOSによって近隣商店街に教室提供を求めるなど、キャンパス実施だけに囚われないプログラム運営によって一部を実現させて好評を得てきた。

本センターが大きく関わり、本学の短プロ受入基幹プログラムの一つであるOUSSEPについても、1996年のプログラム発足以来大きく変わっていない「みんな一緒にクラスで勉強、揃って修了」という護送船団的フィロソフィーを見直す方向である。

更にそれを発展させれば「認定留学受入の受け皿」として、最初から協定校もしくは協定数を超過した人数については参加費を取って受け入れる、ということまでも考えても良いかもしれない。それらの収入

を有効活用することで、受け入れ拡大で疲弊しつつあるセンターへのテコ入れもできるであろう。適切なマネタライズなどの手法を採り入れて運営をテコ入れすると共に「交換留学由来だとかいう運営」と言う従来からの「思い込み部分」「固定化した交換留学パラダイム」を打破する必要がある。

【制度的展望】

上記のような方向性をまとめるとするならば；

- ① 多様なニーズに応える柔軟なプログラム構成
- ② プログラム運営資源の見直しと再配分
- ③ 適切なマネタライズ手法の導入

といったところになるだろうか。以上を実現するためには、現在の制度的枠組みは足かせになる。特に③については、運営余剰金を次年度に持ち越せないために、非常に窮屈なプログラム運営ややりくりが強いられている。

本来的にセンター内で短プロ関係が一番「エクステンション」的な意識・志向が強いと思われる。昨年書いたことだが、上記のような問題意識を持って、自給自足もしくは指定国立大学に相応しい、センター運営への見直しが必要ではないだろうか。短プロ教職員が一部をNPO化するなどの新機軸を打ち出して、将来的な展望を持って2020年代のプログラム設計や展望を描きたいものだと考えている（文責・近藤）。

6. 2019 年度 国際教育交流センタースピーチコンテスト

今年度も吹田キャンパスにおいて国際教育交流センタースピーチコンテストを開催した。「留学からわたしが得たもの」という共通のテーマのもとで、大阪大学で学ぶ外国人留学生と留学帰国者がともにスピーチを披露し、成果を競い合った。審査の結果、日本語日本文化教育センター所属のBADRAL NAMUUNDARIさんが最優秀賞に輝いた。

【2019 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト 受賞者】

最優秀賞	Badral Namuundari	日本語日本文化教育センター	変わり者の私
優 秀 賞	佐伯 壮一郎	医学部	「みんな違って、みんないい」を医学する
優 秀 賞	Shen Shanghong	基礎工学部 (短期交換留学生:iExPO)	一度目の留学から学んだ教訓
特 別 賞	郝 宇	文学研究科	新しい自分に出会って、 もっと大きな世界を見よう
特 別 賞	Shi Yi	外国語学部(短期留学生:Maple)	生活は単に生きていることだけではない
特 別 賞	Do Hoang Anh	日本語日本文化教育センター	留学から考えと愛情の変化
特 別 賞	Dyah Retno Arianti	日本語日本文化教育センター	視点を変える大切さ

【出場者と審査員】



【プログラム】

2019 年度 大阪大学国際教育交流センター スピーチコンテスト プログラム

主 催：大阪大学国際教育交流センター
協 賛：国際ロータリー 2660 地区千里ロータリークラブ
日 時：2019 年 12 月 6 日（金）16：00～18：00
場 所：吹田キャンパス IC ホール 4 階会議室

- | | | | |
|------------------------------------|--|-----------|-------|
| 司会 | 国際教育交流センター | 准教授 | 西村 謙一 |
| 1. 開会の挨拶 | | | |
| | 国際教育交流センター | センター長 教授 | 有川 友子 |
| 2. 来賓紹介 | | | |
| | 千里ロータリークラブ | 青少年奉仕委員長 | 西田 泰晤 |
| | 千里ロータリークラブ | 財団委員長 | 萬年 成康 |
| 3. 審査員紹介 | | | |
| | 千里ロータリークラブ | 青少年奉仕委員長 | 西田 泰晤 |
| | 言語文化研究科 | 准教授 | 越智 正男 |
| | 国際教育交流センター | 准教授 | 北山 夕華 |
| | 国際教育交流センター | 特任准教授 | 後藤 厳寛 |
| | 国際教育交流センター | 特任講師 | 福良 直子 |
| 4. スピーチコンテストの流れおよび審査方法の説明 | | | |
| | 国際教育交流センター | 准教授 | 北山 夕華 |
| 5. 出場者スピーチ | | | |
| 1. 留学、私の人生の一番豊かな経験 | Alizadeh Kashitiban Ehsan（理学部） | | |
| 2. 新しい自分に出会って、もっと大きな世界を見よう | 郝 宇（文学研究科） | | |
| 3. 私の人生の物語 | Hui Wen Koay（理学研究科） | | |
| 4. 視点を変える大切さ | Dyah Retno Arianti（日本語日本文化センター） | | |
| 5. 留学から考えと愛情の変化 | Do Hoang Anh（日本語日本文化センター） | | |
| 6. アメリカと日本の大学入試制度の違いから見た、国の特色の成り立ち | 吉田幸之助（理学部） | | |
| 7. 「留学から学んだこと」とは | Mardhatillah Muhammad Safnan（国際公共政策研究科） | | |
| 8. 生活は単に生きていることだけではない | Shi Yi（外国語学部・Maple） | | |
| 9. 新たな「日本観」 | Yong Wei Jie（工学部） | | |
| 10. 私の成長 | Stroemdahl Natalie Kristina Johanna（外国語学部） | | |
| 11. 一度目の留学から学んだ教訓 | Shen Shanghong（基礎工学部・iExopo） | | |
| 12. 変わり者の私 | Badral Nammundari（日本語日本文化センター） | | |
| 13. 「みんな違って、みんないい」を医学する | 佐伯壮一郎（医学部） | | |
| 6. 表彰式 | | | |
| | 国際教育交流センター | センター長 教授 | 有川 友子 |
| 7. 審査総評 | | | |
| | 国際教育交流センター | 特任講師 | 福良 直子 |
| 8. 受賞者挨拶 | | | |
| 9. 閉会の挨拶 | | | |
| | 国際教育交流センター | 副センター長 教授 | 村岡 貴子 |
| 10. ティーパーティー（IC ホール 2 階 IRIS） | | | |

【募集要項】

2019 年度 大阪大学国際教育交流センター
スピーチコンテスト発表者募集要項

1. 日 時	2019 年 12 月 6 日（金）16：00～18：00（予定） （選考・表彰式・写真撮影を含む）
2. 場 所	吹田キャンパス IC ホール Room 5 and 6
3. 題 目	「留学から私が得たもの」※内容に合わせて副題をつけてください。
4. 主 催	大阪大学国際教育交流センター
5. 目 的	留学で得た知見を発表することで自身の経験を内省し、かつ、 他者の留学経験談から情報を共有する機会とするため。
6. 協 賛	国際ロータリー第 2660 地区千里ロータリークラブ
7. 応募資格	① 本学に在籍する日本語を母語としない留学生 ② 留学等で海外に滞在した経験を持つ学生（学部生院生・国籍を問わない）で大阪大学に在籍している者
8. 応募方法	国際教育交流センターのホームページにある応募用紙（概要 400 字程度）と学生証コピーをメールに添付して送付してください。または、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室へ提出してください。（手書き不可）
9. 応募用紙	Word ファイル（Office 2016 以上）を以下からダウンロードしてください。 【2019 年度留学生スピーチコンテスト応募用紙】 URL：http://www.ciee.osaka-u.ac.jp/
10. 応募締切	2019 年 11 月 15 日（金）
11. 書類審査と発表者の決定	応募者の中から書類選考を通過し、実際のスピーチコンテストにて発表することになった学生さんには、11 月 22 日（金）（予定）までに当選者に直接 E メールで連絡します。また、国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室にて掲示を予定しています。
12. スピーチ要領	① 日本語で 5 分以内の発表 ② 計 5 分の発表（最初に留学先で使用した言語を使い 2～3 分以内のスピーチをし、続いて日本語で同じ内容の 2～3 分以内のスピーチを行うこと） ※パワーポイント使用可。
13. 審査基準	スピーチの内容や構成、メッセージのアピール力や表現能力などを総合的に評価します。言語運用能力は評価項目の一つです。留学生の場合は、日本語学習歴、滞在期間を考慮して審査を行います。
14. 表彰・副賞	スピーチコンテストの後に、表彰式を行います。 ・最優秀賞：賞状・2 万円分 Amazon ギフト券（1 名） ・優秀賞：賞状・1 万円分 Amazon ギフト券（2 名） ・特別賞：賞状・5 千円分 Amazon ギフト券（4 名） ※出場者全員に参加賞があります。
15. 応募先・問い合わせ先	国際教育交流センター IRIS・豊中分室・箕面分室 E-mail：iris@ciee.osaka-u.ac.jp （件名に「スピーチコンテスト応募」と明記してください。）
16. その他	・表彰式終了後、IRIS にてティーパーティーを予定しています。 ・受賞者の方々には、海外留学オリエンテーション等において体験談発表の依頼をする場合があります。

7. CIEE 研究協議会シリーズ—多文化交流の最前線

(1) 2月7日（金）：国立大学法人留学生指導研究協議会

本協議会では文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐の丸岡充氏から「留学生受入れの推進に関する予算案と政策等について」のご説明の後、「インバウンド×アウトバウンド留学のコラボ：ビジョンと実践」について一橋大学国際教育交流センター長の阿部仁氏から、事例を紹介しながらの報告があった。その後3つの分科会にわかれてディスカッションを実施した。分科会での討議、全体討論を通して、留学生サービス（相談・就職・支援）や教育（授業内容）、正課外活動（寮生活・交流活動）など多様な支援について協議が行われた。〈出席者：79名（学内16名・学外63名）〉



(2) 2月21日（金）：第28回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

第28回となる本協議会では、「大阪大学各留学生会の活動と各国の文化について学ぼう Part IV」というテーマで、大阪大学韓国留学生会、大阪大学台湾留学生会の留学生による留学生会の活動と国の文化についての発表があり、その後質疑応答が行われた。本協議会ではホストファミリー、家主など、地域にて様々な形で留学生支援に関わるボランティアや国際交流団体関係者等と大阪大学関係者が一堂に会し、留学生支援に関わる本学と地域とのネットワークを更に充実させている。〈出席者：103名（学内18名・学外85名）〉



(3) 2月18日（火）：第13回専門日本語教育研究協議会

本協議会では、本年度「留学生大量受け入れ新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」というテーマのもと、「東北大学における日本語カリキュラムの概要と国際共修科目」（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 林 雅子講師）および、「日本語教育はどこまで学内クラスで対応可能か」（筑波大学 人文社会系 小野 正樹教授）の2つの講演をいただいた。また、国際教育交流センター難波康治准教授が大阪大学における全学留学生対象の日本語プログラムおよび日本語学習支援システムについて紹介した。



その後、上記2名の講演者に加え、本国際教育交流センターの義永教授を討論者として、急激に変化する環境の中での大学における日本語学習・教育をどのように考えるべきかについて、活発な質疑応答および全体討論が行われ、今後の大学での日本語教育の新たなコースの開発に向けてのアイデアが共有された。〈出席者：59名（学内25名・学外34名）〉

8. ビジネスコミュニケーション講演会

留学生に対するビジネスコミュニケーション支援の試みとして、主に就職を控えた大学院生を対象に、外部から講演者を招き、実際おビジネス場面でのコミュニケーションのあり方や、重要性についての講演会を企画した。今回は、りそな総合研究所にて企業間や地域（自治体）との連携を仲介するコンサルタント事業を主導してこられた藤原 明氏に「銀行がプロデュースする多様な主体による協働を喚起するコミュニケーション」と題して講演をお願いした。

(1) 日時・場所

日 時：2020 年 1 月 14 日（火）午後 4 時 20 分～午後 5 時 50 分

会 場：大阪大学銀杏会館 3F 会議室 B（吹田キャンパス）

講演者：藤原 明（りそな総合研究所リーナルビジネス部長）

(2) 講演概要

① りそな総合研究所の概要とその業務

りそな総合研究所は、1986 年設立。企業や自治体などを対象に、その抱えている課題や将来像の模索、その具現化に向けての相談業務を実施してきた。5 万社以上の企業・自治体を分析してデータベースを構築するとともに、年間 300 件を超える講演やワークショップを通して、量と質の両方において信頼できるコンテンツを提供した。りそな銀行にとっても顧客のニーズや世の中の動向を詳細に把握する上で重要な役割を担っている。



写真 1. 意見交換

② コンサルタント事業の実際

実際の企業ミーティングでは、新事業の展開を希望する各企業と自治体、個人などの参加者が、それぞれの「強み」「課題（弱み）」「理想」「現実」の 4 点に基づいて情報や意見を交換することで、共に事業を行う適切なパートナーを見つけやすくなる場を提供している。

③ コンサルタント事業におけるコミュニケーションのあり方

コンサルタント業務においては、基本的に時間をかけ企業や自治体の現状について話を聞く形をとり、効率よく相談する側の状況や歴史、課題と理想を把握することから始める。コンサルタントの業務にあたる姿勢は、相談する本人自らが安心して課題を明確化し、見つけられるように配慮し、寄り添う態度が求められる。コンサルタントは、「良き司会者（ファシリテータ）」であることが重要である。



写真 2. 受付

(3) 参加者（23 名）

① 所属

言語文化研究科：8 名、人間科学研究科：2 名、社会経済研究所：1 名、医学系研究科：1 名、
高等共創研究院：1 名、情報科学研究科：1 名、工学研究科：3 名、生命機能研究科：1 名、
国際教育交流センター：3 名、関西大学：2 名

② 身分

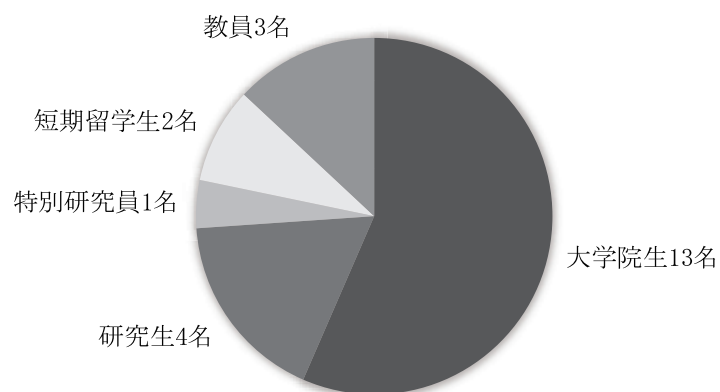


図 1. 参加者の身分

(4) 参加者アンケート結果（回答者数 20 名）

① 講演会をどのように知りましたか。

ポスター：3 名、KOANのお知らせ：2 名、周知のメール：5 名、知人からの紹介：5 名、
授業：5 名

② 講演内容について、どのように思いましたか。

とても役にたった：9 名、役に立った：7 名、どちらとも言えない：4 名、
あまり役に立たなかった：0 名

③ コメント

- いろいろヒントをいただきました。
- やるべきことを考えて、課題を設定して解決していく取り組み方と姿勢が勉強しました。
- 人と企業との向き合い方についてお話いただき、勉強になりました。
- お話をいただき、「やるべきこと（課題）」と「現状」の間での差について分析することの重要性を理解できました。
- グループワークが苦手なのですが、この講演を聞いてグループワークの重要性と人との意見交換の意義を理解できました。
- よくわからない日本語もありましたが、ビジネスの場でのコミュニケーションの取り方について勉強になりました。

④ 今後、ビジネスコミュニケーション関連の催しについて、ご希望をお聞かせください。

- 広告業界のケーススタディに興味があります。
- 今後同様の講演会があれば、参加したいと思います。
- 就職について相談したいです。

Ⅱ．現 況

1．運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してできた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長（本センター教授）、国際教育交流センター専任教員9名、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計25名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、センター長を含む国際教育交流センター教員16名全員（専任教員10名、特任准教授2名、特任講師2名、特任助教2名）及び国際教育共通事務室の室長と室長補佐と係員が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

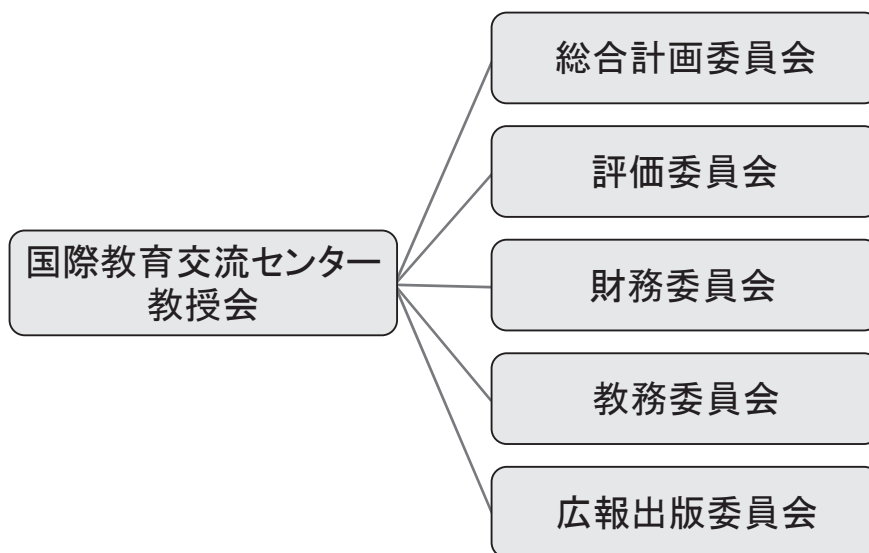


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組 織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授 1、准教授 1、特任准教授 2）、短期プログラム開発研究チーム（教授 1、准教授 1、特任助教 1）、日本語教育研究チーム（教授 3、准教授 3、特任講師 2、特任助教 1）の 3 つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム 1、短期プログラム開発研究チーム 2、サポートオフィス 2）も参画して、実際の業務にあたっている。

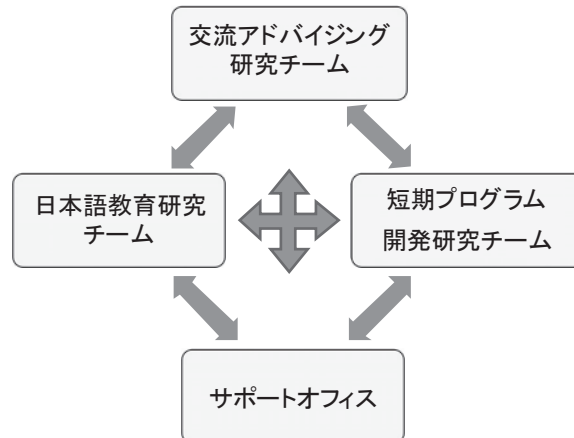


図2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

教育	留学生受け入れ支援	海外留学派遣支援	地域・社会貢献	サポートオフィス
- 日本語集中コース - 留学生日本語プログラム - 国際交流科目 - 全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） - 全学共通教育基礎セミナー - 大学院教育 - 大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム - 超域イノベーション博士課程プログラム、未来共生イノベーター博士課程プログラム - 学部英語プログラムにおける日本語科目と教養科目 - 各種の超短期プログラム	- OUSSEP 運営 - 超短期プログラムの開発と運営 - 留学生オリエンテーション - 留学生を対象としたカウンセリング - 受け入れ・派遣に関わるコーディネーション - 大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 - Brothers and Sisters Program（BSP）の支援 - 留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 - 留学生のキャリア支援	- 短期派遣留学プログラムの開発と運営 - 海外留学相談・アドバイス - 海外留学・研修等危機管理オリエンテーション - 海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 - 海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営	- 留学生交流情報室（IRIS） - 留学生支援ボランティア協議会 - いちょう日本語プログラム - ホストファミリープログラム - 公立学校教員初任者研修 - 国際理解教育への協力 - にはんごテーブル運営のボランティアグループの支援	- 新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 - ビザ取得手続き等各種手続きのサポート - 宿舍手配の支援 - 新規来日者オリエンテーション - 各種ハンドブックやホームページの作成・更新
研究活動				
- 日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 - 多文化社会と留学生交流研究会の開催 - 留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 - 日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究				

図3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2019 年 4 月現在を基本とする。

センター長		有川 友子 (Ph.D、Education)
交流アドバイジング	教授	有川 友子
研究チーム	准教授	岡本 紗知 (Ph.D、Microbiology)
	准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
	准教授	後藤 厳寛 (特任、修士 (学術))
短期プログラム開発	教授	近藤 佐知彦 (Ph.D、Social Science)
研究チーム	准教授	北山 夕華 (博士 (人間科学))
	助教	中野 遼子 (特任、博士 (言語文化学))
日本語教育研究	教授・副センター長	村岡 貴子 (博士 (言語文化学))
チーム	教授	西口 光一 (博士 (言語文化学))
	教授	義永 美央子 (博士 (言語文化学))
	准教授	大谷 晋也 (修士 (言語文化学))
		難波 康治 (教育学修士)
		西村 謙一 (法学修士)
	講師	韓 喜善 (特任、博士 (言語文化学))
		福良 直子 (特任、博士 (言語文化学))
	助教	瀬井 陽子 (特任、修士 (文学)、2019 年 8 月 16 日から)
兼任教員	留学生受入れ	鄭 聖汝 (講師、文学研究科)
	専門教育教員	安元 佐織 (講師、人間科学研究科)
		EL BALTI BELIGH (准教授、法学研究科)
		勝又 壮太郎 (准教授、経済学研究科)
		卓 妍秀 (講師、理学研究科)
		藤田 清士 (教授、工学研究科)
		寺井 智之 (講師、工学研究科)
		中橋 真穂 (助教、工学研究科)
		岡部 孝宏 (講師、基礎工学研究科)
特任講師 (短期)		脊尾 泰子 (2019 年 6 月 16 日 - 8 月 15 日)
非常勤講師		伊藤 創、上仲 淳、梅本 仁美、浦木 貴和、岡崎 洋三、岡田 亜矢子、 小原 俊彦、蔭山 拓、川光 真二、菅 摂子、住吉 秀紀、滝井 未来、 竹内 茜、笹川 恵美子、滑川 恵理子、畑中 香乃、花井 理香、半田 佳 奈子、松田 佳子、山田 真知子 藤澤 好恵、村上 康代、矢部 正人、山崎 深雪
日本語 TA		アンドリアリニアイナ・ファナンテナナ・リアナスア、久保 亜樹、 笹川 史絵、茶園 直人

招へい研究員	Emily Morgan (PhD Candidate, College of Arts, Law and Education, Associate Fellow, HEA, University of Tasmania、2019 年 4 月 24 日－8 月 23 日) 張立偉 (黒竜江大学東語学院日本語学科講師、2019 年 8 月 4 日－8 月 23 日)
招へい講師	譙俊凱 (西南大学外国語学院日本語学部 講師、2019 年 8 月 1 日－8 月 23 日) 鄒善軍 (大連理工大学開発区キャンパス外国語教育センター講師、2019 年 8 月 1 日－8 月 23 日)
特任事務職員	三好 絵美 (留学生交流情報室) 山下 雅世、渡邊 由美子 (短期チーム、2019 年 4 月 1 日から) 北野 智恵 (サポートオフィス、2019 年 4 月 1 日から)、助川 美穂 (サポートオフィス、2019 年 10 月 1 日から)
事務補佐員	垣塚 保子 (短期チーム) 柏原 美佐緒 (短期チーム) 古株 亜季 (短期チーム、2019 年 5 月 7 日から) 山下 結加 (サポートオフィス、2019 年 3 月 1 日から) 勝矢 智子 (日本語教育チーム) 高森 洋志子 (日本語教育チーム)
留学生交流情報室	岩根 由依 (2019 年 12 月 31 日まで)、山岸 美穂、大野 奈苗、 村田 いづみ
スタッフ	網 ひとみ、杉本 莉恵 (2020 年 1 月 1 日から)

4. 今年度の動き

2019 年 4 月に岡本紗知氏は准教授に昇任した。また、北山夕華准教授は 2020 年 3 月末をもって転出し、同年 4 月 1 日から大阪大学人間科学研究科／人間科学部准教授に着任された。後藤厳寛特任准教授は 2020 年 3 月末をもって転出し、九州大学学術研究・産学連携本部特任准教授に着任された。

Ⅲ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施／提供している。学生の多様な日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心に提供するプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験N1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで7段階のレベルを設定している。

* 単位あり正規科目

対象留学生		プログラム名	レベル
大学院生・研究生 (研究留学生)	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中コース	100 ～ 300
	全学	2. 留学生日本語選択コース	100 ～ 700
	全学	3. 学際融合教育科目*	600 ～ 700
学部留学生	一般正規生	4. 全学共通教育：第2外国語／グローバル理解*	700
	学部英語コース	4'. : 第1外国語*	100 ～ 600
短期留学生		5. 国際交流科目（日本語）*	100 ～ 600
日韓共同理工系留学生プログラム生		6. 日韓共同理工系留学生プログラム	400・500

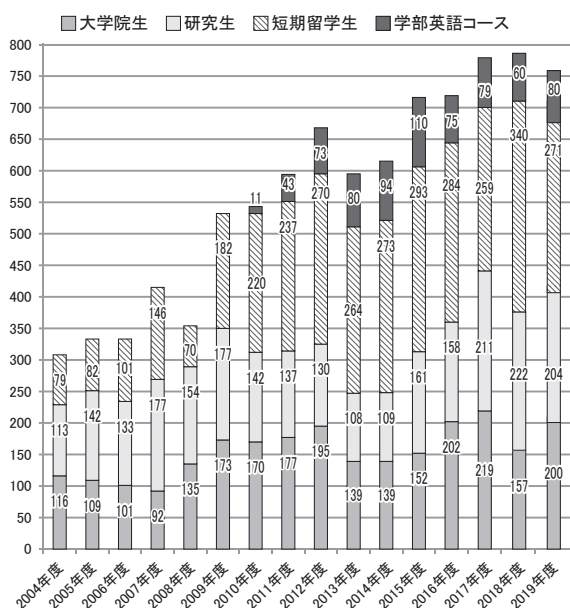


図1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生（上表の4）は含まない）

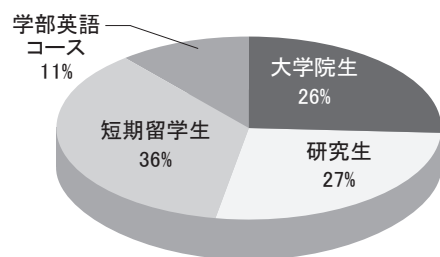


図2 2019年度履修者身分別分布

2019年度の春～夏学期・秋～冬学期の履修者数合計は755名にのぼり（図1）、身分別分布（図2）では、短期留学生が36%と最大の割合を占める。2004年度以降の推移（図1）から、総履修者数がこの15年で約2.5倍に増加していることがわかるが、短期留学生の増加および学部英語コース新設が日本語履修者数急増の要因となっている。文部科学省の国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）およびスーパーグローバル大学創生支援事業による留学生増の方針を実現するための大学の国際化戦略、すなわち、学部英語コースの創設や短期留学生の積極的受け入れといった取り組みを反映した結果である。

なお、上表6に示した「日韓共同理工系留学生プログラム」は、文部科学省の「日韓共同高等教育留学生交流事業（第2次）」が2019年度で終了し、それをもって本センターでの受け入れも終了となる予定である。

1. 日本語集中コース

日本語集中コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした15週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語予備教育生（以下、学生）の大部分は、文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

学生は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100、IJ200、IJ300の3グループ・4クラスに分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には研修生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を随時指導教員に報告し、日本語研修と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

(1) IJ100A/100B

① 概要

100クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年受講生が多い春～夏学期には、より学生のレベルに応じたきめ細かい教育を実施するため、4クラス体制をとっている。授業時間数は1週間当たり15コマ（春・夏学期は14コマ）で、うち4コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

② 時間割

第50期・第51期 日本語集中コースIJ100A, IJ100Bクラス時間割（令和元年度）

第50期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30-12:00	講義 IJ100A, 100B	チュートリアル1 IJ100A	チュートリアル IJ100B	チュートリアル IJ100A	チュートリアル IJ100B
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	プレゼンテーション IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B
4時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	プレゼンテーション IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B	コミュニケーション行動 IJ100A, IJ100B
5時間目 14:40-16:10			講義 IJ100A, IJ100B		

第 51 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30-12:00	講義 IJ100	チュートリアル 1 IJ100	チュートリアル 2 IJ100	チュートリアル 3 IJ100	チュートリアル 4 IJ100
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	プレゼンテーション IJ100	コミュニケーション行動 IJ100	コミュニケーション行動 IJ100

(2) IJ200

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は 1 週間当たり 12 コマで、10 コマの 200 クラス専用授業とチュートリアル 1 コマおよび選択必修の漢字・語彙クラスで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200 クラス日本語（コミュニケーション行動）（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

② 時間割

第 50 期・第 51 期 日本語集中コース IJ200 クラス時間割（令和元年度）

第 50 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50-10:20				漢字と語彙 漢字系 JK202	
2 時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系 JK201	会話と文法	チュートリアル		
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動	会話と文法	読解	コミュニケーション行動	専門基礎プレゼンテーション
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動	読解		コミュニケーション行動	専門基礎プレゼンテーション

第 51 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50-10:20				漢字と語彙 漢字系 JK202	
2 時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系 JK201	会話と文法	チュートリアル	読解	
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション行動	会話と文法	読解	コミュニケーション行動	専門基礎プレゼンテーション
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション行動			コミュニケーション行動	専門基礎プレゼンテーション

※漢字と語彙：JK201 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

(3) IJ300

① 概要

300 クラスは、日本語を1～2年、約200～300時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は1週間当たり9コマで、「コミュニケーション行動」6コマ、「研究計画書作成」1コマ、「漢字と語彙」1コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1コマで構成されている。授業では、現代社会に関するいくつかのトピックおよび日本語学習者に関するストーリーを取り扱い、読解、聴解、ディスカッション、エッセイの作成を通じて中級レベルの日本語技能の習得を目指す。「漢字と語彙」では語彙を学習する。

② 時間割

第50期・第51期 日本語集中コースIJ300 クラス時間割（令和元年度）

第50期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20				漢字と語彙 漢字系JK302	
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系JK301	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	研究計画書作成	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	チュートリアル

第51期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20				漢字と語彙 漢字系JK302	
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系JK301	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	研究計画書作成	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	コミュニケーション行動	チュートリアル

※漢字と語彙：JK301は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

○コーディネータ

村岡貴子（全体・IJ200クラス）、西村謙一（IJ300クラス）、西口光一（IJ100Aクラス）、
韓喜善（IJ100Bクラス）

○ 学生数と身分別内訳（IJ100Bは春～夏学期（第50期）のみ開講のため秋～冬学期（第51期）は“—”と記す）

クラス別人数

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第50期	11	9	11	10	41
第51期	8	—	6	8	22
合計	19	9	17	18	63

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第50期	27	0	14	41
第51期	3	3	16	22
合計	30	3	30	63

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第50期	11	8	5	3	27
第51期	2	—	0	1	3
合計	13	8	4	4	29

※2 学内応募クラス別内訳

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第50期	0	1	6	7	14
第51期	5	—	6	5	16
合計	5	1	12	12	30

※3 教員研修クラス別内訳

	IJ100A	IJ100B	IJ200	IJ300	計
第50期	0	0	0	0	0
第51期	1	—	0	2	3
合計	1	0	0	2	3

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100A		IJ100B		IJ200		IJ300		計
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	
第50期	9	2	7	1	3	2	1	2	27
第51期	1	1	—	—	—	—	—	1	3
合計	10	3	7	1	2	2	1	3	29

○学生の出身国と配置（進学）先一覧

学生の出身国

国名	第50期	第51期
アフガニスタン	1	
アメリカ合衆国	1	
インドネシア		6
イラン	1	
エチオピア	3	
オーストリア		1
ガンビア	1	
ギニア	1	
キューバ	1	
サモア独立国	1	
シリア	2	
スーダン	1	
タイ王国	2	5
タンザニア	1	
チュニジア	1	
ナイジェリア	1	
パキスタン	1	
フィリピン		1
ブラジル	2	
ブルガリア	1	
ベネズエラ	1	
ペルー	1	
マラウイ	1	
マレーシア	2	2
メキシコ	1	1
モザンビーク	1	
モンゴル	1	
ヨルダン	1	
中華人民共和国	10	6
合計	41	22

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	第50期	第51期
医学系研究科	3	
医学系研究科保健学	1	
基礎工学研究科	1	
経済学研究科	1	
言語文化研究科（言語社会専攻）		1
工学研究科	11	7
国際公共政策研究科	2	
歯学研究科	2	1
情報科学研究科	3	
微生物病研究所	1	3
理学研究科	3	1
レーザー科学研究所		1
産業化学研究所	2	2
連合小児発達学研究科		1
人間科学研究科	2	
蛋白質研究所	1	
奈良先端科学技術大学	8	1
大阪教育大学		3
総合研究大学院大学		1
総計	41	22

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要となるアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目を開講し、学内の留学生の幅広い日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受け、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ～ 数科目選択できるように設定されている。

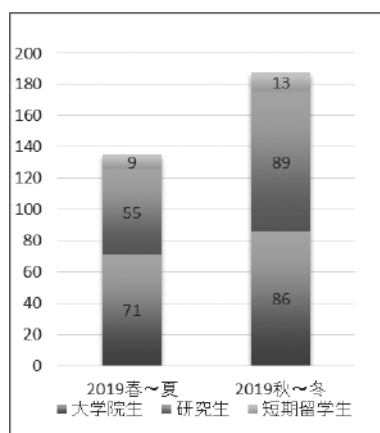
○開講科目

100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語（JB）および漢字と語彙（JK）で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、専門をより深く学ぶための日本語をスキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	アカデミック リーディング	アカデミック ライティング	アカデミック コミュニケーション	ビジネス日本語 コミュニケーション
100 (入門)	JB100					
200 (初級)	JB200	JK201 (非漢字系) もしくはJK202				
300 (初中級)	JB300	JK301 (非漢字系) もしくはJK302				
400 (中級)				JW400/500	JC400/500	
500 (中上級)						
600 (上級)			JR600/700	JW600/700	JC600/700	
700 (超上級)						BJ500/600/700

○履修登録者数

実数で春～夏学期 135 名、秋～冬学期は 188 名の計 323 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、大学院生（春～夏学期 71 名、秋～冬学期 86 名）や研究生（春～夏学期 55 名、秋～冬学期 89 名）の割合が高い。部局別では、工学研究科（春～夏学期 52 名、秋～冬学期 68 名）を筆頭に、15 研究科／学部および 5 研究所 2 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えていることがわかる。



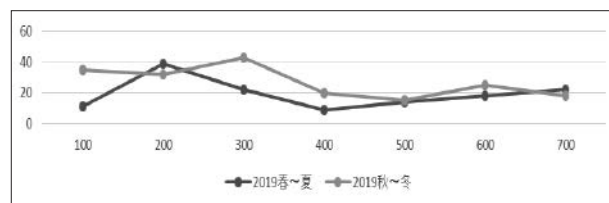
学期・身分別受講者数



秋～冬学期広報用ポスター

○履修者のレベル分布

春～夏学期は初級（レベル 200）の履修者が特に多かった。秋～冬学期には、入門（レベル 100）～初中級（レベル 300）の履修者が多い傾向にある。



履修者のレベル分布

3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、「第2外国語」と「グローバル理解」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「グローバル理解」として履修する位置づけとしている。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生が協働してプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2014年度後期（現：秋～冬学期）からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。2016年度と2018年度には、それまで増やしてきたコマを整理し直し、学生の受講機会の維持に配慮しつつ、受講者の少なかった授業をそれぞれ2コマ・1コマ削減した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「学問への扉（マチカネゼミ）」「アドヴァンストセミナー（いずれも「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、2019年度には計26コマ（実質17コマ）を提供した。

なお、日本語関係科目は、他の外国語関係科目と同様、2018年度に発足したマルチリンガル教育センターが所管することとなり、授業担当者全員が当該センターの兼任教員となるとともに、1名が運営に携わった。

○マルチリンガル教育センター兼任教員

有川 友子 教授	村岡 貴子 教授	義永 美央子 教授
難波 康治 准教授	西村 謙一 准教授	北山 夕華 准教授
岡本 紗知 准教授	後藤 厳寛 特任准教授	福良 直子 特任講師
大谷 晋也 准教授（マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員）		

○提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期1コマ計3コマ提供）

大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。

- ・専門日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期3コマ計5コマ提供）

各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) グローバル理解

- ・多文化コミュニケーション（日本語）

（2単位：春～夏学期5コマ・秋～冬学期4コマ計9コマ提供）

下記（3）の基礎セミナーを受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 学問への扉（マチカネゼミ）（春～夏学期）・アドヴァンストセミナー（秋～冬学期）

- ・多文化コミュニケーションセミナー（2単位：春～夏学期5コマ・秋～冬学期4コマ計9コマ提供）

上記（2）の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○共通教育提供科目・担当者一覧

春～夏学期

(1) 第2外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	福良 直子
総合日本語	大谷 晋也
専門日本語	義永美央子
専門日本語	難波 康治

秋～冬学期

授業科目名	担当者
総合日本語	福良 直子
専門日本語	大谷 晋也
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

(2) グローバル理解

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	北山 夕華
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	後藤 厳寛

(3) 学問への扉（マチカネゼミ）

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	北山 夕華
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子

アドヴァンストセミナー

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	後藤 厳寛

4. 国際交流科目

本学では、英語（もしくはその他の外国語）で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目（JA）を提供している。また、本科目は、学部英語コースの学生も第一外国語科目として履修している。各JAクラスでは、90分の授業が週に3コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようなカリキュラムを編成し、6レベル（秋～冬学期は5レベル）で各2トラックを開講した。トラック1は主として学部英語コース学生とiExPO、Frontier-Lab@OsakaU等の短期留学生、トラック2は主としてOUSSEP学生が受講している。秋～冬学期には特に入門レベルの受講希望者が急増したことと、人間科学部で開講されたモナシユカレッジ学生を対象とした短期プログラムに日本語の科目を提供したことにより、JA100のみ5トラックを開講した。どのレベルでも専任教員が担当する授業（lecture）は複数トラックの合同クラスとして開講し、トラック間の交流を図るとともに、限られた人員・予算の中で学生数の増加に対応するよう努めている。

また本年度秋～冬学期から、600レベルのクラスを再編し、「グローバル理解演習（JGU600）」という名称で、内容・言語統合型学習（CLIL）を取り入れた授業を新しく開講した。

○提供科目と担当者一覧

春～夏学期		秋～冬学期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波康治・岡田亜矢子・蔭山 拓	JA100 トラック1	難波康治・岡田亜矢子・蔭山 拓
JA100 トラック2	難波康治・花井理香	JA100 トラック2	難波康治・花井理香
JA200 トラック1	義永美央子・上仲 淳・矢部正人	JA100 トラック3	難波康治・住吉秀紀
JA200 トラック2	義永美央子・半田佳奈子	JA100 トラック4	難波康治・山田真知子・伊藤 創
JA300 トラック1	西口光一・上仲 淳・滝井未来	JA100 トラック5	韓喜善・浦木貴和
JA300 トラック2	西口光一・岡崎洋三	JA200 トラック1	福良直子・上仲 淳・矢部正人
JA400 トラック1	福良直子・田中真衣・小原俊彦	JA200 トラック2	福良直子・半田佳奈子
JA400 トラック2	福良直子・矢部正人	JA300 トラック1	西口光一・上仲 淳・川光真二
JA500 トラック1	難波康治・菅 摂子・藤澤好恵	JA300 トラック2	西口光一・岡崎洋三
JA500 トラック2	難波康治・滝井未来	JA400 トラック1	義永美央子・田中真衣・小原俊彦
JA600 トラック1	大谷晋也・岡崎洋三・小原俊彦	JA400 トラック2	義永美央子・矢部正人
JA600 トラック2	大谷晋也・山田真知子・伊藤 創	JA500 トラック1	難波康治・菅 摂子・藤澤好恵
		JA500 トラック2	難波康治・滝井未来・竹内 茜
		JGU600-a	大谷晋也
		JGU600-b	岡崎洋三
		JGU600-c	小原俊彦

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力や大学院修了後の進路を視野に入れたキャリアデザインの必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語・アカデミックリーディング」「上級専門日本語・アカデミックライティング」「上級専門日本語・アカデミックコミュニケーション」「キャリアデザインとビジネスコミュニケーション」の4科目を学際融合教育科目（いずれもセメスター科目）として提供している。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するように努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○学際融合教育科目・担当者一覧

春～夏学期

授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	義永美央子
キャリアデザインとビジネスコミュニケーション	魚崎 典子 韓 喜善

秋～冬学期

授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語・ (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	瀬井 陽子

IV. 日韓共同理工系学部留学生プログラム

日韓共同理工系学部留学生プログラム（以下、KOSMOSプログラム）は、日本の国立大学の理工系学部
に韓国人留学生を受け入れる留学生事業である。プログラムは平成12年度に始まり、令和元年度で20年
となる最終年度をむかえた。大阪大学では、プログラム初年度から受入を開始した。本プログラムでは、
学部入学前に1年間の予備教育を行っており、前半を韓国で、後半を大阪大学で実施している。

全学的な受け入れ体制のもとで実施されているKOSMOSプログラムは、日本語教育と専門教科教育の2
つの教育課程から構成されている。数学、物理、化学、英語といった専門教科は受け入れ学部の専門教育
教員が担当し、日本語科目については、国際教育交流センター教員がコーディネーターとなり、授業の計
画および実施に携わっている。

週7コマ開講されている日本語科目では、日常生活において日本語で円滑にコミュニケーションを行い、
かつ大学生活で必要とされる総合的な日本語を運用する能力を養成することを目標とし、多様な科目を配
置している。さらに、大学では自ら問題を発見し、分析し、その結果を発信する能力が求められることか
ら、発表やディスカッション、レポート作成といった活動も重視している。

また、国際教育交流センターの日本語教育研究チームの教員が「ホームルーム」の時間を活用して生活
面でのアドバイスを行っている。さらに、交流アドバイジング研究チームとも連携して、課外活動として
地域の学校における国際理解教育プログラムへの参加も促している。

1. 時間割

第2次第10期日韓共同理工系学部留学生対象予備教育時間割（令和元年度）2019.10-2020.2

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	(吹田)	(豊中)	(吹田)	(豊中)	(吹田)
1時間目 8:50-10:20		共通教育 数学聴講 解析学			
2時間目 10:30-12:00	専門基礎 日本語① (蔭山) Room 4	専門教科 化学(1) (立光) C-409	理系 日本語① (村上) Room 4	日本事情・ 異文化適応 (花井) C-405	専門教科 英語 (スミス) Room 4
昼休み			ホームルーム		
3時間目 13:00-14:30	専門教科 物理(I) (寺井) Room 4	専門教科 化学(2) (立光) C-409	理系 日本語② (村上) Room 4	専門教科 数学(2) (畑中) C-S4	専門基礎 日本語③ (上仲) Room 4
4時間目 14:40-16:10	専門教科 物理(II) (金) Room 4	専門教科 数学(1) (宮田) C204	専門基礎 日本語② (笹川) Room 4		専門基礎 日本語④ (上仲) Room 4
5時間目 16:20-17:50					

※月曜日・水曜日・金曜日は吹田で授業（国際教育交流センターICホール）

※時間割は次の順で記載……授業名、()内：講師名、下段：講義室名

2. 学生数と進学先

令和元年度は、5名の学生を受け入れた。進学先は、基礎工学部3名、工学部1名、理学部1名である。

3. 令和元年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会

6月28日に岡山大学が当番校となって日韓共同理工系学部留学生事業協議会が開催され、本センターおよび国際学生交流課からは村岡貴子・本センター教授、松林慶・国際学生交流課事務職員の2名が参加した。今年で最後となる同協議会では、日本の文部科学省と韓国国立国際教育院、日本側受入大学が一同に会し、予備教育を含めた本事業のより効果的な実施に向けて検討を行い、あわせて第3次事業について認識の共有を図ることを目的として議論が行われた。

(1) 日 程：2019年6月28日（金）

(2) 場 所：岡山大学

(3) 講 演

(1) 「留学生政策をめぐる現状と取組」（文部科学省高等教育局 学生・留学生課 小栗孝明 専門官）

- ・資料に基づき、1) 外国人留学生の受け入れ、2) 受け入れに関する政府全体の方針、3) 受け入れに関する支援策等、4) 日本人の海外留学の現状と施策、5) 国費留学生の現状・施策・フォローアップ等について説明があった。その中で、大学教育の国際的な質保証など、教育プログラムの質の向上を推進することが示された。また、国費留学生（大学推薦）は、平成30年度以降、一般枠の推薦可能者数を段階的に縮減し、特別枠の採用枠に移行することも注意点として言及された。

(2) 「日韓共同高等教育留学生交流事業（第3次日韓事業）」

（文部科学省高等教育局 学生・留学生課 留学生交流室 松田直久 国費留学生係長）

- ・日韓共同高等教育留学生交流事業について、1998年の日韓両首脳による交流プログラムの充実の提言から始まった経緯の説明の後、第2次第10期までに40大学で合計2024名の受け入れの実績が報告された。2020年以降は第3次事業として、両国で合計400人の留学生交流を計画しているとのこと。受け入れ関係の情報としては、開始時期のズレはあるが、理工系の修士・博士課程の国費大使館推薦枠15人、同推薦枠で学部1年間の日本語・日本文化コース25人、3か月以内の短期コースは年間160人であるが、従来と異なり、国立だけでなく、公立・私立大学も含めた全体の数である。なお、短期コースは、すでに韓国側での希望大学がリストアップされており、各大学が交流協定締結ののちに実施する必要があるとの説明があった。なお、日本から韓国の大学への200人派遣の詳細は、講演④で説明された。

(3) 「日韓共同理工系学部留学生の指導」

（広島韓国教育院 黄恵正 院長）

- ・表題に関して、1) 韓国教育院の紹介、2) 留学生の指導、3) 大学との協力、4) 各地域の交流の事例、について多数の写真や図をもとに詳細な説明があった。その上で、日韓両国の未来の人材を共に養成することへの期待が強調された。

(4) 「日韓共同高等教育留学生交流事業（日本人奨学生招請）」

（大韓民国 国立国際教育院 李秀娟 教育研究士）

- ・講演②に関連して、韓国の大学が日本人学生を受け入れる教育プログラムについて、大学院、学部、短期の各コースについて、選考の流れや、奨学金などについて説明があった。大学院の場合は韓国語、韓国文化、専攻基礎、研究計画書の作成等の1年間の予備教育があり、韓国語能力試験（TOPIK）が3級以上の者のみ受け入れられる。韓国側の受け入れ大学は現在10大学が予定されている（1大学のみ応募可）。日本の大学側には、学生交流協定の締結の拡大や単位認定、優秀な学生の推薦が求められた。

（4）全体会議

テーマ：日韓理工系プログラムによる人材育成の活用を考える

討議内容1：「日韓プログラムによる輩出人材の活用」

- （1）「日韓共同理工系学部留学生（日韓生）キャリアパス・パターン」

（金沢大学国際機構 太田亨教授）

- （2）「日韓理工系学部留学生の卒業の進路と社会における活躍

—横浜国立大学卒業生の事例を通して—

（横浜国立大学 国際戦略推進機構 金蘭美准教授）

- （3）「日韓理工系学生の今後の社会人としての活躍に対する期待

—大阪大学の事例をもとに—

（大阪大学国際教育交流センター 村岡貴子教授）

討議内容2：「日韓プログラム参加学生のネットワークについて」

イ・ジヒョン氏（第1次10期生：岡山大学理学部卒業）

ファン・ユンヨン氏（第2次5期生：同大学理学部卒業）

パク・ジェヒ氏（第2次7期生：同大学工学部3年次在学中）

討議内容3：パネルディスカッション

4. 韓国教育部国際教育院および大阪韓国教育院との連携

10月25日に、韓国教育部国際教育院の李秀娟教育研究士および韓国大阪教育院の金次守院長が本学を来訪した。本センターおよび国際学生交流課からは村岡貴子・本センター教授、西村謙一・同准教授および橘弘治・国際学生交流課長が対応し、本学の日韓共同理工系学部留学生の状況について意見交換を行った。協議では、1）来日前の韓国での予備教育の後の日本語能力、2）学生の日本語能力の個人差への対応、3）成績や単位取得の状況等について意見交換を行ったほか、今後の教育プログラムや学生指導について両国の教育関係者がより連携を行うことの重要性について改めて確認した。

11月15日に、韓国総領事館の梁鎬錫教育担当領事および大阪韓国教育院の金次守院長と懇談会を行った。本センターおよび国際学生交流課からは村岡貴子教授、西村謙一准教授、橘弘治国際学生交流課長が参加し、日韓共同理工系学部留学生の運営にあたって緊密に連絡を取り合うことを改めて確認した。

V. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムである。平成 30 年度は春学期に 73 名、秋学期には 98 名にのぼる多数の交換留学生を受け入れた。G30 以来、SGU や指定国立大学などで非正規生を含めた留学生受入に数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプの留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。また日本人学生と留学生が英語で国際交流科目を共に学ぶ状況を学内に作るための戦略プログラムとしての性格もある。

また平成 30 年度も奨学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営しており、かつては 8 住戸 16 人を住まわせていた宿舎を、本年度は 5 住戸 15 人の 3 人シェア体制へ変更するなど、留学生受入スキームのインフラ整備など、比較的安定した運営基盤を活かし、全学プログラムの運営合理化に向けての先導的な役割を引き続き果たしている。

教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 2 並びに事務補佐員 3 名から構成される「短期留学開発研究チーム」によって運営されている一プログラムという位置づけで、OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。また平成 30 年度末まで 10 年単位で集めてきた授業アンケートデータの分析は近く発表できる見込みである。

1. 行 事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2019年4月から2020年3月まで）

2019 度春夏学期

月	日	曜日	行 事 等
4	1	日	4月受け入れ学生 大阪到着 市役所手続き等（～4/3（水））
	4	木	交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO）
			自主研究指導教員面談（吹田キャンパス）
			吹田キャンパスツアー
			OUSSEPオリエンテーション
			ホストファミリーとの出会いの会
	5	金	JASSO奨学金受給者ミーティング
			UR学生オリエンテーション
			豊中キャンパスツアー
			自主研究指導教員面談（豊中キャンパス）
	8	月	国際交流科目（平成31年度 春・夏学期）開始
5	8～11		学生定期健康診断（豊中キャンパス）
	12	金	国際交流科目（平成31年度 春・夏学期）履修届提出締め切り
	18～25		学生定期健康診断（吹田キャンパス）
	22	月	自主研究 Registration & Study Plan Form 提出締め切り
6	1	水	いちよう祭準備
	2	木	いちよう祭
	3	金	いちよう祭 祭日
	4	土	いちよう祭片付け
7	29	土	見学旅行（高野山）
	30	日	
7	9	月	日本食文化調理体験（かき氷）
	29	月	フェアウェルパーティー
8	6	火	国際交流科目（平成31年度 春・夏学期）終了
	7	水	夏季休業開始 終了学生随時帰国

2019 年度秋冬学期

月	日	曜日	行 事 等
9			9 月受入れ学生大阪到着（～ 9/21（金）） 市役所手続き等（～ 9/26（水））
	26	木	交換留学生オリエンテーション（OUSSEP, FrontierLab, iExPO）
			自主研究指導教員面談（豊中キャンパス）
			豊中キャンパスツアー
			OUSSEP オリエンテーション
	27	金	JASSO 奨学金受給者ミーティング
			UR 学生オリエンテーション
			吹田キャンパスツアー
			ホストファミリーとの出会いの会
			自主研究指導教員面談（吹田キャンパス）
10	1	火	国際交流科目（2019 年度 秋・冬学期）授業開始
	7	月	国際交流科目（2019 年度 秋・冬学期）履修届提出締め切り
			自主研究 Registration & Study Plan Form 提出締め切り
	21	月	国際交流科目（2019 年度 秋・冬学期）履修登録変更届提出締め切り
11	1	金	大学祭準備 授業なし
	2～4	土-月	まちかね祭大学祭
	5	火	My Country & My University 発表会（EXPOCITY 光の広場） 大学祭片付け授業なし
	9	土	見学旅行（宮島・広島）
	10	日	
12	2	月	日本食文化調理体験（お好み焼）
	25	水	冬期休業（～ 1/5（日））
1	17	金	大学入試センター準備のため休講
2	4	火	フェアウェルパーティー
	10	月	国際交流科目（2019 年度 秋・冬学期）終了
	12	水	春季休業開始 終了学生随時帰国

2. 2019 年度 春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2019 年度 春夏学期 OUSSEP 学生名簿（1/2）

No.	国 籍	出 身 校 名	所属名
1	アメリカ合衆国	テキサス A&M 大学	理学部
2	アメリカ合衆国	ジョージア大学	外国語学部
3	アメリカ合衆国	ジョージア大学	人間科学部
4	イギリス	パデュー大学	理学部
5	イギリス	リーズ大学	外国語学部
6	イギリス	ダーラム大学	文学部
7	イギリス	ダーラム大学	基礎工学部
8	イギリス	リーズ大学	人間科学部
9	インドネシア	インドネシア大学	経済学部
10	インドネシア	ガジャマダ大学	人間科学部
11	インドネシア	シンガポール国立大学	人間科学部
12	オーストラリア	モナシュ大学	法学部
13	オーストラリア	オーストラリア国立大学	人間科学部
14	オランダ	グローニンゲン大学	経済学部
15	カナダ	マックマスター大学	理学部
16	カナダ	マックマスター大学	人間科学部
17	カナダ	マックマスター大学	理学部
18	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	外国語学部
19	シンガポール	シンガポール国立大学	理学部
20	シンガポール	シンガポール国立大学	経済学部
21	シンガポール	シンガポール国立大学	理学部
22	スペイン	マドリード自治大学	文学部
23	タイ	チュラロンコン大学	人間科学部
24	タイ	カセサート大学	外国語学部
25	台湾	国立交通大学	理学部
26	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学部
27	ドイツ	ベルリン工科大学	人間科学部
28	ドイツ	アウクスブルク大学	外国語学部
29	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	人間科学部
30	ドイツ	アーヘン工科大学	工学研究科
31	ドイツ	ビーレフェルト大学	理学部
32	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	法学部
33	ドイツ	アーヘン工科大学	工学部
34	ドイツ	ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	経済学研究科
35	ドイツ	ウィーン大学	経済学研究科
36	ドイツ	カールスルーエ工科大学	工学研究科
37	ドイツ	ビーレフェルト大学	基礎工学研究科
38	フィリピン	アテネオデマニラ大学	外国語学部
39	フィンランド	ユヴァスキュラ大学（数理学部）	理学部（部局間）

2019 年度 春夏学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	所属名
40	ブラジル	サンパウロ大学	理学部
41	ブラジル	サンパウロ大学	基礎工学部
42	ブラジル	カンピーナス州立大学	工学部
43	フランス	ストラスブール大学	法学研究科
44	フランス	ストラスブール大学	外国語学部
45	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
46	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
47	フランス	グルノーブル大学連合	工学研究科
48	フランス	リール政治学院	外国語学部
49	フランス	リール政治学院	外国語学部
50	フランス	ストラスブール大学	人間科学部
51	フランス	エックス・マルセイユ大学	外国語学部
52	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
53	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
54	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
55	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
56	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
57	ベトナム	ハノイ国家大学	人間科学部
58	ベトナム	ハノイ国家大学	外国語学部
59	ペルー	ローマ教皇庁立ペルーカトリック大学	工学部
60	香港	香港大学	人間科学部
61	香港	香港科技大学 (理学部)	理学部 (部局間)
62	香港	香港大学	人間科学部
63	メキシコ	メキシコ国立自治大学	外国語学部
64	メキシコ	メキシコ国立自治大学	外国語学部
65	メキシコ	メキシコ国立自治大学	人間科学部
66	メキシコ	メキシコ国立自治大学	経済学部
67	ロシア	サンクトペテルブルク大学	人間科学部
68	ロシア	サンクトペテルブルク大学	外国語学部
69	ロシア	サンクトペテルブルク大学	文学部
70	ロシア	サンクトペテルブルク大学	理学部
71	台湾	国立台湾大学	法学部
72	大韓民国	延世大学	文学部
73	大韓民国	ボルドー大学	理学部
74	大韓民国	ジョージア大学	理学部
75	中華人民共和国	武漢大学	文学部
76	中華人民共和国	南京大学	法学部
77	中華人民共和国	南洋理工大学	基礎工学部
78	中華人民共和国	上海交通大学	人間科学研究科
79	中華人民共和国	上海交通大学	経済学部
80	中華人民共和国	北京大学	言語文化研究科
81	中華人民共和国	ハイデルベルク大学	理学研究科

2019 年度 春夏学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本芸術瞥見	A Glimpse at Japanese Art	文学研究科	高安 啓介
2	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	人間科学研究科	Mohacsi Gergely
3	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学研究科	Paola Cavaliere
4	比較社会学	Comparative Sociology	人間科学研究科	Scott North
5	日本の社会階層	Social Stratification in Japanese Society	人間科学研究科	Paola Cavaliere
6	家族と結婚の社会学入門	Introduction to Sociology of Marriage and Family	人間科学研究科	Viktoriya Kim
7	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
8	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
9	バイオエシックスとヘルス・ロー	Bioethics and Health Law: Legal Issues Concerning Biotechnology, Medicine and Health Care System	法学研究科	瀬戸山 晃一
10	生物学演習 A	Seminar in Biology A	理学研究科	高木 慎吾
11	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学研究科	祖父江 友孝
12	バイオテクノロジー入門	Introduction of Biotechnology	工学研究科	渡邊 肇
13	デリバティブ市場の数学	The Mathematics of Derivatives Market	基礎工学研究科	深澤 正彰
14	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国部学部	筒井 佐代
15	イノベーションの管理と変遷	Managing Innovation and Change	インターナショナルカレッジ	三森八重子
16	オンライン・リソースを活用した L2 学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚崎 典子
17	日本の社会とイデオロギー	Japan; Society and Ideology	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
18	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
19	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
20	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	福良 直子
21	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2		
22	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
23	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
24	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
25	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2		
26	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
27	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
28	総合日本語 JA600-トラック 1	Japanese JA600 - Track 1	国際教育交流センター	大谷 晋也
29	総合日本語 JA600-トラック 2	Japanese JA600 - Track 2		
30	科学英語入門	Introduction to Scientific English	国際教育交流センター	岡本 紗知
31	異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	国際教育交流センター	中野 遼子
32	教育の社会学	Sociological Perspectives on Education	国際教育交流センター	北山 夕華
33	自主研究 A 自主研究 B 自主研究 C	Independent Study A Independent Study B Independent Study C		各自主研究担当教員

3. 2019 年度 秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2019 年度 秋冬学期 OUSSEP 学生名簿 (1/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	所属名
1	アメリカ合衆国	ジョージア大学	文学部
2	アメリカ合衆国	ワシントン大学	文学部
3	イギリス	リーズ大学	文学部
4	イギリス	リーズ大学	理学部
5	オーストラリア	モナシュ大学	外国語学部
6	オーストリア	ウィーン大学	外国語学部
7	オランダ	グローニンゲン大学	外国語学部
8	オランダ	デルフト工科大学	基礎工学研究科
9	オランダ	デルフト工科大学	基礎工学部
10	オランダ	デルフト工科大学	工学部
11	オランダ	グローニンゲン大学	人間科学部
12	オランダ	デルフト工科大学	理学部
13	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	外国語学部
14	カナダ	マックマスター大学	経済学部
15	カナダ	トロント大学	人間科学部
16	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学	外国語学部
17	大韓民国	漢陽大学	経済学部
18	大韓民国	ソウル大学校	工学部
19	大韓民国	中央大学	理学部
20	大韓民国	延世大学	文学部
21	シンガポール	シンガポール国立大学	人間科学部
22	スペイン	マドリッドアウトノマ大学	文学部
23	中華人民共和国	復旦大学	経済学部
24	中華人民共和国	清華大学	人間科学部
25	中華人民共和国	北京師範大学	人間科学部
26	中華人民共和国	南京大学	文学部
27	中華人民共和国	南京大学	文学部
28	デンマーク	コペンハーゲン大学	理学研究科
29	ドイツ	カールスルーエ工科大学	基礎工学研究科
30	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学研究科
31	ドイツ	アウクスブルク大学	経済学部
32	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	経済学部
33	ドイツ	アーヘン工科大学	工学研究科
34	ドイツ	アウクスブルク大学	工学研究科
35	ドイツ	ミュンヘン工科大学	工学部
36	ドイツ	ミュンヘン工科大学	工学部
37	ドイツ	ハイデルベルク大学	情報科学研究科
38	ドイツ	ウィーン大学	人間科学研究科
39	ドイツ	グローニンゲン大学	人間科学部

2019 年度 秋冬学期 OUSSEP 学生名簿 (2/2)

No.	国 籍	出 身 校 名	所属名
40	ドイツ	グローニンゲン大学	人間科学部
41	ドイツ	ルール・ボーフム大学	人間科学部
42	ドイツ	ルール・ボーフム大学	人間科学部
43	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	文学研究科
44	ドイツ	アウクスブルク大学	文学部
45	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	文学部
46	ドイツ	ハイデルベルク大学	法学部
47	ドイツ	ゲッティンゲン大学	理学部
48	ドイツ	ハイデルベルク大学	理学部
49	ドイツ	アーヘン工科大学	国際公共政策研究科
50	日本	デルフト工科大学	工学部
51	ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学	言語文化研究科
52	フィンランド	オーボアカデミー大学	人間科学研究科
53	フィンランド	ヘルシンキ大学	文学部
54	フィンランド	ユヴァスキュラ大学 (数・理学部)	理学研究科
55	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
56	フランス	リール政治学院	外国語学部
57	フランス	リール政治学院	外国語学部
58	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
59	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
60	フランス	グルノーブル大学連合	経済学部
61	フランス	グルノーブル大学連合	工学研究科
62	フランス	ピエール・マリー・キュリー大学	工学研究科
63	フランス	ボルドー大学	法学部
64	フランス	ボルドー大学	法学部
65	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	基礎工学部
66	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	基礎工学部
67	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	基礎工学部
68	ブルネイ・ダルサラーム	ブルネイ・ダルサラーム大学	理学部
69	ペルー	ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学	工学部
70	ペルー	ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学	工学部
71	香港	香港大学	人間科学部
72	香港	香港科技大学 (理学部)	理学部
73	香港	香港科技大学 (理学部)	理学部
74	マレーシア	リーズ大学	経済学部
75	メキシコ	ミュンヘン工科大学	人間科学研究科
76	ロシア	サンクトペテルブルク大学	文学部

2019 年度 秋冬学期 国際交流科目開講リスト

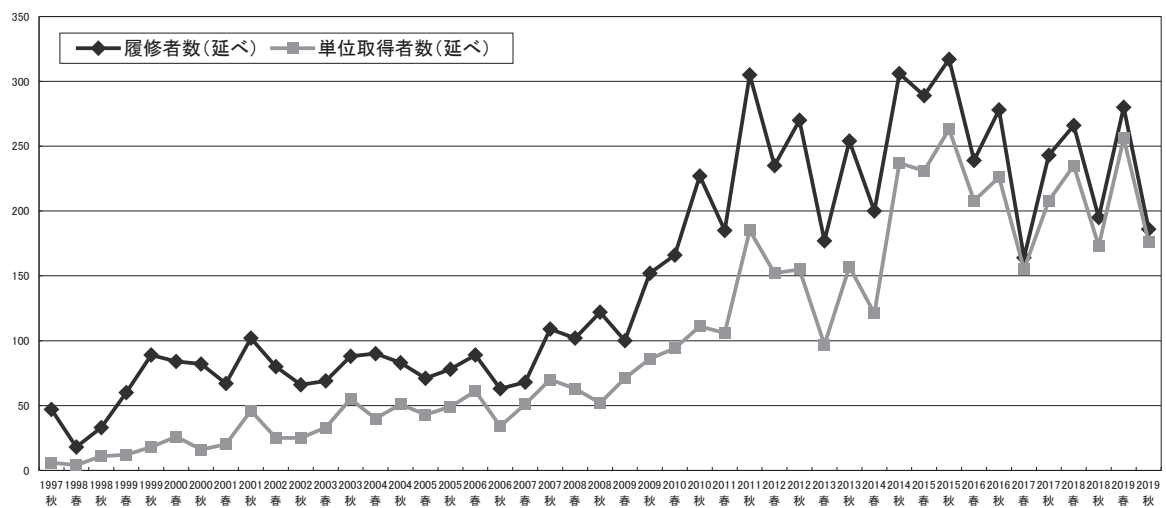
No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本と中国の文学と言語	Literature and Language of Japan and China	文学研究科	岸本 恵実
2	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学研究科	中道 正之
3	社会学	Sociological Theory	人間科学研究科	Viktoriya Kim
4	メディア社会学	Media Sociology	人間科学研究科	Viktoriya Kim
5	移動の社会学 【※多文化共生論と隔年開講】	Sociology of Migration	人間科学研究科	Viktoriya Kim
6	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
7	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
8	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学研究科	(福井康太) Leonardo Ciano
9	日本経済史	Japanese Economic History	経済学研究科	Pierre-Yves Donze
10	2次元の幾何学	2-dimensional Geometry	理学研究科	馬場 伸平
11	持続可能な開発における地球総合工学の役割	Role of Global Architecture in Sustainable Development	工学研究科	小林 知広
12	21世紀の電気工学	Electrical Engineering in the 21st Century	工学研究科	蔵満 康浩
13	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学研究科	藤田 清士
14	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュース
15	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	(筒井佐代) 波多野吉徳
16	ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン	Social Innovation and Social Design	高等教育入試研究開発センター	三森 八重子
17	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
18	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2	国際教育交流センター	
19	総合日本語 JA100-トラック 3	Japanese JA100 - Track 3	国際教育交流センター	
20	総合日本語 JA100-トラック 4	Japanese JA100 - Track 4	国際教育交流センター	
21	総合日本語 JA100-トラック 5	Japanese JA100 - Track 5	国際教育交流センター	ハン ヒソン 浦木 貴和
22	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	福良 直子
23	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2	国際教育交流センター	
24	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
25	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2	国際教育交流センター	
26	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
27	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2	国際教育交流センター	
28	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
29	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500 - Track 2	国際教育交流センター	
30	日本語・グローバル理解演習 JGU600a	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600a	国際教育交流センター	大谷 晋也
31	日本語・グローバル理解演習 JGU600b	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600b	国際教育交流センター	岡崎 洋三
32	日本語・グローバル理解演習 JGU600c	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600c	国際教育交流センター	小原 俊彦
33	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有川 友子
34	科学と社会	Science and Society	国際教育交流センター	岡本 紗知
35	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚崎 典子
36	言語コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Language	国際教育交流センター	中野 遼子
37	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
38	シティズンシップと多文化共生	Citizenship, Diversity and Inclusion	国際教育交流センター	北山 夕華
39	近現代日本の諸事情	Modern Japanese Circumstances	国際教育交流センター	後藤 敬寛
40	言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese language Acquisition	国際教育交流センター	西口 光一
41	自主研究 I-A 自主研究 I-B 自主研究 I-C	Independent Study I-A Independent Study I-B Independent Study I-C		各自主研究担当教員

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

部局別：OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数

学部	文	人科	外	法	経済	理	医	歯		
2019 春	13 (12)	117 (114)	20 (19)	20 (15)	14 (13)	20 (19)	9 (8)	0 (0)		
2019 秋	10 (10)	53 (53)	23 (22)	18 (15)	12 (12)	18 (16)	1 (1)	0 (0)		
2019 春・秋合計	23 (22)	170 (167)	43 (41)	38 (30)	26 (25)	38 (35)	10 (9)	0 (0)		
1996 春から2019 秋の合計	500 (334)	769 (513)	1044 (619)	697 (427)	603 (410)	485 (314)	150 (75)	12 (7)		
学部	薬	工	基工	言語	国公	情報	生命	高司	計	G/R
2019 春	1 (1)	26 (25)	34 (26)	2 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	280 (256)	0.91
2019 秋	2 (2)	25 (25)	22 (19)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	186 (176)	0.95
2019 春・秋合計	3 (3)	51 (50)	56 (45)	2 (1)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	466 (432)	0.93
1996 春から2019 秋の合計	58 (34)	851 (493)	636 (420)	79 (61)	52 (34)	31 (22)	32 (16)	3 (1)	6000 (3777)	0.63

いずれも延べ数。() 内の数字は単位取得者数を表す。G/Rは、履修者数に対する単位取得者数の割合を示す。



国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移

5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受講する科目であり、その数は年々増え、2019年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな部局から多様な授業が提供された。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。2018年度から2019年度にかけて、全学教育推進機構教育学習支援部（TLSC）の佐藤浩章准教授のご支援・ご監修のもと、FD研修内容の改善に努め、現在、「国際交流科目ティーチング・ティップス集」や「国際交流科目受講学生へのラーニング・ティップス集」の作成にも取り組んでいる。

2019年度 春～夏学期 国際交流科目 担当教員・TA対象 FDオリエンテーション

- 2019年4月5日（金）豊中キャンパス CELAS 2階 セミナールームA 15：00～

〈プログラム〉

I. オリエンテーション

「通常の授業と国際交流科目はここが違う！」

（国際教育交流センター 教授 近藤 佐知彦）

II. FD研修

① 日本人学生へのサポート実践談

講師：村上・スミス・アンドリュース（言語文化研究科 准教授）

② 国際交流科目受講学生への Learning Tips 集作成ワークショップ

ファシリテーター：近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教）

監修：佐藤 浩章（全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）

* ご講演・ワークショップは日本語で行われます。

III. 授業実施に関わる情報交換会



FDオリエンテーションにおけるワークショップとグループディスカッションの様子

2019 年度 秋～冬学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FDオリエンテーション

● 2019 年 9 月 27 日（金）吹田キャンパス IC ホール講義室 6 14：00 ～

〈プログラム〉

I. オリエンテーション

「通常の授業と国際交流科目はここが違う！」

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FD

① 学生が必要とするサポートとは

講師：小田桐ジェイク（文学研究科博士後期課程）

② 国際交流科目受講学生への Learning Tips 集作成ワークショップ— 解決策編

ファシリテーター：近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教）

監修：佐藤 浩章 先生（全学教育推進機構 教育学習支援部）

* ご講演・ワークショップは日本語で行われます。

III. 授業実施に関わる情報交換会



FDオリエンテーションにおける講演の様子

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、毎学期授業の折り返し時点と最終授業の2回、授業中に時間をとって受講生による授業評価アンケートを実施している。アンケートは指定した受講生に回収させ、コピーをとり担当教員に学内便にて返送するとともに、集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、その学期の後半の授業にアンケートでの受講生の声をフィードバックいただきながら、授業を組み立てていただくよう担当教員の方々にお願いしている。詳しくは巻末資料編の資料5のアンケートのサンプルを参照いただきたい。また、2019年度秋冬学期からは、集計の簡略化や紙資源の削減を目的として、KOANによるオンラインアンケートを開始した。

2019 年 5 月 8 日

2019 年度春夏学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期に 2 回（中間および期末）受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。公平性担保のために、特に「回収方法」につきましてご注意くださいようお願い申し上げます。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させていただきます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 柏原 美佐緒
kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp
Tel : 06-6879-7128（内線 7128）

2020 年 1 月 7 日

2019 年度秋冬学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いている国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められています。

このような趣旨に基づき、毎学期、受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しています。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですが何とぞご高配賜りますようお願い申し上げます。2019 年度秋冬学期より、KOAN によるオンラインアンケートを実施しております。具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照くだされば幸いです。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。また同結果は国際交流科目担当教員 FD の企画等の参考ともさせて頂きたく併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させていただきます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 柏原 美佐緒
kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp
Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

平成 20 年度以来、当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。平成 21 年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。これは平成 20 年度大学改革推進等補助金で「21 世紀型『超短期』受入プログラム開発」で試行したパイロットプロジェクトであり、全国の Short-Stay プログラム普及への先鞭をつけた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-Stay 奨学金が創設された平成 23 年度には、東日本大震災の悲劇を受け「日本語日本文化プログラム」に止まらない「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計、阪神淡路大震災の経験など「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとして、様々な経緯を経ながら現在に至っている。

平成 30 年度は、マレーシアの大学の要望に合わせたプログラムを実施し、同校から 20 名の学生を受け入れた。韓国協定校対象の冬プログラムは例年通り開催された。2019 年度は、韓国協定校対象の春プログラムが定員に満たなかったため不開講だったが、夏プログラムに関しては、中国の西南大学と大連理工大学から 43 名の学生を受け入れ、日本語中級レベルのプログラムを実施した。プログラム修了パーティには駐大阪中国総領事館から領事にご挨拶頂くなど、期待の高さが表れた。なお、夏期の中国からの二大学に関しては、それぞれの大学から付き添い教員が引率して来学しており、あわせて様々な情報交換を行った。

【夏超短期参加者リスト】

2019 年度 夏超短期プログラム（2019.8.1－2019.8.23 実施）

	在籍校	国籍	専攻
1	西南大学	中国	Japanese
2	西南大学	中国	Japanese
3	西南大学	中国	Japanese
4	西南大学	中国	Japanese
5	西南大学	中国	Japanese
6	西南大学	中国	Japanese
7	西南大学	中国	Japanese
8	西南大学	中国	Japanese
9	西南大学	中国	Japan Studies
10	西南大学	中国	Japanese
11	西南大学	中国	Japanese
12	西南大学	中国	Japanese
13	大連理工大学	中国	Software Engineering
14	大連理工大学	中国	Software Engineering
15	大連理工大学	中国	Software Engineering
16	大連理工大学	中国	Software Engineering
17	大連理工大学	中国	Computer Science
18	大連理工大学	中国	Software Engineering
19	大連理工大学	中国	Computer Science
20	大連理工大学	中国	Software Engineering
21	大連理工大学	中国	Software Engineering
22	大連理工大学	中国	Digital Media Technoogy
23	大連理工大学	中国	Digital Media Technoogy
24	大連理工大学	中国	Software Engineering
25	大連理工大学	中国	Software Engineering
26	大連理工大学	中国	Software Engineering
27	大連理工大学	中国	Software Engineering
28	大連理工大学	中国	Information Science and Technology
29	大連理工大学	中国	Software Engineering
30	大連理工大学	中国	Digital Media Technoogy
31	大連理工大学	中国	Software Engineering
32	大連理工大学	中国	Software Engineering
33	大連理工大学	中国	Software Engineering
34	大連理工大学	中国	Software Engineering
35	大連理工大学	中国	Software Engineering
36	大連理工大学	中国	Computer
37	大連理工大学	中国	Software Engineering
38	大連理工大学	中国	Software Engineering
39	大連理工大学	中国	Computer
40	大連理工大学	中国	Software Engineering
41	大連理工大学	中国	Software Engineering
42	大連理工大学	中国	Digital Media Technoogy
43	大連理工大学	中国	Software Engineering

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIPは平成23年度夏に新たに創設された。設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤(2012)等に譲るが、日本語をキラーコンテンツとし、平成23年度に新設されたShort-Stayプログラム奨学金を最大限獲得する設計のプログラムである。平成24年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学(UC)を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講プランを作り、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供してきている。

平成26年度以降は米国向け90コマ8週間のサマーインスティテュート(6-8月)、および豪州向け45コマ5週間のサマーインスティテュート(12-1月)の2サイクルを運営することになった。ハード面では箕面に教室および職員室を増設して3教室体制を整備している。また非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し、参加学生の旺盛な学習ニーズに応えている。平成29年度の夏からは海外などで活躍する日本語教師の先生方を期間中に特任教員として雇用し、J-ShIPの一部の運営をお任せするなど、実験的なプログラムとしても先進的に運用を続けている。平成30年度の夏は、大阪北部地震や西日本豪雨の自然災害に加え、2019年度は2人の学生が体調不良により途中帰国を余儀なくされ、対応に追われたが、多くの方々からの協力により、最後までプログラムを実施することができた。今後プログラムを継続するにあたって、危機管理体制を整える契機となった。

近藤佐知彦(2012) SSプログラムJ-ShIPの1年目；新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦
大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 16 97-106

【夏 J-ShIP 参加者リスト】

2019 年度 夏 J-ShIP プログラム (2019.6.18-2019.8.9 実施)

	在籍校	国籍	専攻
1	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	Business Administration
2	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	Microbiology and Immunology
3	カリフォルニア大学 アーバイン校	アメリカ	Nursing Science
4	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Computer Science: Game Design
5	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Molecular, Cell and Developmental Bio
6	カリフォルニア大学 サンタクルーズ校	アメリカ	Psychology
7	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	Biological Sciences
8	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	Environmental Studies
9	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	アメリカ	Statistical Science
10	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	イギリス	Financial Mathematics and Statistics
11	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校	中国	History
12	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Biochemistry/Chemistry
13	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Bioengineering (Bioinformatics)
14	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Cognitive Science
15	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Cognitive Science
16	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Computer Engineering
17	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Interdisciplinary Computing and the Arts
18	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Music/Interdisciplinary Computing and the Arts
19	カリフォルニア大学 サンディエゴ校	アメリカ	Physiology and Neuroscience
20	カリフォルニア大学 デイビス校	アメリカ	Economics
21	カリフォルニア大学 デイビス校	アメリカ	Electrical Engineering
22	カリフォルニア大学 デイビス校	アメリカ	Mechanical and Aerospace
23	カリフォルニア大学 デイビス校	アメリカ	Science and Technology Studies
24	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Applied Mathematics
25	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Conservation and Resource Study
26	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	English
27	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	English
28	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Film Studies
29	カリフォルニア大学 バークレー校	アメリカ	Statistics
30	カリフォルニア大学 マーセッド校	アメリカ	Psychology
31	カリフォルニア大学 リバーサイド校	アメリカ	Biology
32	カリフォルニア大学 リバーサイド校	アメリカ	Music (Composition)
33	カリフォルニア大学 リバーサイド校	ネパール	Biology
34	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Biochemistry
35	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Biology
36	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Ecology, Behavior and Evolution
37	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	English
38	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Linguistics and Computer Science
39	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Linguistics and Computer Science
40	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Microbiology and Immunology
41	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Philosophy
42	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Psychobiology
43	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Psychology
44	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	アメリカ	Theater (Acting)
45	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	台湾	Music Performance
46	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	中国	Astrophysics
47	カリフォルニア大学 ロサンゼルス校	中国	Psychology
48	ケンタッキー大学	アメリカ	Computer Science
49	ケンタッキー大学	アメリカ	English
50	ケンタッキー大学	アメリカ	FLIE-Japanese
51	ケンタッキー大学	アメリカ	Japan Studies
52	ケンタッキー大学	アメリカ	Political Science
53	サンノゼ州立大学	アメリカ	Business
54	香港中文大学	中国	Government and Public Administration

【冬J-ShIP参加者リスト】

2019年度 冬J-ShIPプログラム（2020.1.6－2020.2.7実施）

	在籍校	国籍	専攻
1	オーストラリア国立大学	オーストラリア	Finance
2	オーストラリア国立大学	オーストラリア	International Security
3	オーストラリア国立大学	シンガポール	Japanese
4	オーストラリア国立大学	中国	Accounting
5	オーストラリア国立大学	中国	Accounting
6	オーストラリア国立大学	中国	Capital Market
7	オーストラリア国立大学	中国	Capital Market
8	オーストラリア国立大学	中国	Cinese Studies
9	オーストラリア国立大学	中国	Computer Science
10	オーストラリア国立大学	中国	Finance
11	オーストラリア国立大学	中国	International Relationship
12	オーストラリア国立大学	中国	Japanese
13	オーストラリア国立大学	中国	Japanese
14	オーストラリア国立大学	中国	Translation
15	モナシュ大学	オーストラリア	International Relationship
16	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese
17	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese
18	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese
19	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese
20	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese
21	モナシュ大学	オーストラリア	Japanese
22	モナシュ大学	オーストラリア	Korean
23	モナシュ大学	オーストラリア	Linguistic
24	モナシュ大学	オーストラリア	Media
25	モナシュ大学	中国	Banking and Finance
26	モナシュ大学	中国	Data Science
27	モナシュ大学	中国	Finance
28	モナシュ大学	中国	Philosophy
29	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
30	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
31	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
32	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
33	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
34	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese

3. 『学外連携実習』 ExPERT

平成 30 年度には、新たに ExPERT (Extension Program for Education in Real-world Trainings) を開始した。同プログラムは、平成 30 年度 3 月に締結された「国立大学法人大阪大学と三井不動産株式会社との連携協定」に基づく取り組みのキックオフプログラムとなった。

かねてより、多くの協定校から職業体験型プログラムへの要望が強く、より多くの優秀な学生を受け入れるため、吹田キャンパス近郊のエキスポシティ内にある大阪英語村 (Osaka English Village, 以下 OEV) と共同で、8 週間の無給職業トレーニングプログラムを開発した。参加学生へ単位を付与するために、教職課程の『教育実習』の科目を参考にしながら、『学外連携実習』を新たに正規科目として登録した。

OEV は体験型英語教育施設で、アメリカの日常や歴史、文化をテーマにした様々なシチュエーションルームが 23 種類あり、各ルームでは、英語ネイティブのインストラクターとともに英語を楽しみながら学ぶことができる (OEV ホームページ参照)。ExPERT 生は、インストラクターの訓練を受けながら、授業見学、アシスタント業務、そして実習体験を通して、主に子どもや高校生以下の児童・生徒に対する英語教授法を修得する。

宿舎については、ホームステイの斡旋会社ネクステージと協力し、「英語インストラクター実習生のホームステイ」として、ExPERT 生にホストファミリーへの週 3 回の 1 時間英語レッスンを義務付け、その代わりに宿泊費を安価に提供する新たなホームステイの枠組みも開発した。

平成 30 年度はパイロット・プログラムとして、アメリカ合衆国から 4 名の学生を受け入れた。ウィークリーレポート、最終プレゼンテーション、OEV による評価を経て、4 名とも無事に修了し、単位 (4 単位) が付与され、本センターと OEV 連名の修了証書が授与された。また、4 名の参加者のうち 1 名は、2019 年 4 月から OEV にて正式に就業している。2019 年度は、オレゴン大学の学生 1 名を受け入れ、無事に修了し単位が付与された。

4. Faculty-led プログラム UMOS

2019 年度は、メルボルン大学からの要請に応じて新たに UMOS (University of Melbourne Overseas Subject) という Faculty-led プログラムを開始した。UMOS は、メルボルン大学で開講されている科目と同等の授業を海外の大学で実施し、メルボルン大学の単位として認定するプログラムである。大阪大学では、「Variation in Japanese Language」という科目が開講され、大阪大学の単位 (4 単位) が付与された。

【UMOS 参加者リスト】

2019 年度 UMOS プログラム (2020.1.20-2020.2.8 実施)

	在籍校	国籍	専攻
1	メルボルン大学	オーストラリア	Design
2	メルボルン大学	オーストラリア	International Politics
3	メルボルン大学	オーストラリア	Veterinary Science
4	メルボルン大学	シンガポール	Geography
5	メルボルン大学	タイ	Psychology
6	メルボルン大学	中国	Media and Communication
7	メルボルン大学	中国	Physics

Ⅶ. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS: Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUISA: Osaka University International Student Association）やB.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。更に、地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携、地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力も継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたるとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの紹介と情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS（あいりす）はInformation Room for International Studentsの略。以下IRISと記す。）にて平日8時半～18時の間、豊中地区では学生交流棟2階の豊中分室で平日10時半～17時の間、箕面分室は原則として平日10時半～17時の間、原則として休業日を除く学期期間中、行っている。表1にIRIS、表2に豊中分室、表3に箕面分室への対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

国際教育交流センター所属及び新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムの案内及び申込受付などを含め、来日前からコンタクトを取っている。来日当初の約一週間のオリエンテーションプログラムを、国際学生交流課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援した。

国際教育交流センターは、留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称OHP）を実施している。大阪大学で学ぶ留学生と大阪大学近郊の市民ボランティアが、宿泊ではない、家族ぐるみで気軽な交流活動を行っている。来日前にホストファミリープログラムに申し込んだ学生とホストファミリーのマッチングについては、近隣のボランティア団体や国際交流団体と連携して調整し、来日当初のオリエンテーション期間中に出会いの会を設けて、留学生とホストファミリーが来日初期の段階に出会う機会を設定している。

また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、オリエンテーションプログラムの中に研究室訪問の日程を組み、留学生来日前に指導教員と連絡をとり、研究室訪問の日程調整をあらかじめ行った上で実施した。学生間の交流や支援の観点から、B.S.P.の学生によるキャンパスツアー、大阪大学留学生会（OUIA）の活動の紹介を学生達と連携して行った。

表1 大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況
平成31年（令和元年）度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	243	402	489	611	475	415	888	792	654	511	614	424	6518
日本語	24	29	22	19	3	13	43	18	12	6	3	8	200
奨学金	5	7	2	0	3	4	4	0	0	1	1	2	29
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	4
医療	0	8	13	9	7	3	3	3	4	2	0	1	53
入管関係	1	0	1	1	0	0	2	1	0	2	0	0	8
家族について	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
就職	40	27	41	21	6	59	98	79	32	37	21	36	497
住居	2	14	2	9	1	0	9	2	0	5	2	3	49
各種情報提供	244	201	144	131	79	88	141	63	69	76	69	103	1408
生活用品	15	20	20	20	0	3	14	2	2	9	0	2	107
学習・研究	3	22	16	11	1	2	6	4	8	10	0	1	84
事故・トラブル	22	9	15	4	24	2	1	1	2	20	2	3	105
引越	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
アルバイト	0	5	6	4	3	2	3	1	0	1	0	1	26
ホストファミリー	119	25	4	2	3	5	71	15	2	2	3	2	253
ホームステイ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
海外留学相談	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
問合わせ等（学外）	7	9	21	10	5	6	14	9	3	7	19	4	114
その他	44	46	51	59	36	22	38	33	39	10	9	5	392
計	770	831	849	912	649	624	1336	1023	827	699	745	595	9860

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
件数	5553	6114	8106	7106	7398	8104	9860

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
件数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176	19170	19252	19858	11005

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	1269	1317	1407	1394	273	293	986	656	625	535	249	92	9096
日本人学生	101	103	120	94	16	44	123	71	117	61	35	27	912
その他・一般	95	79	66	120	79	50	115	71	78	86	94	64	997
合計	1465	1499	1593	1608	368	387	1224	798	820	682	378	183	11005

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表2 大阪大学国際教育交流センター豊中分室の相談状況及び来室・利用状況
平成31年（令和元年）度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	34	106	163	179	32	8	80	52	15	13	8	1	691
日本語	59	147	146	91	1	8	108	59	35	5	1	1	661
奨学金	31	2	1	3	5	5	8	1	2	9	1	8	76
保証人	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
住居保証人	2	1	1	4	0	2	0	0	0	0	1	2	13
医療	5	6	15	6	1	0	6	2	2	2	2	2	49
入管関係	9	0	0	1	0	1	3	0	4	5	1	5	29
家族について	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	5
就職	9	2	0	1	2	0	2	0	11	7	2	5	41
住居	7	2	6	4	3	4	5	1	5	3	2	3	45
各種情報提供	142	93	41	63	22	40	134	50	36	47	40	19	727
生活用品	4	3	3	10	3	0	6	0	1	6	3	1	40
学習・研究	51	25	17	20	4	4	29	25	21	10	4	4	214
事故・トラブル	0	1	4	6	0	0	4	0	0	6	2	0	23
引越	2	0	1	1	0	2	0	4	0	0	0	0	10
アルバイト	9	10	6	6	1	6	21	3	10	6	2	5	85
ホストファミリー	10	4	2	1	0	0	18	9	2	3	0	0	49
ホームステイ	1	0	9	0	0	0	0	1	0	3	0	0	14
海外留学相談	45	38	16	21	15	10	28	16	5	14	9	5	222
問合わせ（学外）	5	7	3	3	7	8	7	1	0	5	1	0	47
その他	5	4	3	3	2	0	3	4	7	2	2	2	37
合計	431	452	439	423	98	98	462	228	157	148	81	63	3080

相談対応件数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
件数	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302	2192	2721	2713	3080

*ここでいう「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
件数	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612	12806	13406	12618	12769

豊中分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	1224	1138	1106	1074	157	271	1079	779	943	919	265	177	9132
日本人学生	328	321	389	332	62	52	378	235	224	233	68	50	2672
教官・学外など	80	98	84	84	48	69	98	97	100	89	67	51	965
合計	1632	1557	1579	1490	267	392	1555	1111	1267	1241	400	278	12769

*ここでいう「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況
平成31年（令和元年）度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	63	32	38	33	8	13	43	17	13	7	3	2	272
日本語	4	0	0	2	0	0	0	0	1	2	2	0	11
奨学金	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療	0	0	0	2	1	0	3	0	3	2	1	1	13
入管関係	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	3	0	8
家族について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	5	6	6	1	0	0	0	0	0	0	3	3	24
住居	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	6
各種情報提供	15	17	7	10	5	5	34	10	16	5	7	5	136
生活用品	4	6	5	9	1	0	10	8	5	17	2	2	69
学習・研究	5	5	7	39	2	0	1	5	13	14	15	3	109
事故・トラブル	1	0	0	0	1	0	1	2	1	1	0	0	7
引越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アルバイト	2	2	1	0	2	1	1	0	5	2	0	0	16
ホストファミリー	7	1	0	0	0	0	25	4	1	0	0	1	39
ホームステイ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
海外留学相談	14	13	21	11	0	0	4	7	4	8	1	0	83
問合わせ（学外）	0	0	1	1	0	13	1	2	0	5	0	3	26
その他	6	7	12	4	8	2	3	4	4	4	5	1	60
計	126	89	102	113	32	34	127	60	66	68	43	25	885

相談対応件数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
件数	1488	966	840	661	831	797	731	854	788	699	591	885

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
件数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525	3907	4867	4403	4421

箕面分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	275	196	251	223	20	62	226	105	153	183	73	59	1826
日本人学生	375	306	325	278	39	15	255	182	221	201	58	30	2285
その他・一般	59	24	29	17	73	10	24	10	11	24	19	10	310
合計	709	526	605	518	132	87	505	297	385	408	150	99	4421

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P. と大阪大学留学生会（OUIA）の活動の支援を行った。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUIA）の活動を記す。今年度も年間を通して学生主体の活動を積極的に支援した。

表4 平成31年（令和元年）B.S.P.の活動内容

〈主な活動内容〉

月	日	場所	内容	共催団体
4	3	豊中	ティーパーティー	
	4	吹田	キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	5	豊中	キャンパスツアー、ティーパーティー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
		箕面	キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	8～11	豊中	なんでも相談コーナー	
	11	箕面	日本語カフェ（毎週木曜日）	
	12	豊中	スナックパーティー	
	16	豊中	スナックパーティー	
		箕面	English Café（毎週火曜日）	
	18	豊中	Welcome Party	
	19	吹田	Welcome Party	
	23	豊中	日本語カフェ（毎週火曜日）	
		吹田	日本語カフェ（毎週火曜日）	
	26	箕面	Welcome Party	
5	15	吹田	English Café（毎週水曜日）	
	17	豊中	ギョーザパーティー	
	23	吹田	French Café（毎週木曜日）	
	24	吹田	伝統遊び	
	29	箕面	インドベジカレーパーティー	
6	6	豊中	ぜんざいパーティー	
	13	箕面	スナックパーティー	
	14	豊中	イギリスフェア スコーン&紅茶	
	19	箕面	キャンパスツアー（Summer J-ShIP）	
	21	豊中	韓国料理パーティー	
		吹田	世界の料理パーティー（ブルガリア、メキシコ、アメリカ、ベネズエラ、日本料理）	
	27	箕面	おにぎりパーティー	
7	1～5	豊中	七夕ウィーク（笹取り、折り紙、短冊作り、そうめん）	
		箕面	そうめんパーティー	
	2.3.5	吹田	七夕ウィーク（折り紙、短冊作り、流しそうめんパーティー）	
	10	豊中	メキシコ料理パーティー	
	23	箕面	かき氷パーティー	
	24	豊中	かき氷パーティー	
8	6	箕面	ティーパーティー	
		豊中	フェアウェルパーティー	
9	26	豊中	キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）
	27	吹田	キャンパスツアー	大阪大学留学生会（OUIA）
	30	箕面	キャンパスツアー 新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUIA）

10	1～3	豊中	B.S.P.相談週間	
	3	吹田	新留学生オリエンテーションでBSPの紹介	大阪大学留学生会（OUISA）
	4	吹田	吹田キャンパスツアー	大阪大学留学生会（OUISA）
		豊中	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUISA）
	9	豊中	日本語カフェ（毎週水・金曜日）	
	15	吹田	日本語カフェ（毎週火曜日）	
		箕面	英語カフェ（毎週火曜日）	
	17	箕面	日本語カフェ（毎週木曜日）	
	18	吹田	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUISA）
	23	吹田	Chinese Café（毎週水曜日）	
11	25	箕面	Welcome Party	大阪大学留学生会（OUISA）
	7	箕面	秋の味覚パーティー	
	14	吹田	English Café（毎週木曜日）	
	15	豊中	イタリアンパーティー	
	16	箕面	One day trip（奈良）	
	20	吹田	たこ焼きパーティー	
	23	豊中	遠足（箕面の滝）	
12	28	豊中	ぜんざいパーティー	
	4	箕面	年賀状作成イベント	
		豊中	パンケーキパーティー	
	6	豊中	麻辣湯パーティー	
	11	吹田	世界の料理パーティー（タイ、モンゴル）	
	18	箕面	年越しそばパーティー	
	19	豊中	フルーツ餅パーティー	
		箕面	ティーパーティー	
1	29	吹田	25周年同窓会	
	7	箕面	箕面キャンパスツアー（Winter J-ShIP）	
		吹田	書初め	
	8	豊中	お雑煮パーティー	
		箕面	トルコ語カフェ（全2回 1/15）	
	9	吹田	お雑煮パーティー	
	10	箕面	おしるこパーティー	
2	15	豊中	たこ焼きパーティー	
	16	箕面	書初め	
	6	豊中	フェアウェルパーティー	
		箕面	節分パーティー	
		吹田	フェアウェルパーティー 3キャンパス幹部Meeting	

表5 平成31年（令和元年）大阪大学留学生会（OUISA）の活動内容

月	日	内 容	場 所	共催団体、内容他
4	4	キャンパスツアー	吹田キャンパス	日本語研修留学生対象/B.S.P.共催
		新規留学生オリエンテーションでOUISAの紹介	吹田：ICホール 会議室	
	5	キャンパスツアー	豊中キャンパス	学部留学生・短期留学生対象/B.S.P.共催
		キャンパスツアー	箕面キャンパス	学部留学生対象/B.S.P.共催
5	21	Meeting	吹田：ICホール IRIS	
6	25	Meeting	吹田：ICホール IRIS	
7	16	OUISA News trial	吹田：ICホール IRIS	
	22	川原理事との面談	吹田：ICホール ルーム6	
		国際学生ネットワーク Meeting	吹田：ICホール ルーム5	
	25	OUISA Hour（Brazil）	吹田：ICホール IRIS	

8	2	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
9	11	Sports Festival Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	18	Sports Festival Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	25	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	26	キャンパスツアー 新規留学生オリエンテーションでOUIAの紹介	豊中キャンパス 豊中：CELAS	短期留学生対象 /B.S.P. 共催
	27	新規留学生キャンパスツアー	吹田キャンパス	短期留学生対象 /B.S.P. 共催
	30	キャンパスツアー 新規留学生オリエンテーションでOUIAの紹介	箕面キャンパス 箕面：CJLC	Maple、日研生対象 /B.S.P. 共催
10	2	Sports Festival Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	3	新規留学生オリエンテーションでOUIAの紹介	吹田：IC ホール 会議室	日本語研修コース・KOSMOS/B.S.P. 共催
	4	キャンパスツアー	吹田キャンパス	日本語研修コース・KOSMOS/B.S.P. 共催
		Welcome party	豊中：大学会館	B.S.P. 共催
	16	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	18	Welcome party	吹田：IC ホール ルーム 5・6	B.S.P. 共催
	23	Sports Festival Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	25	Welcome party	箕面：福利会館	B.S.P. 共催
	31	Sports Festival Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
11	6	Sports Festival Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	9	OUIA Sports Festival	吹田キャンパス	OMA 協力
	15	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	22	OUIA Hour (Bulgaria)	吹田：IC ホール IRIS	
12	10	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	19	OUIA Hour (Thai)	吹田：IC ホール IRIS	
1	10	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
	16	OUIA Hour (Cuba)	吹田：IC ホール IRIS	
2	6	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	
3	24	Meeting	吹田：IC ホール IRIS	

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部局の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部局の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」ミーティングを定例で4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。国際教育交流センター主催の連絡・交換会は令和元年7月26日に開催した。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

地域との連携も引き続き積極的に行っている。ホストファミリープログラムについては、大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会を年2回開催し、留学生の来日時期に合わせて、ホストファミリーの組み合わせの連絡調整や、ホストファミリープログラム等に関する意見交換を行った。ホストファミリーや地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っている。表6は平成31年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

第28回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会を令和2年2月21日に開催した。今回の協議会では、大阪大学韓国留学生会、大阪大学台湾留学生会の活動や各国の文化についての発表の後、

各国の民族音楽等のパフォーマンスが行われた。当日は学内 18 名、学外 85 名、あわせて 103 名の参加があった。

表 6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 /R1	計
ホストファミリー グループ アミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	7	9	8	11	273
茨木市 国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	10	16	10	14	265
(公財) とよなか 国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	65	79	73	67	1125
(公財) 箕面市 国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	39	24	32	33	561
池田市公益活動 促進協議会*6	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	9	6	6	6	234
(公財) 吹田市 国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	62	61	61	64	702
国際交流の会 とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	14	13	13	15	326
川西市 国際交流協会*1									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	10	7	10	14	214
留学生 さとおやの会*2												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	9	10	13	13	126
海外協力グループ クスクス*3															7	12	11	13	6	4	6	10	9	11	11	9	109
国際交流グループ チャーターボックス*4																11	12	9	8	12	10	11	13	8	10	9	113
三井ボランティアネット ワーク事業団*7																							3	3	3	4	13
シルバーアドバイザー ネットワーク大阪*8																									8	11	19
OHP/IRIS に 直接登録*5	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	29	35	38	14	417
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	279	282	296	284	4497

* 1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 14 年 10 月開始

* 2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 17 年 4 月開始

* 3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 20 年 9 月開始

* 4 チャーターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 21 年 4 月開始

* 5 ホストファミリーの学内公募平成 19 年 8 月開始

* 6 池田ホームスティ友の会は平成 24 年 3 月で終了、平成 24 年 9 月より池田市国際交流協議会、平成 29 年 4 月より池田市公益活動促進協議会として参加

* 7 三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 28 年 10 月開始

* 8 シルバーアドバイザーネットワーク大阪のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成 30 年 4 月開始

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力も引き続き実施した。表 7 は、平成 31 年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、派遣した留学生数である。

大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会において近隣の市町の教育委員会とも連携しながら、地域の小中高等学校へ留学生を派遣した。留学生の派遣は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

表7 平成31年度「国際理解教育」実施状況

*「/」は二重国籍

	月	日	学校／プログラム名	派遣人数	派遣学生国籍
1	6	3	かんらんこども園	4	アメリカ・イラン・韓国・バングラデシュ
2	6	14	茨木市立豊川中学校*	10	イギリス・イラン・ウルグアイ・タイ・台湾・中国・ドイツ・ネパール・ブルガリア・ベトナム
3	7	11	兵庫県立川西北陵高等学校	8	イギリス・インド・インドネシア・エジプト・バングラデシュ・ブラジル・ミャンマー
4	7	17-18	大阪府立刀根山支援学校 大阪大学医学部付属病院分教室	1	ギリシャ
5	7	20	大阪国際大和田高等学校	8	アメリカ・インドネシア・ウルグアイ・ガンビア・シリア・スリランカ・トルコ・ヨルダン
6	7	22-23	京都光華高等学校	4	アメリカ・インド・韓国・中国
7	9	10	茨木市立彩都西中学校*	4	イギリス・オーストラリア・スーダン・ブルガリア
8	9	18	大阪府立豊中支援学校 中学部	2	インドネシア・台湾
9	9	21	名張市立南中学校	1	インドネシア
10	9	25-27	報徳学園中学校	21	イラン・インド・インドネシア・ウルグアイ・ケニア・中国・トルコ・パキスタン・パナマ・フィリピン・ベトナム・ペルー・南アフリカ・ミャンマー・ヨルダン
11	10	15	兵庫県立川西北陵高等学校	8	イラン・インド・インドネシア・ウルグアイ・スーダン・スリランカ・中国・ナイジェリア
12	10	16	茨木市立郡山小学校*	4	イラン・インドネシア・韓国・スーダン
13	10	28	能勢町立能勢小学校 能勢町立能勢中学校* **	6	インドネシア・エジプト・ガンビア・スーダン・ブルガリア・ミャンマー
14	11	5	はつしば学園小学校	8	インドネシア・ウルグアイ・ギニア・トルコ・ブルガリア・ミャンマー
15	11	14	関西大倉高等学校	14	アメリカ・アルジェリア・インド・インドネシア・ウルグアイ・シリア・台湾・デンマーク・ドイツ・パキスタン・マレーシア・ロシア
16	11	15	豊中市立第九中学校*	8	イギリス・イラン・オーストラリア・スーダン・スペイン・トルコ・ブルガリア・ロシア
17	11	19	能勢町立能勢小学校 能勢町立能勢中学校*	9	インドネシア・スーダン・スリランカ・バングラデシュ・ブルガリア・ベトナム・マレーシア
18	11	20	大阪市立堀江小学校*	6	イギリス・インドネシア・ドイツ・パキスタン・バングラデシュ・ベトナム
19	11	21	大阪市立堀江小学校*	6	インドネシア・中国・バングラデシュ・ベトナム・ミャンマー
20	11	22	大阪市立堀江小学校*	6	インドネシア・台湾・中国・ドイツ・バングラデシュ・フィリピン
21	11	30	大阪府立茨木高等学校	62	アメリカ・アルジェリア・イギリス・イラン・インド・インドネシア・ウガンダ・オーストラリア・カナダ・ガンビア・ギニア・ギリシャ・シリア・スーダン・タイ・台湾・中国・ドイツ・トルコ・パキスタン・ハンガリー・バングラデシュ・ブラジル・ブルキナファソ・ベトナム・ペルー・マレーシア・ミャンマー
22	12	3	豊能町立東能勢中学校* **	6	イギリス・タイ・台湾・パナマ・バングラデシュ・マレーシア
23	12	6	能勢町立能勢小学校 能勢町立能勢中学校*	13	アメリカ・インドネシア・スペイン・タイ・台湾・中国・ドイツ・パナマ・バングラデシュ・フィリピン・ブルガリア
24	1	15	摂津市立第三中学校*	8	イラン・インド・ガンビア・ギニア・台湾・トルコ・パキスタン・バングラデシュ
25	1	17	大阪府立豊中高等学校	51	アメリカ・アルジェリア・イラン・インド・インドネシア・カナダ・ガンビア・ギニア・スウェーデン・スーダン・スリランカ・タイ・台湾・中国・ドイツ・トルコ・パキスタン・ハンガリー・バングラデシュ・フィリピン・ブラジル・ブルガリア・ブルキナファソ・ベトナム・ペルー・マレーシア・メキシコ
26	1	22	茨木市立清溪小学校*	5	イラン・スウェーデン・台湾・パキスタン・ベトナム
27	1	24	豊中市立第十四中学校*	5	カナダ・ガンビア・中国・トルコ・バングラデシュ
28	2	14	豊中市立第十三中学校*	5	カナダ・スウェーデン・タイ・中国・モンゴル
29	2	19	大阪府立刀根山支援学校 大阪大学医学部付属病院分教室	1	メキシコ
30	2	20	兵庫県立兵庫高校	15	イラン・インド・インドネシア・ガンビア・シリア・タイ・トルコ・バングラデシュ・フィリピン・ブルガリア・マレーシア

* 教育委員会経由の申し込み

計： 30件／309名

** 大阪大学の予算で実施

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、令和元年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全8回開催した。また個々の相談に対ため就職相談コーナーを開室した。

(1) 令和元年度の留学生のための就職対策講座

2019年10月より2020年1月にかけて「留学生のための就職対策講座」を開催した。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、元留学生OB・OG、内定者の留学生の協力のもと全8回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ182名であった。(図1参照)。

令和元年度 留学生のための就職対策講座 CIEE

Job Search Strategy Course for International Students 2019

Registration: career@ciece.osaka-u.ac.jp

1. Email us with 1. your full name, 2. faculty, 3. year, and 4. nationality. Put "Job search strategy course registration" in the subject line.

◆Employment after graduation of OU international students: Hitachi, Ltd., Fujitsu Limited, Nissan Motor Co., Ltd. ANA, IBM Japan, Ltd., JAL, Accenture PLC, Mitsubishi Electric Corporation, The Goldman Sachs Group, Inc., Sony Corporation and many others

図1 就職対策講座ポスター

(i) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回アンケートを実施した。各回の参加者数は図2に示されている通りである。全8回のうち、第1回「Introduction to job search for international students」の参加者が最も多く32名、次に第7回「面接の基礎とグループディスカッション対策」の24名が続いた。参加者の出身国では中国が最も多く90名で、全体の49%を占めた(cf.表8)。所属別では工学系が最も多く42名であった(cf.図3)。学年別では博士課程前期1年次が最も多く79名で全体の43%を占めた(cf.図4)。

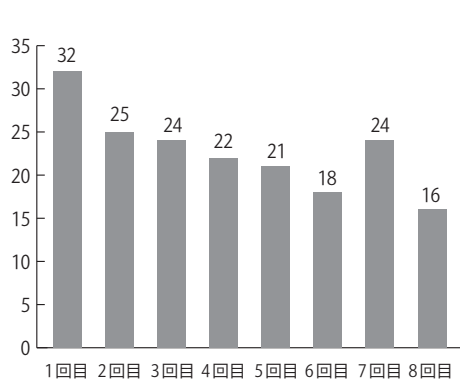


図2 各回の参加人数

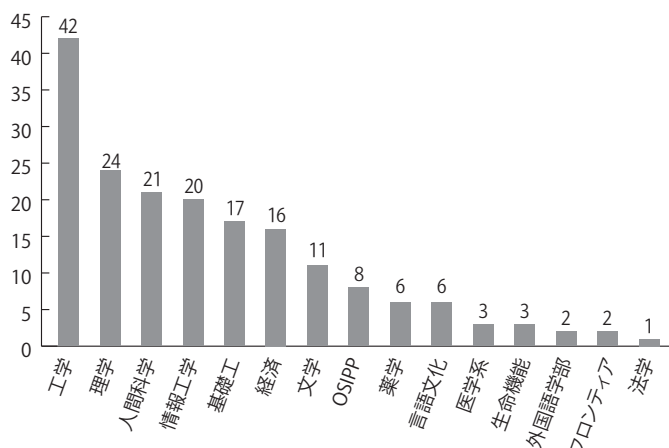


図3 参加者の所属

表8 参加者の出身国

出身国	人数	出身国	人数
中国	90	アルジェリア	2
ブラジル	11	日本	2
台湾	11	イラン	2
ロシア	6	フィリピン	2
インドネシア	5	ギリシャ	2
タイ	5	エジプト	2
ベトナム	5	ベトナム	2
パキスタン	5	パナマ	1
アメリカ	5	ベネズエラ	1
エジプト	4	オーストリア	1
ドイツ	4	フランス	1
インド	4	スウェーデン	1
ベラルーシ	3	ギニア	1
マレーシア	3	韓国	1

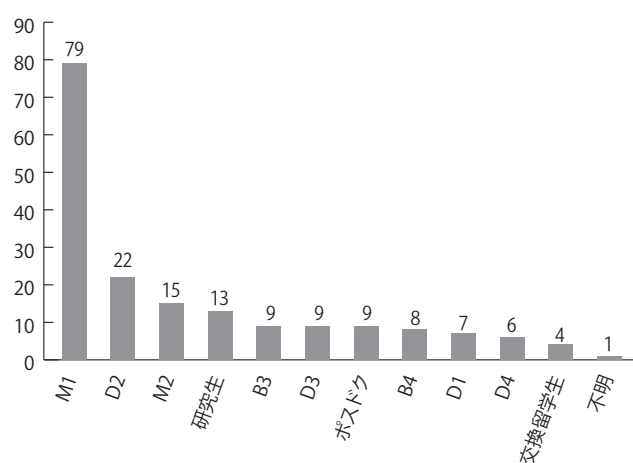


図4 参加者の学年



i) 第2回 情報収集および企業・業界研究



ii) 第3回 自己分析/キャリアデザイン



iii) 第4回 OB・OGによる体験談



iv) 第8回 模擬面接

就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため、吹田、豊中および箕面キャンパスで各週1回の就職相談コーナーを原則予約制で行った（図7参照）。令和元年度利用者数は延べ61名、メールによる相談は延べ58件となっている（表9、10参照）。

2019年度 留学生のための就職相談コーナー		Consultation on Job Search for International Students 2019	
留学生の皆さん、日本での就職活動について相談してみませんか？		If you are interested in finding a job in Japan, why not come for consultation?	
豊中	毎週火曜日(Tue.) 12:00 ~13:00 学生交流棟 3F 国際教育交流センター ミーティングルーム	Toyonaka	12:00 ~13:00 on Tuesdays CIEE Meeting Room, 3rd floor, Student and Service Union
箕面	毎週水曜日(Wed.) 12:00 ~13:00 国際教育交流センター 箕面分室 B棟 1階	Minoh	12:00 ~13:00 on Wednesdays CIEE Minoh Branch, 1st floor, B-building
吹田	毎週木曜日(Thu.) 12:00 ~13:00 ICホール2F 講義室3	Suita	12:00 ~13:00 on Thursdays Room 3, 2nd floor, IC Hall
申込み	career@ciece.osaka-u.ac.jp	Appointment	career@ciece.osaka-u.ac.jp
1. 希望日時 2. 氏名 3. 学部 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。 件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。		Email us with 1. your preferred date, 2. your full name, 3. faculty, 4. year, and 5. nationality. Put "career consultation" in the subject line.	
大阪大学国際教育交流センター コーディネーター 亀崎 昌子 専任准教授		Center for International Education and Exchange Coordinator Noriko USAB, specially appointed associate professor	

図7 就職相談コーナーポスター

主な相談内容は以下の通りである。

- 履歴書の日本語チェック（複数）
- エントリーシートの日本語チェック（多数）
- アルバイトの情報がほしい。
- ビザの変更について
- 留学生の求人について
- 面接時の服装について
- スーツを購入する際の留意点
- OBOG 訪問がしたい。
- 英語で就活がしたい。（複数）
- 在留カードが4/5に失効するが、就職が決まらない場合どうすればよいか
- 秋入学の場合の就活について
- ポスドクのポジションを希望している。
- フレックス制、半期年俸制、固定残業代とは何か？
- 後期課程を中途退学して就職したい。

表9 相談コーナー利用状況（月別・出身国別）

	中 国	フ ラ ン ス	韓 国	イ ラ ン	台 湾	マ レー シ ア	イ ン ド ネ シ ア	ブ ラ ジ ル	ポ ー ラ ン ド	ハ イ チ	日 本	ベ ネ ズ エ ラ	ペ ル ー	ス ー ダ ン	シン ガ ポ ー ル	ド イ ツ	ロ シ ア	エ ジ プ ト	ヨ ル ダ ン	レ バ ノ ン	イ エ メ ン	イ ン ド	計
4月	1	1	3	1	1	1	1																9
5月	2		2																				4
6月								1	1														2
7月	2															1		1					4
8月										1													1
9月								1			1						1						3
10月	4											1	2					1					8
11月	2																1						3
12月	2		1					1						1									5
1月	2														1								3
2月	1																		1	1	1		4
3月	9		1		1						1						2					1	15
	25	1	7	1	2	1	1	3	1	1	2	1	2	1	1	1	4	2	1	1	1	1	61

表10 メール相談件数（月別・出身国別）

	ブ ラ ジ ル	中 国	マ レー シ ア	台 湾	日 本	韓 国	ロ シ ア	イ エ メ ン	エ ジ プ ト	不 明	計
4月	2									1	3
5月						2					2
6月			5			2					7
7月											0
8月											0
9月					1						1
10月											0
11月			3								3
12月	4		1								5
1月	4			2							6
2月		7	2				1				10
3月		9	1		3	2	3	1	2		21
	10	16	12	2	4	6	4	1	2	1	58

4. 防犯・防災の講習会等

国際教育交流センターは、留学生の安全な日常生活を支援するため、「防災」「防犯」「交通安全」「救急救命」をテーマとする「留学生対象セーフティプロモーション講習会」を11月1日に豊中キャンパス全学教育機構サイエンスコモンズ・サイエンススタジオBにおいて開催した。参加者は10名であった。



VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学学生の海外派遣留学を促進・支援するために、様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加や休暇期間を利用した語学留学へのニーズ応え、短期語学研修プログラムを企画・実施するとともに、海外留学オリエンテーションでの情報の提供や、学期中の相談体制を通じて、学生の留学に対する疑問や不安にこたえ、サポートを充実させている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

2019年度の短期海外研修として、英国のヨーク大学およびニュージーランドのオタゴ大学での夏季語学研修（この二大学への派遣についてはCIEE（国際教育交換協議会）日本代表部に外部委託）、オーストラリア・モナシュ大学での春季語学研修を実施した。これらのプログラムは、海外体験を希望する学生への夏季・春季休暇を活用した語学留学機会の提供に加え、協定校への交換留学に向けたステップとなる海外体験としても位置付けている。オタゴ研修は、海外滞在経験の浅い学生を対象にしていることから研修後の語学試験の受験を義務付けていないが、ヨーク研修とモナシュ研修では英語力の強化の目安および学習への動機づけとして、研修前と、研修中あるいは研修後に、IELTSまたはTOEFLの受験を義務付けている。また、事前研修として留学生との交流学习の場も設けている。ヨーク現地研修出発前には、合計4回（6月6日、6月23日、7月3日、8月7日）の事前研修を行い、このうち第2回目の研修では、箕面キャンパスにて、演出家をゲスト講師として、大阪大学で日本語を学ぶ留学生と協働型の演劇ワークショップを行った。モナシュ現地研修出発前にも、合計3回（1月10日、1月11日、2月13日）の研修を行い、第二回の研修では、石橋南小学校と石橋商店街の協力のもと、短期日本語研修プログラムに参加している留学生との交流活動を実施した。具体的には、石橋南小の児童が準備したスタンプラリーに阪大生と留学生、児童らが一緒に参加し、英語を使って交流を深めた。

(1) 事前研修（留学生との協働活動）の様子



(2) ヨーク大学夏季語学研修 現地研修日程（参加者 10 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2019 年 8 月 26 日（月）	PM 04：00	関西国際空港集合
	PM 06：30	出国：関西国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX569 便）
	PM 09：45	経由：香港国際空港着
2019 年 8 月 27 日（火）	AM 01：10	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX219 便）
	AM 06：40	入国：マンチェスター空港着
	大学のバスでヨーク大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面	
2019 年 8 月 28 日（水） 2019 年 9 月 18 日（水）	ヨーク大学にて研修 IELTS 受験：9 月 14 日（土）	
2019 年 9 月 19 日（木）	大学のバスで空港へ移動	
	PM 00：20	出国：マンチェスター空港発 （キャセイパシフィック航空CX216 便）
2019 年 9 月 20 日（日）	AM 07：00	経由：香港国際空港着
	AM 10：20	経由：香港国際空港発 （キャセイパシフィック航空CX506 便）
	PM 03：10	入国：関西国際空港着、解散

(3) オタゴ大学春季語学研修 現地研修日程（参加者 13 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2019 年 8 月 24 日（土）	AM 08：24	関西国際空港集合
	AM 10：55	出国：関西国際空港発 （シンガポール航空SQ619 便）
	PM 04：40	経由：シンガポール国際空港着
	PM 07：50	経由：シンガポール国際空港発 （シンガポール航空SQ297 便）
2019 年 8 月 25 日（日）	AM 09：30	入国・経由：クライストチャーチ国際空港着
	AM 11：35	経由：クライストチャーチ国際空港発 （ニュージーランド航空NZ5749 便）
	PM 00：40	ダニーデン空港着
	大学のバスでオタゴ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面	
2019 年 8 月 27 日（月） 2019 年 9 月 20 日（金）	オタゴ大学にて研修	

2019 年 9 月 21 日（土）	大学のバスで空港へ移動	
	AM 10：25	ダニーデン空港発 （ニュージーランド航空NZ682）
	AM 11：40	経由：ウェリントン国際空港着
	PM 01：30	出国：ウェリントン空港発 （シンガポール航空SQ248）
	PM 10：40	経由：シンガポール国際空港着
2019 年 9 月 22 日（日）	AM 01：25	経由：シンガポール国際空港発 （シンガポール航空SQ618 便）
	AM 09：05	入国：関西国際空港着、解散

(4) モナシュ大学春季語学研修 現地研修日程（参加者 23 名）

年 月 日	時 刻	行 程 等
2020 年 2 月 15 日（土）	PM 08：00	関西国際空港集合
	PM 05：25	出国：関西国際空港発 （タイ国際航空TG673 便）
	PM 10：00	経由：スワンナプーム国際空港着
2020 年 2 月 16 日（日）	AM 00：05	経由：スワンナプーム国際空港発 （タイ国際航空TG466 便）
	PM 01：05	入国：メルボルン空港着
	大学のバスでモナシュ大学へ移動 オリエンテーション・ホストファミリーとの対面	
2020 年 2 月 17 日（月） 2020 年 3 月 19 日（木）	モナシュ大学にて研修	
2020 年 3 月 20 日（金）	大学のバスで空港へ移動	
	PM 03：25	出国：メルボルン空港発 （タイ国際航空TG466 便）
	PM 08：35	経由：スワンナプーム国際空港着
	PM 11：59	経由：スワンナプーム国際空港発 （タイ国際航空TG622 便）
2020 年 3 月 21 日（土）	AM 07：20	入国：関西国際空港着、解散

2. 海外留学オリエンテーション

2019年度は、昨年度に引き続き新入生を対象とした海外留学オリエンテーション入門編に加え、幅広い専攻・年次の学生が留学への関心を高め、留学の多様なあり方の具体的なイメージをつかめるよう、海外留学フェアを開催した。また、大学間交換留学オリエンテーションと、留学を予定している学生を対象とした危機管理オリエンテーションを下記の通り実施した。

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

2019年4月16日に、海外留学オリエンテーション入門編を国際部国際学生交流課の協力のもと開催した。これは主に新入生を対象とし、入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、1・2年生が共通教育を受ける豊中キャンパスで実施した。オリエンテーションでは、在学中の交換留学制度や夏季・春季休暇を使った短期語学研修プログラムの説明のほか、プログラム参加学生の体験談や、質疑応答を行った。また、交換留学に向けた準備として、交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語科目である国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談などの情報を提供した。オリエンテーション終了後も多数の質問が寄せられ、新入生の海外留学に対する高い興味関心がうかがわれた。

(2) 海外留学フェア

2019年5月21日に、全学部・全学年の学生を対象に広く海外留学への関心を促すため、豊中キャンパスにて海外留学フェアを開催した。海外留学フェアは、留学に関心のある学生に対し、留学の様々な選択肢を紹介し留学への動機付けを図るとともに、学内の各留学プログラムや大学間交換留学等海外留学に関する情報を幅広く得てもらうことを目的としている。ここでは学内関係部局のみならず、カリフォルニア大学やハイデルベルク大学などの協定校、プリティッシュ・カウンシルやカナダ大使館などの関係団体も数多く参加してもらい、学生に対して留学の魅力を広くアピールし、留学の実現につなげることを目指した。

(3) 大学間交換留学オリエンテーション

2019年6月と12月には、主に交換留学の制度と手続きを解説する海外留学オリエンテーション本編を、こちらも国際部国際学生交流課の協力のもと開催した。例年通り豊中・吹田・箕面の3キャンパスで計3回開催した（表1参照）。

表1 各オリエンテーションの開催概要

キャンパス	開催日時	内容	参加者数
豊中	4月16日（18：00-19：00）	海外留学オリエンテーション（入門編）	98
豊中	5月21日（10：00-16：00）	海外留学フェア	137
箕面	6月4日（12：10-12：50）	大学間交換留学オリエンテーション	102
豊中	6月5日（18：00-19：00）	大学間交換留学オリエンテーション	78
豊中	12月4日（18：00-19：00）	大学間交換留学オリエンテーション	26
計			441



海外留学オリエンテーションの様子



留学フェアの様子

3. 大学間交換留学者数

表1のように、海外留学オリエンテーションおよび留学フェアには合わせて441名の参加者があり、また、後述する留学相談件数の増加からも、多くの学生が海外留学に興味を持っていることがうかがえる。大学間交換留学の派遣候補者については、提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し、学内面接選考を実施した。これに合格して、2019年度の交換留学派遣の推薦を得た学生数は、87名である（大学間交換留学のみ）（表2参照）。

表2 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

大陸名	国・地域名	大学名	人数
アジア	シンガポール共和国	シンガポール国立大学	1
	タイ王国	カセサート大学	2
		タマサート大学	0
		チェンマイ大学	0
		チュラロンコン大学	1
		マヒドン大学	1
	フィリピン	デ・ラ・サール大学	1
		アテネオ・で・マニラ大学	1
	モンゴル国	モンゴル国立大学	1
	大韓民国	ソウル大学校	3
		中央大学校	3
		漢陽大学校	3
		釜山大学校	2
		延世大学校	1
	台湾	国立成功大学	1
		国立台湾大学	0
	中華人民共和国	清華大学	1
		浙江大学	0
		復旦大学	2
		北京師範大学	1
		北京大学	0
		上海交通大学	1
		同済大学	1
		香港中文大学	1

オセアニア	オーストラリア連邦	アデレード大学	1
		オーストラリア国立大学	2
		クィーンズランド大学	0
		モナシュ大学	1
北米	アメリカ合衆国	ウェズリアンカレッジ	2
		カリフォルニア大学	6
		ジョージア大学	3
		テキサスA&M大学	2
		ナザレスカレッジローチェスター校	0
		ライス大学	1
		ワシントン大学	0
	カナダ	トロント大学	1
		ブリティッシュ・コロンビア大学	0
		マックマスター大学	0
南米	ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学	0
	メキシコ	メキシコ国立自治大学	1
ヨーロッパ	英国	ノッティンガム大学	0
		リーズ大学	5
	オーストリア共和国	ウィーン大学	3
	オランダ王国	グローニンゲン大学	1
	スウェーデン王国	イエーテボリ大学	3
	スペイン王国	バリャドリード大学	0
	デンマーク王国	コペンハーゲン大学	4
	ドイツ連邦共和国	ハイデルベルク大学	3
		ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	1
		エアランゲン・ニュルンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学	1
		ビーレフェルト大学	2
		ルールボーフム大学	1
		ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン	3
	ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学	1
	フィンランド共和国	オーボアカデミー大学	2
		ヘルシンキ大学	3
	フランス共和国	エクス・マルセイユ大学	1
		ストラスブール大学	1
		グルノーブル大学連合	1
		ボルドー大学	0
	ロシア連邦	サンクトペテルブルク大学	2
総 計			86

4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、国際部国際学生交流課と協力して、海外での研修あるいは留学を予定している学生を対象に、試験が終了する時期に合わせて派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。

2019年度は、2019年8月7日に豊中キャンパス（参加者160名）、2020年2月13日に豊中キャンパス（参加者135名）で開催し、海外渡航中の健康管理など日常生活における危機管理に加え、テロを含む海外での治安に関する注意点などについての情報提供を行った。

【プログラム】

2019年度第1回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：2019年8月7日（水）14：00～16：35

場所：豊中キャンパス 全学教育推進機構 大講義室

司会：中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

14：00～14：05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14：05～14：15 「海外渡航時の諸手続きと留意事項について」

赤坂 真弓（国際部 国際学生交流課）

14：15～15：05 「海外渡航時の危機管理について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15：05～15：35 「OSSMAについて」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15：35～15：45 休 憩

15：45～16：30 「海外渡航時の健康管理について」

馬場 幸子（医学系研究科 助教）

16：30～16：35 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

2019 年度第 2 回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日時：令和 2 年 2 月 13 日（木）14：00～16：35

場所：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂

司会：中野 遼子（国際教育交流センター 特任助教）

〈プログラム〉

14：00～14：05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

14：05～14：15 「海外渡航時の諸手続きと留意事項について」

赤坂 真弓（国際部 国際学生交流課）

14：15～15：05 「海外渡航中の危機管理について」

川村 慎哉（大阪府警察本部警備部外事課国際テロ対策室 警部）

15：05～15：35 「OSSMA について」

江見 裕明（日本エマージェンシーアシスタンス株式会社営業部 部長）

15：35～15：45 休 憩

15：45～16：30 「海外渡航時の健康管理について」

馬場 幸子（医学系研究科 助教）

16：30～16：35 閉会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

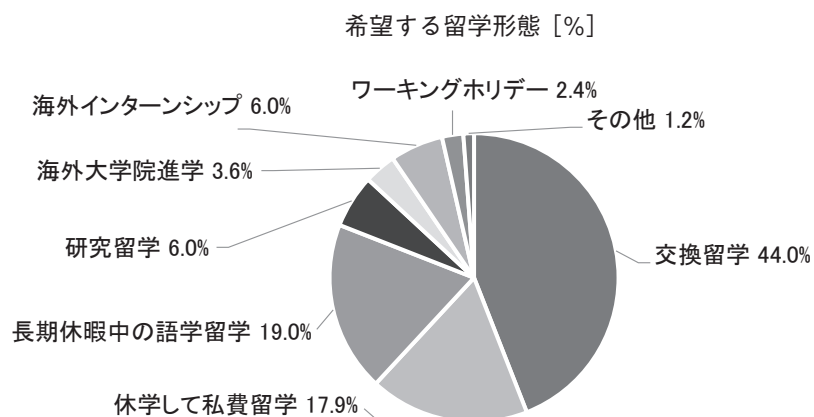
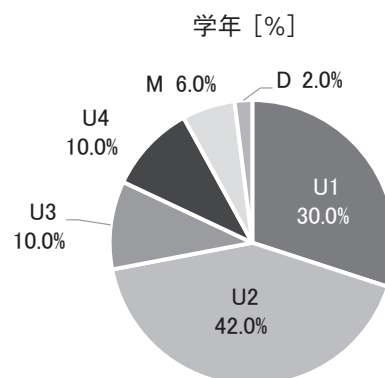
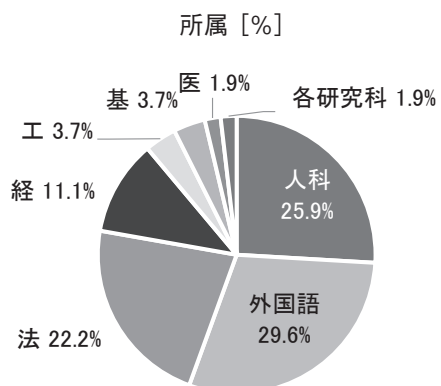
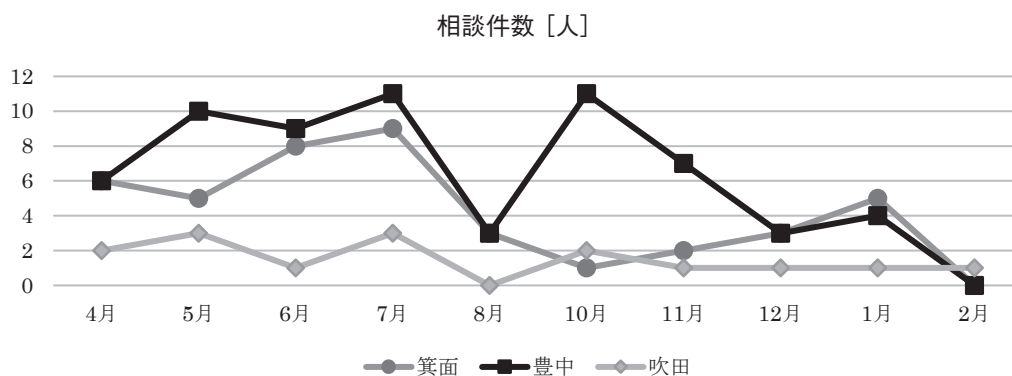


危機管理オリエンテーション・会場の様子

5. 海外留学相談

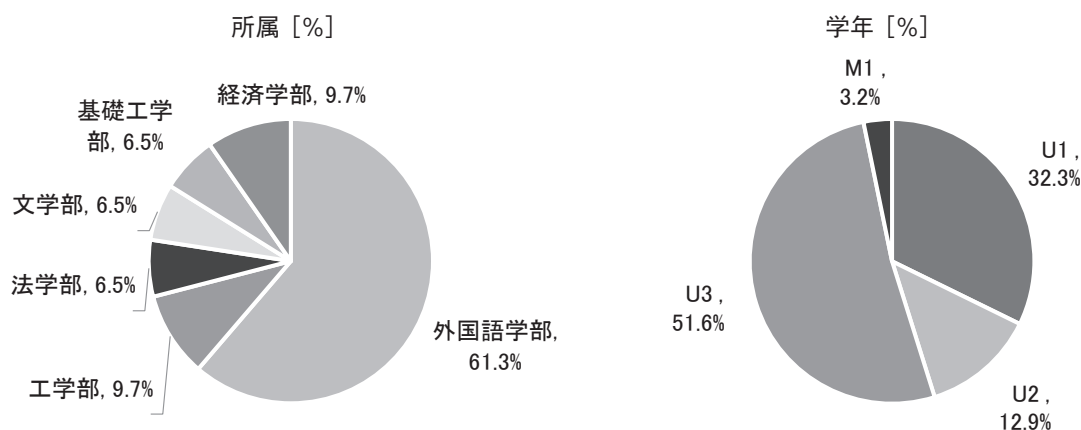
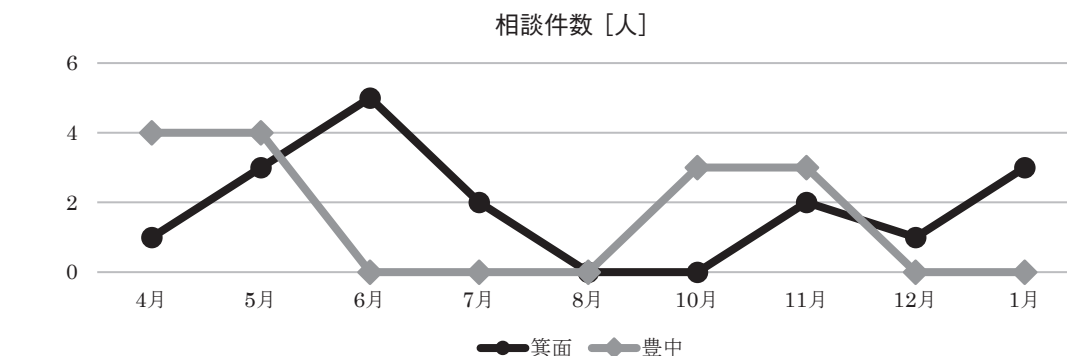
(1) 教員による留学相談

国際教育交流センターの豊中分室と箕面分室、吹田キャンパスICホールにおいて、授業期間中（2019年4月9日～2020年2月7日）にそれぞれ週1回、留学経験のある教員による対面での留学相談を実施した。留学相談は留学ポートフォリオシステムを用いて随時受け付けた。相談利用者の総数124名。内訳は以下の通りである（留学ポートフォリオシステムによる集計、有効回答者数50名）。



(2) 学生による留学相談

交換留学を経験した本学学生3名により、箕面キャンパスと豊中キャンパスで定期的な留学相談会を開催した。相談利用者の内訳は以下の通りである。



6. 英語学習支援プログラム Project HELP!

国際教育交流センターでは、2015年度から本学の英語学習者（メンティー）と英語が堪能な留学生（メンター）をマッチングし、メンティーのInternational English Language Testing System（英語力証明試験。以下、IELTS）のスコア向上を目指す3ヶ月間の英語メンタリング学習プログラム‘Project HELP!（Harmonized English Language Program, 以下、HELP!）’を実施している。

HELP!は、毎年度2回実施されており、マッチングされたメンティーとメンターが、特にスピーキングとライティングに焦点を当て、メンティーのスコア向上（本学の交換留学派遣に必要なIELTS 6.0以上）を目指して行う、3ヶ月間で90分×8回、計12時間の英語メンタリング学習である。HELP!における「メンタリング」とは、メンターがメンティーに「英語を教える」のではなく、「目標とするIELTSスコアが獲得できるよう支援し、英語力向上につながる行為・行動を導くこと」である。毎回のメンタリングについ

ては、(株) アンザインターナショナルにより構築・管理されたウェブサイト「MEntOR System」を使ってメンティーが記録し、担当教職員がメンタリングの進捗状況を常に観察している。さらに、HELP!は、ブリティッシュ・カウンシル（以下、BC）および日本英語検定協会（以下、英検協会）の協力のもと、オリエンテーション時にメンターへのIELTS指導研修やメンティーへのIELTS試験（スピーキングを除く）も実施している。8回のメンタリング終了後、メンティーにはIELTS受験およびスコア報告を義務付けており、メンターには修了証が授与される。このように、外部機関の協力により制度化された本プログラムは、メンター・メンティーともに参加者満足度が高く、每期平均95%以上である。

2015年度のHELP!第1期は11ペアから開始した。できる限り多くのメンティーが参加できるように、可能なメンターには2人のメンティーを担当してもらい、第4期以降は、每期30組以上のペアをマッチングしている。2019年度は、第9期は35組（メンター26名、メンティー35名）、第10期は34組（メンター25名、メンティー34名）のペアをマッチングした。

メンターの国籍は様々であり、これまでに46カ国からの留学生が参加している。また、メンティーの所属学部・研究科については、外国語学部、法学部、経済学部、工学部・工学研究科、基礎工学部、医学部・医学研究科の学生による応募が多く、HELP!は全学的に需要のあるプログラムであるといえる。

また、每期メンターとメンティーの交流会も実施している。2019年度秋冬学期は、石橋商店街にあるタローパンの協力のもと、同店にてHELP! Caféが実施され、哲学カフェやボードゲームを通して交流を深める機会を提供した。

さらに、2018年度から、学内プロジェクトとしてのHELP!の他に、外部機関と連携して、HELP!+が開始された。このHELP!+は、2018年8月に、株式会社甲南学園サービスセンター（以下、KSC）を実施主体とし、BCとCIEEが協力して運営したものである。メンターはHELP!修了証保持者に限定し、メンティーは兵庫県にある高校生を対象とした。場所は、兵庫県神戸市東灘区にある甲南大学平生記念セミナーハウスに設定された。期間は、3日間で計8時間の集中型プログラムであり、プログラム終了後はKSC・CIEE連名の修了証も授与される。2018年度のメンティーは7名、2019年度は2名で、高校生メンティーの満足度も高かったため、今後もHELP!+の実施を予定している。



HELP!オリエンテーション後の集合写真



HELP! Café@タローパンの様子

IX. サポートオフィスの活動

2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

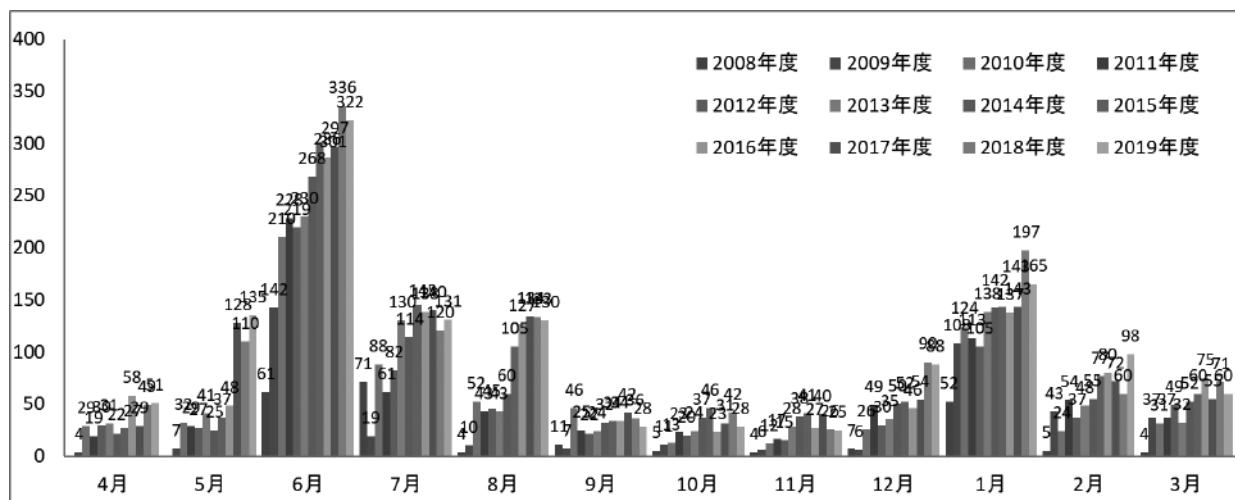


サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、来日前の査証（ビザ）に関わる手続き、宿舍手配の支援、来日直後に必要な諸手続き、また日本滞在中に必要な在留手続き等を中心に、サポートや情報提供を行なっている。このような活動をととして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。2019年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。

1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2019年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は1,261件であった（「留学」967件、「教授」151件、「文化活動」86件、「家族滞在」57件、その他0件）。CESR Web申請システムは、申請者が利用しやすくなるよう年々改良を重ねている。ビザ関連支援に関連する電話対応件数は約1,610件、窓口対応件数は約107件であった。

グラフは2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関わる全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した。これに伴い、URとの契約件数（入居者人数）は、2009年度は1件（1名）だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件（14名）、2011年度は33件（42名）、2012年度は48件（62名）、2013年度19件（26名）、2014年度43件（51名）、2015年度47件（60名）、2016年度77名と確実に支援実績を伸ばしている。2017年3月末日現在、約55名がキャンパス周辺のUR賃貸住宅に居住している。

2017年3月31日をもってサポートオフィスでのUR新規受付は終了し、4月1日以降は大阪大学生協マイルームにて受付並びに対応を開始した。ハウジングリクエスト機能は2019年7月31日をもって終了しているが、引き続きホームページにおいて、留学生や外国人研究者自身がおおよそどのような宿舎に該当するのかを導く宿舎ナビシステムの提供をしている。宿舎支援に関する電話対応件数は約5件、窓口対応件数は約8件と減少しているが、後述するホームページの利用増加によるものと考えられる。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。2019年度の参加者の合計は205名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ② 在留資格に関する案内
- ③ 市役所等での手続きの案内
- ④ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑤ 異文化での生活についてのアドバイス
- ⑥ 日本語履修についての説明（留学生対象）



2019年度 秋期
新規来日留学生・外国人研究者向けオリエンテーション
主催：サポートオフィス&IRIS（国際教育交流センター）

◆ 開催日時・場所

2019年 9月25日（水）豊中キャンパス 全学総合推進機構 管理・運営A棟 講義室104
9時00分 受付開始 9時30分～（75分程度）英語
10時45分 受付開始 11時00分～（75分程度）日本語

2019年10月 2日（水）吹田キャンパス コンベンションセンター2階 会議室2
13時00分 受付開始 13時30分～（75分程度）英語
14時45分 受付開始 15時00分～（75分程度）日本語

◆ 実施内容

- ・ IRISとその組織の学内外コミュニティについて
- ・ 在留資格について
- ・ 市役所などでの手続き
- ・ 大阪大学のインターネットサービスについて
- ・ 大阪大学で新しい生活を始めるにあたってのアドバイス
- ・ 日本語プログラム履修方法について
- ・ 個別相談（自由参加）

大阪大学地図 豊中キャンパスマップ 吹田キャンパスマップ

サポートオフィス
TEL: 06-6879-4750
E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp

留学生交流情報室「IRIS」
TEL: 06-6879-7076
E-mail: iris@ciee.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

2019 年秋および 2020 年春の留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入に伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舍支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

【2019（R.1）年度第 1 回研修会】

参加者 71 名（教員 3 名、事務職員 68 名）

2019 年 5 月 31 日（金）13：30－15：40（豊中）

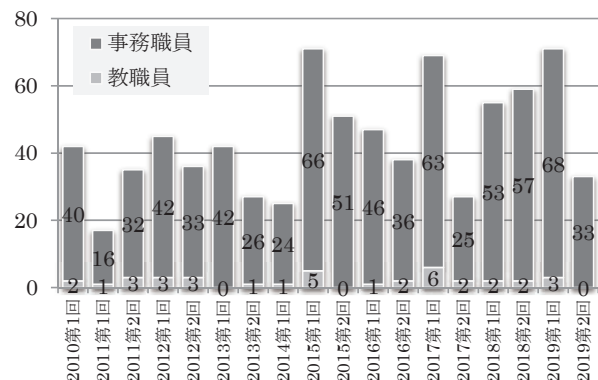
2019 年 6 月 4 日（火）13：30－15：40（吹田）

【2019（R.1）年度第 2 回研修会】

参加者 33 名（教員 0 名、事務職員 33 名）

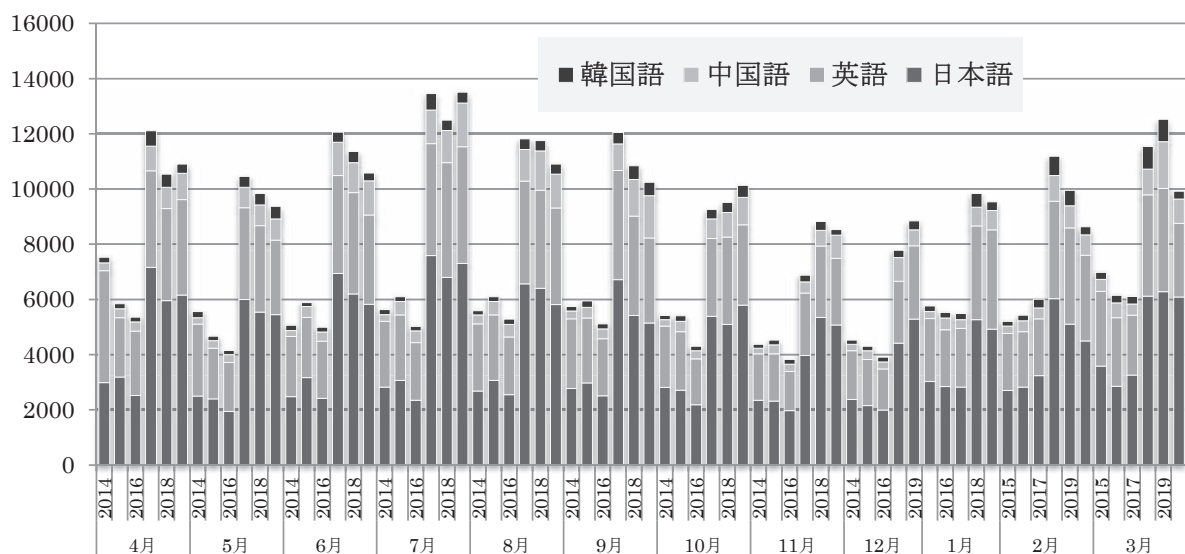
2019 年 11 月 27 日（水）13：30－15：40（吹田）

2019 年 12 月 3 日（火）13：30－15：40（豊中）



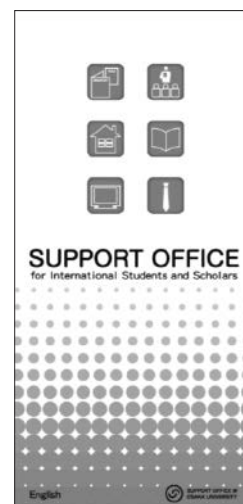
5. ホームページの管理運営

サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを 4 ヶ国語で公開している（日・英サイトは 2010 年 4 月より、中・韓サイトは 2011 年 4 月より公開）。2019 年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約 67,354、英語サイトが約 37,560 件、中国語サイトが約 12,031 件、韓国語サイトが約 4,165 件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。



6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『Coming to Osaka』は、主に CESR 送付時に E-mail で、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションおよび留学生・外国人研究者受入事務担当者研修会でホームページからのダウンロードを呼び掛けた。



X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科目名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に、基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、そうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『対話原理と第二言語の習得と教育』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）に関して、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科目名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、『新次元の日本語教育の理論と企画と実践』（西口光一、出版予定）などを輪読の形式で講じた。随時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に、講義に加え、ペアか3人前後の小グループでの議論や意見交換の結果をクラスで共有し、全体での議論を深化させる形態をとった。また、学期後半の受講者による発表期間には、自身が発表を担当しない文献の場合にも事前に必ず読んでコメントができるように、問題意識を持って議論に臨むよう注意を促した。個別の発表を行う期間に、院生自身の研究テーマやそ

の方法の課題についても意見交換を行う時間を持った。

【科 目 名】 言語技術研究B

【講義題目】 アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡貴子）

【講義概要】 本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読み、コミュニケーションの目的や場面に
応じた、書記言語コミュニケーションとしてのライティング活動について理解を深めることであ
る。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるアカデミック・ライティングに関して、
ディスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に
把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカ
デミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮につい
て、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に、講義に加え、ペアや3人前後の小グループでの議論や意見交換の結果を
クラスで共有し、全体での議論を深化させる形態をとった。また、学期後半の受講者による発表期
間には、自身が発表を担当しない文献の場合にも事前に必ず読んでコメントができるように、問題
意識を持って議論に臨むよう注意を促した。個別の発表を行う期間に、院生自身の研究テーマやそ
の方法の課題についても意見交換を行う時間を持った。

【科 目 名】 言語コミュニケーション論A

【講義題目】 言語学習における自律学習とその支援（1）（義永美央子）

【講義概要】 近年、言語学習において、学習者の自律（オートノミー）、すなわち自分自身の学習を管
理する能力に注目が集まっている。教室外にも学習リソースが豊富にある現代社会において、言語
学習者は「何をどのように学ぶか」をどのように決定しているのか。また、そうした主体的な学習
を教師はどのように支援できるのか。本講義では、自律学習に関する基本概念を検討した上で、自
律学習・学習者オートノミーやその支援に関する研究書を読み、自律学習がどのように生起するの
か、また自律学習をどのように支援できるのかを考察した。

【科 目 名】 言語コミュニケーション論B

【講義題目】 言語学習における自律学習とその支援（2）（義永美央子）

【講義概要】 春～夏学期の理論的検討に引き続き、この授業では、より実践的な観点からオートノミ
ーや自律学習について検討した。具体的には、受講生が実際に自律学習、もしくは自律学習の支援
に取り組み、それらの実践に対して教員および受講生間でフィードバックを行い、実践の改善をは
かった。これらの課題解決の過程を通じて、オートノミーの理論を実践的視点からより深く理解
し、オートノミーの実践者・研究者としての知識・技能・態度を育成することを目指した。

【科 目 名】 応用マルチメディア論A

【講義題目】 ITによる言語教育の拡張（難波康治）

【講義概要】 第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つか
について検討した。前期は、インストラクショナルデザインの基礎となる教育学および心理学の理
論について学び、特にオンライン教育で問題となる動機付けについてARCSモデル等、既存のデザ

インを参考に検討を行った。

【科 目 名】 応用マルチメディア論B

【講義題目】 外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波康治）

【講義概要】 後期は、ITを用いた教育の一つとして、映像がどのように語学教育を変えうるかについて、実践的に検討した。受講者が映像教材を作成し、それを受講してみることで、相互に評価を行った。今期は特にVR教材の作成について、その可能性を検討した。

【科 目 名】 言語文化教育論A

【講義題目】 言語文化教育論入門（大谷晋也）

【講義概要】 言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということを、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】 言語文化教育論B

【講義題目】 言語文化教育の現状と課題（大谷晋也）

【講義概要】 ヨーロッパやカナダ・オーストラリア・シンガポール・ブラジル・イスラエル・モンゴルなど、いくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に検討した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】 言語文化政策論A

【講義題目】 「市民社会」とは何か（西村謙一）

【講義概要】 「市民社会」をめぐる議論に関して、主にジョン・エーレンベルク『市民社会論』（青木書店）に依拠しながら検討を行い、「市民社会」論の変遷を確認し、また、その特質についての理解を深めた。

【科 目 名】 言語文化政策論B

【講義題目】 多文化状況の中の「市民社会」（西村謙一）

【講義概要】 「言語文化政策論A」でみた「市民社会」の思想を踏まえて、集合的記憶とアイデンティティの問題について検討を行った。

② 博士後期課程

【科目名】応用言語学特別研究A（西口光一）

【科目名】応用言語学特別研究B（西口光一）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡貴子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡貴子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（義永美央子）

【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（義永美央子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程

【科目名】共生行動論特別研究Ⅰ及び共生行動論特別研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、近藤佐知彦）、
共生行動論特定研究Ⅰ及び共生行動論特定研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、近藤佐知彦）

【講義題目】国際化と共生社会（近藤佐知彦担当分）

【講義概要】夏期集中講義を三人の教員で分担、近藤は共生社会実現における国際化に関する分野について講義とワークショップを行った。

(3) 大学院高度副プログラム

【プログラム名】インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践

【プログラム実施部局／連携部局】国際教育交流センター／言語文化研究科

【履修対象者】大学院博士前期（修士）課程学生および博士後期課程学生

【修了要件】8単位以上を修得すること（原則として1年で修得すること）

【プログラムの趣旨・概要】グローバル化、ポードレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっている。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もある。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものである。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考える。

【到達目標】本プログラムでの学習を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養すること。また、各授業での協働的な学習活動を通じて、背景の異なる他者とのコミュニケーションの際に、他者の話を傾聴し、かつ、他者への配慮ある発信方法を獲得すること。

【カリキュラムの構成】言語コミュニケーション論A・B（義永美央子）、言語技術研究A・B（村岡貴子）、言語文化教育論A・B（大谷晋也）、言語文化政策論A・B（西村謙一）から原則として1年以内に8単位を修得する。

(4) インターナショナル・カレッジ

【春 学 期】

国際交流科目 （※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	近藤佐知彦
教育の社会学	Sociological Perspectives in Education	北山 夕華
科学英語入門	Introduction to Scientific English	岡本 紗知
異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	中野 遼子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	福良 直子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 603	International Communication Seminar (Japanese) 603	大谷 晋也

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	大谷 晋也
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	福良 直子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	難波 康治
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	北山 夕華
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子

【秋 学 期】

国際交流科目 （※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
言語心理学と日本語の習得	Psychology of Language and Japanese Language Acquisition	西口 光一
シティズンシップと多文化共生	Citizenship, Diversity and Inclusion	北山 夕華
コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	魚崎 典子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
科学と社会	Science and Society	岡本 紗知
近現代日本の諸事情	Modern Japanese Circumstances	後藤 厳寛
言語コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	中野 遼子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	福良 直子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
日本語・グローバル理解演習	Japanese and Global Understanding 600a	大谷 晋也

共通教育科目（700 レベル）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	福良 直子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	大谷 晋也
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	後藤 厳寛

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M1	中華街留学における留学生の生活・進学に関する事例研究 — 日本の大学院に在籍している中国人留学生のインタビューから	西口 光一 西村 謙一
M1	中国における日本語専攻の大学生が持つ卒業論文への執筆不安に対する調査・分析	村岡 貴子 (三宅 真紀)
M1	中国人日本語学習者の動機づけの変化について — 大学院に進学した者の例を基づいて —	義永美央子 (高橋 克欣)
M1	医療現場における日中医療通訳士のコミュニケーション活動 — 日本語の硬い表現と中国語の柔らかい表現との転換から	(瀧田 恵巳) 大谷 晋也 (力武 京子)
M1	m-learningにおける言語学習意欲に関する研究 — 現代中国のリーディング語学アプリが学習意欲に及ぼす影響 —	(岩居 弘樹) 難波 康治
M2	海外にルーツを持つ子どもの日本語による学習への習熟過程 — 外国にルーツを持つ大学進学者の事例からの一考察	西口 光一 (村上スミス・アンドリュース)
M2	中国語母語日本語学習成功者の研究 — 新たな教育課程の企画に向けて	西口 光一 (ヨコタ村上孝之)
M2	日本在住の中国人ビジネスパーソンにおける職務上の電子メールライティングに見られる対人配慮の様相	村岡 貴子 (中村 綾乃)
M2	日本語学校の経営構造に関する考察 — 3名の経営者のインタビューを通して	義永美央子 (小口 一郎)
M2	日本語母語話者社会人のビジネス・コミュニケーション観の分析	義永美央子 難波 康治
M2	「タメ口」をめぐる意識調査 — 日本語母語話者と日本語学習者の言語意識に関する対照社会言語学的研究 —	(山下 仁) 大谷 晋也
M2	アクティブラーニングにおける日本語学習者の学習プロセス変化とそれに関わる要因	(岩居 弘樹) 大谷 晋也
M2	中国におけるSNS言論がナショナリズム思想形成に及ぼす影響 — パリノートルダム火災を事例に —	(我田 広之) 西村 謙一
M2	中国における生涯日本語学習者の動機変化プロセスについて	難波 康治 (榎本 剛士)
M2	オンラインの言語学習におけるピアインタラクションと自律的な学び — バーチャル実践共同体に関する調査をもとに —	難波 康治 (小口 一郎)

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科・サイバーメディアセンター教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D1	日本語名詞修飾節の習得状況と習得過程 — エジプト人中級日本語学習者を中心に —	西口 光一 (平山 晃司)
D1	医療現場で使用する業界用語使用の諸相 — 外国人看護師の業界用語の学習支援に向けて —	村岡 貴子 大谷 晋也
D1	「日本語指導が必要な外国人児童生徒」政策の批判的談話分析による検証	義永美央子 難波 康治
D2	在日ベトナム難民の日本語学習を支える学習者オートノミーと社会的文脈に関するライフストーリー研究	義永美央子 (西口 光一)
D2	クリティカル・リーディング力育成を目指したピア・リーディング活動の会話分析	義永美央子 (岡田 悠佑)
D2	授業観察を通じた日本語教師の成長 — 授業者と観察者それぞれの内省と変容に着目して —	(岩居 弘樹) 大谷 晋也
D3	インドネシア・北スマトラ州メダン市における日本語教育コミュニティの系譜	西口 光一 (榎本 剛士)
D3	コミュニケーションのための英語教育をめざしたインタラクション概念の再考 — 現象学的」アプローチに基づく教室談話の分析を通して	西口 光一 (秦 かおり)
D3	日本人大学生の韓国語学習成功者の研究 — 学習ストラテジーを中心に	西口 光一 (福田 覚)
D3	オーストラリア在住日英バイリンガル話者の言語実践 — 言語社会化の観点から —	(ジェリー・ヨコタ) 義永美央子
D3	日本語非母語話者同士の会話における言語規範について — 自己開示場面に焦点を当てて —	義永美央子 (秦 かおり)
D3	日本語教師の「専門性」— 日本語教育関係者及び一般の人々へのインタビューとフォーカス・グループの会話分析 —	義永美央子 (岡田 悠佑)
D3	EPA 看護師候補者に必要な漢字・語彙学習 — 看護師国家試験の出題漢字・語彙のデータベースに基づくオンライン教材開発	(岩根 久) 大谷 晋也
D3	外国にルーツを持つ子供と教師のコミュニケーション	(山下 仁) 難波 康治

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

③ 研究生

研 究 題 目	指 導 教 員
中国における日本語専攻大学院生の修士論文課題設定に関する研究	西口 光一

(2) 人間科学研究科

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D3	Finding “Ugnayan”: The Anthropology of Dis/Connections of Filipinos via Collective Performative Events in Japan	(宮原 暁) 西村 謙一

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
海外にルーツを持つ子どもの日本語による学習への習熟過程 — 外国にルーツを持つ大学進学者の事例からの一考察	西口 光一 (村上スミス・アンドリュース)
中国語母語日本語学習成功者の研究 — 新たな教育課程の企画に向けて	西口 光一 (ヨコタ村上孝之)
日本在住の中国人ビジネスパーソンによる職務上の電子メールライティングに見られる 対人配慮の様相	村岡 貴子 (中村 綾乃)
日本語学校の経営構造に関する考察 — 3名の経営者のインタビューを通して	義永美央子 (小口 一郎)
「タメ口」をめぐる意識調査 — 日本語母語話者と日本語学習者の言語意識に関する対照社会言語学的研究 —	(山下 仁) 大谷 晋也
アクティブラーニングにおける日本語学習者の学習プロセス変化とそれに関わる要因	(岩居 弘樹) 大谷 晋也
中国における SNS 言論がナショナリズム思想形成に及ぼす影響 — パリノートルダム火災を事例に —	(我田 広之) 西村 謙一
バーチャルクラスで学ぶ日本語学習者に関する横断的調査 — オンラインでの言語学習がどのように継続されたのか —	(小口 一郎) 難波 康治

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科教員。

② 博士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
言語社会化とアイデンティティ — オーストラリア在住日系人のコミュニケーションプラクティス	(ジェリー・ヨコタ) 義永美央子 (*マシュー・バーデルスキー) (*榎本 剛士)

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科・文学研究科教員。

4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れ

研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 名	採用時間数	担 当 教 員
該当なし		

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- 2019年 4 月 4 日 令和元年度春季第 51-1 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 1 ～ 6、4 階会議室、留学生交流情報室 (IRIS)
- 2019年 4 月 5 日 Project HELP! メンティーミニ説明会
於：豊中キャンパス サイエンス・コモンズ・スタジオ A
参加者：10 名
- 2019年 4 月13日 令和元年度春季第 51-2 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室 1313
組み合わせ数 37 組
- 2019年 4 月16日 海外留学オリエンテーション (入門編)
於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂
参加者：98 名
- 2019年 4 月19日 第 18 回大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会
於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室
学内参加者：4 名、学外参加者：7 名、合計：11 名
- 2019年 4 月27日 Project HELP! 第 9 期メンター研修・オリエンテーション
於：吹田キャンパス コンベンションセンター 会議室 1・2・3、研修室
参加者：61 名 (メンター 26 名、メンティー 35 名)
- 2019年 5 月 8 日 短期海外研修 (ヨーク・オタゴ) 説明会
参加者：16 名
- 2019年 5 月21日 海外留学フェア
於：豊中キャンパス 大阪大学会館 アッセンブリーホール・講堂
参加者：137 名 (うち留学相談者 11 名)
- 2019年 5 月22日 IELTS Intensive Programme (HELP! plus) 説明会
於：豊中キャンパス サイエンス・コモンズ
参加者：2 名
- 2019年 5 月29日 IELTS Intensive Programme (HELP! plus) 説明会
於：豊中キャンパス サイエンス・コモンズ
参加者：6 名
- 2019年 6 月 4 日 大学間交換留学オリエンテーション

- 於：箕面キャンパス A棟4階 416講義室

参加者：102名
- 2019年6月5日 大学間交換留学オリエンテーション

於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂

参加者：78名
- 2019年6月11日 第86回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング

於：豊中キャンパス 待兼山会館2階 会議室

参加者：12名
- 2019年6月12日 Project HELP! メンター・メンティー交流会

於：豊中キャンパス サイエンス・commons・スタジオ A

参加者：10名（メンター6名、メンティー4名）
- 2019年7月26日 令和元年度国際教育交流関係者連絡・交換会

於：吹田キャンパス コンベンションセンター 1階 研修室

参加者：76名
- 2019年8月2日 第50回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会

於：吹田キャンパス ICホール4階 会議室

参加者：学内4名、学外26名、合計30名
- 2019年8月5日－7日 IELTS Intensive Programme (HELP!+)

於：甲南大学平生記念セミナーハウス

参加者：4名（メンター2名、メンティー2名）
- 2019年8月7日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

参加者：160名

於：豊中キャンパス 全学教育推進機構 大講義室
- 2019年9月5日 第87回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング

於：吹田キャンパス ICホール4階 会議室

参加者：15名
- 2019年9月27日 令和元年度秋季第52-1回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」

於：吹田キャンパス コンベンションセンター1階会議室、研修室、2階会議室

組み合わせ数60組
- 2019年10月4日 令和元年度秋季第52-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」

於：吹田キャンパス ICホール2階 講義室1、5・6、留学生交流情報室 (IRIS)

組み合わせ数16組
- 2019年10月5日 Project HELP! メンティーミニ説明会

於：豊中キャンパス サイエンス・commons・スタジオ B

参加者：20名
- 2019年10月10日 令和元年度秋季第52-2回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」

- の会」
 於：吹田キャンパス ICホール2階 講義室1、5・6、留学生交流情報室（IRIS）
 組み合わせ数 16 組
- 2019年10月12日 令和元年度秋季第52-3回大阪大学留学生ホストファミリープログラム「出会いの会」
 於：箕面キャンパス 日本語日本文化教育センター 多目的ホール、講義室1301-1305、講義室1311-1313
 組み合わせ数 70 組
 - 2019年10月23日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第1回目「Introduction」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室C
 参加者：32 名
 - 2019年10月26日 Project HELP! 第10期メンター研修・オリエンテーション
 於：吹田キャンパス コンベンションセンター 会議室1・2・3、研修室
 参加者：59 名（メンター 25 名、メンティー 34 名）
 - 2019年10月31日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第2回目「情報収集及び企業・業界研究」
 於：吹田キャンパス ICホール2階 講義室5・6
 参加者：25 名
 - 2019年11月1日 留学生のための交通安全防犯防災講習会
 於：豊中キャンパス 全学教育推進機構 サイエンススタジオB
 参加者：10 名
 - 2019年11月6日 Project HELP! メンター・メンティー交流会1（協力：タローパン 菱田伊駒氏）
 於：ばんまい
 参加者：11 名（メンター 4 名、メンティー 7 名）
 - 2019年11月7日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第3回目「自己分析キャリアデザイン」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ スタジオA
 参加者：24 名
 - 2019年11月22日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第4回目「OB・OGによる体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール2階 講義室5・6
 参加者：22 名
 - 2019年11月28日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第5回目「内定者による体験談」
 於：吹田キャンパス ICホール2階 講義室5・6
 参加者：21 名
 - 2019年12月4日 大学間交換留学オリエンテーション
 於：豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂
 参加者：26 名

- 2019年12月 6 日 国際教育交流センタースピーチコンテスト
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室
 発表者 13 名
- 2019年12月11日 第 88 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：豊中キャンパス 大学会館 2 階会議室
 参加者：16 名
- 2019年12月11日 Project HELP! メンター・メンティー交流会 2（協力：タローパン 菱田伊駒氏）
 於：石橋商店街 タローパン
 参加者：7 名（メンター 4 名、メンティー 3 名）
- 2019年12月20日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第 6 回目「エントリーシートの書き方／合同企業説明会等対策」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室B
 参加者：18 名
- 2020年 1 月14日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第 7 回目「面接の基礎とグループディスカッション対策」
 於：吹田キャンパス IC ホール 4 階 会議室
 参加者：24 名
- 2020年 1 月21日 令和元年度外国人留学生のための就職対策講座 第 8 回目「集団面接練習会」
 於：豊中キャンパス スチューデントコモンズ セミナー室B
 参加者：16 名
- 2020年 1 月21日 Project HELP! メンター・メンティー交流会 3（協力：タローパン 菱田伊駒氏）
 於：石橋商店街 タローパン
 参加者：6 名（メンター 4 名、メンティー 2 名）
- 2020年 2 月 7 日 令和元年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会兼 第 51 回大阪大学留学生教育・支援協議会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：16 名、学外参加者：66 名、合計：82 名
- 2020年 2 月 8 日 第 8 回留学生交流・指導研究会
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6
 参加者：学内 6 名、学外 40 名、合計 46 名
- 2020年 2 月13日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション
 於：豊中キャンパス 大阪大学会館講堂
 参加者：135 名
- 2020年 2 月18日 第 13 回専門日本語教育研究協議会
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5・6
 参加者：学内 24 名・学外 27 名 合計 51 名
- 2020年 2 月21日 第 28 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会
 於：吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール
 学内参加者：18 名、学外参加者 85 名、合計：103 名

- 2020年 2 月25日 学生対応研修会
於：吹田キャンパス ICホール 4 階 会議室
参加者：9 名
- 2020年 2 月25日 日本語授業教務オリエンテーション
於：吹田キャンパス ICホール 4 階 会議室
参加者：9 名
- 2020年 2 月26日 第 51 回大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会
於：吹田キャンパス ICホール 4 階 会議室
参加者：学内 4 名、学外 24 名、合計 28 名
- 2020年 3 月 3 日 学生対応研修会
於：吹田キャンパス ICホール 2 階 講義室 1
参加者：6 名
- 2020年 3 月 3 日 日本語授業教務オリエンテーション
於：吹田キャンパス ICホール 2 階 講義室 1
参加者：6 名
- 2020年 3 月11日 第 89 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス ICホール 4 階 会議室
参加者 13 名

2. 海外出張・海外研修

○海外出張

- 2019年 5 月22日－ 5 月26日 北山夕華准教授 韓国のソウルに出張
ソウル大学で開催の Korean Association for Multicultural Education の研究大会（国際学会）に参加するため
- 2019年 5 月23日－ 5 月26日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏に出張
2019 Asian Association for Public Administration Annual Conference で研究発表を行うため
- 2019年 5 月23日－ 5 月30日 近藤佐知彦教授 アメリカ合衆国ワシントンに出張
SUNY（ニューヨーク州立大学）訪問およびNAFSA 出席のため
- 2019年 7 月 9 日－ 7 月13日 魚崎典子特任准教授 香港に出張
The 20th International CALL Research Conference で研究発表を行うため
- 2019年 7 月27日－ 8 月 2 日 魚崎典子特任准教授 アメリカ合衆国フロリダ州オーランドーに出張
21st Interational Conference on Human-Computer Interaction（HCI2019）で研究発表を行うため
- 2019年 8 月17日－ 9 月12日 西村謙一准教授 フィリピンのマニラ首都圏およびカビテ州に出張
フィリピンの地方自治に関する調査を行うため
- 2019年 8 月23日－ 8 月27日 魚崎典子特任准教授 タイ バンコクに出張
2019 年度日本留学フェアに参加するため
- 2019年 9 月 2 日－ 9 月16日 北山夕華准教授 ドイツ・ハンブルグおよびノルウェーのオスロと

ドランメンに出張

ハンブルグ大学で開催の European Conference on Educational Research（国際学会）に参加し、また、科研事業の一環としてオスロ・メトロポリタン大学とサウスイースタンノルウェー大学で教師教育者へのインタビュー調査を実施するため

- 2019年9月14日－9月20日 魚崎典子特任准教授 オランダ デルフトに出張
第18回 World Conference on Mobile and Contextual Learning (mLearn 2019) Invited Symposium で発表を行うため
- 2019年9月15日－9月19日 村岡貴子教授、タイのバンコクへ出張
科研費による共同研究と調査のため、カセサート大学、タマサート大学、および大阪大学アセアンセンターバンコクオフィスを訪問
- 2019年9月22日－9月28日 西村謙一准教授 フィリピン共和国のマニラ首都圏に出張
2019 EROPA Conference で研究発表を行い、地方自治の調査を行うため
- 2019年10月15日－10月20日 近藤佐知彦教授 中国の北京に出張
国際教育展 Japan Pavillion 出席および BtoB 企画（中国の大学群との協定締結話し合い）などのため
- 2019年11月6日－11月10日 西村謙一准教授 フィリピン共和国のカビテ州に出張
科研費で地方自治の調査を行うため
- 2019年11月23日－11月27日 岡本紗知准教授 オーストラリアのパースに出張
The Applied Linguistics Conference 2019 で学会発表を行うため
- 2019年11月27日－12月1日 西村謙一准教授 フィリピン共和国のカビテ州に出張
アジア経済研究所のプロジェクトで地方自治の調査を行うため
- 2019年12月01日－12月07日 魚崎典子特任准教授 台湾 ケンティンに出張
第27回 International Conference on Computers in Education (ICCE 2019) で学会発表を行うため

3. CIEE 研究会

国際教育交流センターに所属する教員は、各専門分野において活発な研究活動を行っており、その研究活動の成果報告や意見交換の場として、センター研究会が実施されている。2019年度は下記の通り実施された。

- 日 時：2019年11月8日（金） 15：00－16：30
- 発表者：福良直子
- 題 目：日本語初級段階からのアカデミックプレゼンテーション教育

4. 出版物・印刷物等（2019年5月から2020年4月まで）

No.	出 版 物 の タ イ ト ル	発行年月
1	大阪大学国際教育交流センター 2018 年度年報	2019 年 7 月
2	OUSSEP Calendar（web 版）	2019年12月
3	OUSSEP Syllabus 2019-2020（web 版）	2020 年 2 月
4	第 28 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会参加団体活動概要	2020 年 2 月
5	第 13 回大阪大学専門日本語教育研究協議会報告書（web 版）	2020 年 2 月
6	第 28 回大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書	2020 年 3 月
7	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第 24 号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No. 24	2020 年 3 月
8	留学生日本語プログラム 2019 年度履修ガイド Japanese Language Programs for International Students 2019	2020 年 3 月

5. 来訪者対応

年 月 日	来 訪 者	センターからの対応者
2019年 4 月 4 日	パンヤピワット大学 Phornvit Phacharintanakul 氏（Vice-president）	近藤教授
2019年 6 月14日	マヒドン大学 Peungjai Tinsulanonda 氏（Internationalization of MU Core Business）	近藤教授、北山准教授、 中野特任助教、武井事務 補佐員
2019年 6 月19日	ライス大学 クリス・グレイ氏（ライス大学留学アドバイザー）	近藤教授、北山准教授、 中野特任助教、赤坂専門 職員、武井事務補佐員
2019年 7 月 2 日	メルボルン大学 渡邊泰久氏（Lecturer, Asia Institute）	近藤教授、中野特任助教
2019年10月 8 日	アデレード大学 Simon Futo 氏（Associate Director, Office of the Pro Vice-Chancellor [International, Global Engagement）、Pamela Thompson 氏（Outbound Exchange Coordinator, Office of the Pro Vice-Chancellor [International]）	近藤教授、北山准教授、 中野特任助教、赤坂専門 職員、塩尻職員、乗上特 任職員
2019年10月15日	釜山大学 Gayoung KIM 氏（釜山大学校大学間協定交換留学担当）、 Ae Ran Ko 氏（語学教育院担当者）	近藤教授、北山准教授、 中野特任助教、赤坂専門 職員、塩尻職員、乗上特 任職員
2019年10月25日	モナシュ大学 櫻木真由美氏（Regional Manager, Business Development）	近藤教授、北山准教授、 中野特任助教、
2019年10月25日	大韓民国教育部国際教育院教育研究士 Lee Sooyeon 氏、 大韓民国大阪教育院院長 金次守氏	村岡教授、西村准教授、 橘課長
2019年10月31日	漢陽大学 LEE Da Hye 氏（Associate Manager, Office of International Affairs）	北山准教授、中野特任助 教、切畑職員、浅野事務 補佐員

年 月 日	来 訪 者	センターからの対応者
2019年11月20日	グローニンゲン大学フリースランキャンパス Andrej Zwitter, 氏 (Professor, Dean,), Amaranta Luna Arteaga 氏 (International Officer)	北山准教授、中野特任助教、秋山職員、切畑職員
2019年12月 5 日	マセイ大学 山内俊明氏 (Lecturer, Senior Tutor, School of Humanities)	近藤教授、中野特任助教
2019年12月19日	ソルボンヌ大学 Evripidis Bampis 氏 (Professor, Head of the Master of Computer Science Department)、Olivier Fourmaux 氏 (Associate Professor, Member of LIP6 Lab)、Anne Fladenmuller 氏 (Mobility Coordinator-Computer Science Dpt)	北山准教授、中野特任助教、中野主任、武井特任職員
2020年 1 月16日	イエーテボリ大学 Lisa Broadwell 氏 (Staff- and PhD mobility, International Center)	近藤教授、北山准教授、中野特任助教、赤坂専門職員、塩尻事務職員、武井特任職員

6. 研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語

2018 年度年報で既報のように、核物理研究センターと国際教育交流センターは共同して外国人研究員等に対する基礎日本語コース Oral Communications in Japanese for International Researchers（研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語、略して OCJ プログラム）クラスを企画し、今年度も開催した。実施実績は以下の通り。

□ 春の OCJ プログラム

- ・期 間：2019 年 5 月 17 日（月）から同 6 月 17 日（金）の期間の月曜日と金曜日の計 12 回
- ・履修状況：（1）A クラス（初習者クラス） 11 名
（2）B クラス（既習者クラス） 15 名

□ 秋の OCJ プログラム

- ・期 間：2019 年 11 月 11 日（月）から同 12 月 20 日（金）の期間の月曜日と金曜日の計 12 回
- ・履修状況：（1）A クラス（初習者クラス） 5 名
（2）B クラス（既習者クラス） 13 名

7. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整・協力の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたり、自由に会話を楽しんだりしている。こうした活動に参加することで、参加者は自身の日本語学習の達成感を得てさらにモチベーションを高めることができ、いっそう日本語力を伸ばすことができる。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさま

ざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。国際教育交流センターは、各部局の留学生相談室等への案内や、留学生会のメーリングリストでの案内など広報の面で日本語テーブルの活動を支援している。

○吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成 18 年 4 月に発足した。会員数は、発足時が 41 名で、令和 2 年 2 月現在 31 名である。

吹田地区のにほんごテーブルでは、通常の活動の他に、学習者による自分の国や専門等の話題での日本語による発表を随時行っている。また、七夕飾り、年賀状教室、お茶会、カルタ会などの日本の習慣や文化の紹介も行っている。このような種々の活動により、にほんごテーブルは、外国人参加者の日本語学習・習得のための機会として、また外国人参加者と一般日本人市民との交流の機会として、さらには外国人参加者同士の交流・情報交換の機会として重要な機能を果たしている。竹の子にほんご交流会のホームページ (<https://www.takenoko-jlt.com>) で、活動状況を公開している。

他に、竹の子にほんご交流会のメンバーの有志が、日本語テーブル終了後に日本語集中コースの初級クラスにビジターとして参加し、学生の会話パートナーをした。実績は、以下の通り。

春学期：2019 年 5 月 14 日(火)－6 月 11 日(火)の計 5 回 ビジター参加者 10 名

秋学期：2019 年 11 月 19 日(火)－2019 年 12 月 17 日(火)の計 5 回 ビジター参加者 8 名

□実施状況

・期 間：春季

参加登録—平成 31 年 4 月 23 日(火)

令和元年 5 月 7 日(火)－7 月 23 日(火)

※7 月 2 日(火)は交流会として、七夕飾りを実施した。

秋季

参加登録—令和元年 10 月 29 日(火)

令和元年 11 月 12 日(火)－令和 2 年 1 月 28 日(火)

※2 月 4 日(火)の交流会としての茶話会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。

・曜日と時間：上記期間中の毎週火曜日 13 時 00 分－14 時 30 分

春季は 12 回、秋季は 11 回

・場 所：国際教育交流センター 第 5・6 教室

・平均参加者数：春季

外国人参加者：15.9 人、日本人参加者：22.2 人

秋季

外国人参加者：30.1 人、日本人参加者：22.7 人

□ 交流映画会

- 令和元年 7 月 30 日 (火) 13:00-16:00

『かぐや姫の物語』(高畑 勲 監督作品)

外国人参加者 5 人、日本人参加者 18 名、計 23 人

□ 竹の子にほんご交流会総会

- 令和 2 年 3 月 24 日 (火) 13:00-13:50 は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止して、WEB により総会議案の書面採決を実施した。

□ 研修会

- 令和 2 年 3 月 24 日 (火) 14:00-15:30 は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止した。

○ 豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成 26 年 6 月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれを支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成 26 年 5 月に発足した。会員数は、令和 2 年 4 月現在 23 名である。

□ 実施状況

- 期 間：春季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

平成 31 年 4 月 17 日 (水) - 令和元年 7 月 31 日 (水)

秋季

参加登録—登録日を設定せず、いつからでも参加できるようにした。

令和元年 10 月 9 日 (水) - 令和 2 年 1 月 29 日 (水)

- 曜 日 と 時 間：上記期間中の毎週水曜日 10 時 30 分 - 12 時 00 分

春季は 15 回、秋季は 15 回

- 場 所：大阪大学国際交流会館 本館 ロビー

- 平均参加者数：春季

外国人参加者： 16 人、日本人参加者： 14 人

秋季

外国人参加者： 24 人、日本人参加者： 20 人

□ マチカネにほんご交流会総会

総会、研修会はコロナウイルス感染拡大のため中止となった。

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語プログラム (5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語研修生 (4) 短期留学特別プログラム (5) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 (6) その他
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演 11. 報道 12. その他

※以下の記載の7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

多文化コミュニケーションⅠ/Ⅱ-3

(5) 国際交流科目

○秋学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナルカレッジ

○秋学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応

5. 学内運営

(職指定を含む)

- ・国際教育交流センター長
- ・国際交流委員会委員

- ハウジング委員会委員
- 経営協議会委員
- 総長選考会議委員

7. 研究業績

(1) 論文

- Arikawa, Tomoko, 2019, The Long-term Impact of International Study: Indonesian Graduate Students in Japan and Their Subsequent Academic Careers in Indonesia, Universal Journal of Educational Research, Vol.7(8), PP.1756-1764, DOI 10.13189/ujer.2019.070814

(3) 口頭発表

- 有川友子、2019、「「留学生」の変遷—日本における「留学生」をとりまく環境と時代の変化の中で考える—」(単独ポスター)、異文化間教育学会第40回大会、2019年6月8-9日(明治大学 中野キャンパス)。

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 近畿地区幹事

9. 会議運営

- 平成30年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2020年2月
- 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2020年2月

12. その他

- 京都市「京(みやこ)グローバル大学」促進事業 選考委員会委員

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○春学期

キャリアデザインとビジネスコミュニケーション

(5) 国際交流科目

○春・夏学期

オンライン・リソースを活用したL2学習

○秋・夏学期

コンピュータを活用した語学学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田・箕面キャンパス）
- ・留学生の相談対応（IRIS、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考WG
- ・学生交流支援検討WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- ・大阪大学キャリアセンター 連携協力者
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会構成員
- ・大阪大学国際教育交流センター広報委員会

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：16H03078 平成30年～32年度「学習ログシステムとeブックを活用した留学生のキャリア支援に関する研究と実践」 研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（B）課題番号：16H03078 平成28年～31年度「教育ビッグデータの解析による教材改善手法の開発と評価」（研究代表者：殷 成久） 研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（S）課題番号：16H06304 平成28年～33年度「教育ビッグデータを用いた教育・学習支援のためのクラウド情報基盤の研究」（研究代表者：緒方広明） 研究協力者

7. 研究業績

(1) 論文

- Fumiya Suzuki, Kousuke Mouri, Uosaki Noriko, Atsushi Shimada, Chengjiu and Keiichi Kaneko, Elicitation of Appropriate Scratching Zones based on Lecture Slide Layouts, Distributed, Ambient and Pervasive Interactions of 21th International Conference on Human-Computer Interaction, pp.430-441, 2019.
- Fumiya Suzuki, Kousuke Mouri, Atsushi Shimada, Noriko Uosaki, Chengjiu Yin and Keiichi Kaneko, A System for Grouping Texts and Objects in Slide Layout, 8th International Congress on Advanced Applied Informatics, DOI: 10.1109/IIAI-AAI.2019.00218 (Best Poster Award).
- Kousuke Mouri, Noriko UOSAKI, Chengjiu YIN, Atsushi Shimada, Mohammad Nehal Hasnine, Keiichi Kaneko, Hiroaki Ogata, Supporting ubiquitous language learning with object and text detection technologies, Workshop of International Conference on Computer in Education, pp.192-196, 2019.
- Kousuke Mouri, Uosaki Noriko, Chengjiu Yin, Analyzing Learning Patterns Based on Log Data from Digital Textbooks, International Journal of Distance Education Technologies, Vol.17, No.1, pp.1-14, 2019.
- Kousuke Mouri, Noriko Uosaki, Atushi Shimada, Mohammad Nehal Hasnine, Chengjiu Yin, Keiichi Kaneko and Hiroaki Ogata, An Automatic Quiz Generation System Utilizing Digital Textbook Logs, Journal of Interactive Learning Environment, DOI:https://doi.org/10.1080/10494820.2019.1620291. 2019.
- Kousuke Mouri, Fumiya Suzuki, Atsushi Shimada, Noriko Uosaki, Chengjiu Yin, Keiichi Kaneko and Hiroaki Ogata, Educational Big Data Mining of Hidden Browsing Patterns using Non-Negative Matrix Factorization, Journal of Interactive Learning Environment, DOI:https://doi.org/10.1080/10494820.2019.1619594 2019.
- 魚崎典子, 毛利考佑, 米川孝宏, 殷成久, 緒方広明, 「eBookとチャットシステムを活用した留学生の就活関連用語学習支援の試み」日本教育工学会全国大会 2019 年度秋季大会 講演論文集 pp.371-372.
- Chengjiu YIN, Juan ZHOU, Lingyu LI, Koudai Yamaguchi, Noriko UOSAKI, & Hiroaki OGATA, An Analysis of Learning Behavior Patterns with Different Devices and Weights, Conference Proceedings Volume 1 of the 27th International Conference on Computers in Education (ICCE2019), pp.288-293.
- Lingyu Li, Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Chengjiu Yin, A System for Finding and Improving the Relevant Contents of Digital Textbooks based on Quizzes' Contents, Conference Proceedings Vol. 2 of the 27th International Conference on Computers in Education (ICCE2019), pp.178-183.

(2) 著書

- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Mahiro Kiyota, Hiroaki Ogata, Supporting Seamless Learning with a Learning Analytics Approach, in Looi, C.-K., Wong, L.-H., Glahn, C., Cai, S. (Eds.) *Seamless Learning Perspectives, Challenges and Opportunities*, Springer, pp.171-190, 2019. DOI: 10.1007/978-981-13-3071-1_9

(3) 口頭発表

- Noriko Uosaki, Pengcheng Dai, Hye Rin Kong, Jacky Chun Kit Lam, Mehrasa Alizadeh Creating an Onomatopoeia Learning Website for Japanese Language Learners, Creating an Onomatopoeia Learning site for Japanese Language Learners, The 20th International CALL Research Conference (SocialCALL) 2019@Hong Kong, Parallel Session 11, Venue: B4-LP-12, 10-12 July 2019.
- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Fumiya Suzuki, Mohammad Nehal, Hasnine, Takahiro Yonekawa, Chengjiu Yin, Hiroaki Ogata, Seamless Collaborative Learning Method to Learn Business Japanese with eBook and

Chat System, Proceedings of HCI2019@Orlando July. In: Streitz N., Konomi S. (Eds.) Distributed, Ambient and Pervasive Interactions, HCI 2019. Lecture Notes in Computer Science, Vol. 11587. Springer, Cham pp. 442-458. DOI https://doi.org/10.1007/978-3-030-21935-2_34 Online ISBN 978-3-030-21935-2

- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Takahiro Yonekawa and Hiroaki Ogata, Research and Practice in Seamless Learning in Japan Featuring SCROLL Projects, Proceedings of mLearn2019@TU-Delft, Sep. 16-18, pp.157-164.
- 魚崎典子, 毛利考佑, 米川孝宏, 緒方広明, 「SCROLLeブックとInCircleを活用した就活関連用語学習支援」日本キャリア教育学会第41回研究大会@長崎大学 研究発表論文集 2019年11月9日(土)・10日(日) pp.162-163.
- Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Takahiro Yonekawa, Chengjiu Yin, & Hiroaki Ogata, Supporting Job-hunting Students to Learn Job-hunting Related Terms with SCROLL eBook and InCircle, Conference Proceedings Vol. 1 of the 27th International Conference on Computers in Education (ICCE2019), pp.478-483.
- Noriko Uosaki, Pengcheng Dai, Hye Rin Kong, Jacky Chun Kit Lam, and Mehrasa Alizadeh, Supporting Japanese Language Learners with an Onomatopoeia Learning Site, Conference Proceedings Vol. II of the 27th International Conference on Computers in Education (ICCE2019), pp.184-191.

8. 学外運営

- グローバル人材活用運営協議会構成員
- CARES-Osaka 運営委員会構成員
- 大阪府教育委員会と大阪大学の協働による「外国にルーツをもつ府立高等学校生徒への支援」クラスター構成員
- CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE2019) program committee member
- LTLE2019 (8th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

9. 会議運営

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2020年2月

12. その他

- 2019年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2019年10月～20110年1月(計8回)
- 大阪大学ホストファミリープログラム(OHP)「出会いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2019年4月、10月(計4回)

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／学問への扉

○秋～冬学期

専門日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／アドヴァンストセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○春～夏学期

言語文化教育論A/言語文化教育論（F）

○秋～冬学期

言語文化教育論B/言語文化教育論（G）

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA600

○秋～冬学期

総合日本語 JGU600a

(6) インターナショナルカレッジ日本語科目

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 603

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 600a

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 4（うち留学生は3）

(2) 博士前期課程 3（留学生）

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員
- ・情報化推進会議委員
- ・情報セキュリティ推進会議委員
- ・ODINS運用部会委員

- ・情報セキュリティ対策室部局CSIRT
- ・マチカネにほんご交流会担当教員

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号：17H00912 平成29年度～令和2年度「海外における平安文学及び多言語翻訳に関する研究」、研究分担者

7. 研究業績

(2) 編著書

- ・『枕草子（三卷本）』（平安文学ライブラリー）、日本文学Web図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2019年4月、Web配信

(3) 口頭発表

- ・「日本語学校の授業観察における非常勤日本語教師の関わり方―専任日本語教師の関わり方との比較から―」（日本教育工学会 第35回全国大会）野瀬由季子・大山牧子・大谷晋也・岩居弘樹、2019.9

8. 学外運営

- ・国・地方公共団体（箕面市等）、医療事務連絡会 委員
- ・国・地方公共団体（箕面市・大阪大学）、みのおTAMASA（日本語支援活動等） 顧問
- ・その他、吹田市国際交流協会文化庁事業 運営委員
- ・その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

10. 講演

- ・「異文化「理解」と共生のために」高大連携特別講座（東洋大学附属姫路高等学校）2019.7
- ・「「すべての人にやさしいまち・箕面の創造」に向けた人権尊重のまちづくりとは」（第34回みのお市民人権フォーラム第一分科会コーディネーター）2019.12

1. 専門分野

微生物学、科学教育学、科学英語

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナーⅠ

○秋学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナーⅡ

(5) 国際交流科目

○春学期

Introduction to Scientific English（科学英語入門）

○秋学期

Science and Society（科学と社会）

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応（IRIS、豊中分室）
- ・留学生の個別相談対応

5. 学内運営

- ・学生生活委員会委員
- ・大阪大学留学生支援ネットワーク担当責任者
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・国際教育交流センター評価WG委員
- ・国際教育交流センター人権・セクシャルハラスメント対策委員
- ・国際教育交流センター財務委員
- ・国際教育交流センター研究倫理教育 実施担当
- ・国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- ・国際教育交流センター研究会 実施担当

6. 外部資金

- ・平成30年度～平成33年度科学研究費補助金若手研究（課題番号18K13256）
「進路として理系を選択するまで：生徒の意思決定プロセスの質的分析」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「教科書に『科学の本質』は記述されるか—日本とカナダの高等学校・生物（分子生物学分野）の比較研究」、岡本紗知 & 青井議輝、『科学教育研究』、査読有、43(2) 187-204
- 「文系観・理系観の形成プロセスの解明—国立大学の学生を対象として」、岡本紗知、『科学教育研究』、査読有、44(1) 14-29

(3) 口頭発表

- 「文系・理系観の形成プロセスの解明」、岡本紗知、日本科学教育学会第43回年会、2019年8月
- Voice in science writing: Is “objectivity” an ideal for scientific argumentation?, Sachiko Yasuda, Sachi Okamoto, *The Applied Linguistics Conference 2019*, 2019年11月, オーストラリア

8. 学外運営

- 国立教育政策研究所 平成29・30年改訂 学習指導要領英訳（仮訳）に関する検討会議（理科）

10. 講演

- “Living Abroad —Cross-Cultural Communication—”（専門日本語研修生対象セミナー）、2019年10月、国際交流基金関西国際センター

12. その他

- 新規来日国費留学生研究訪問コーディネート（4月・10月）
- 新規来日留学生への生活サポーターコーディネート（4月・10月）
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出会いの会」、運営、大阪大学国際教育交流センター（4月・10月）
- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、運営、大阪大学国際教育交流センター、2018年2月

1. 専門分野

教育社会学、比較教育学、シティズンシップ教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）

学問の扉（多文化コミュニケーションセミナーⅠ 多文化主義と多文化共生）

(2) 国際交流科目

○春夏学期

Sociological Perspectives on Education

○秋冬学期

Diversity, Equity and Citizenship

3. 学生指導

(3) その他

- 交換留学生（OUSSEP）の相談対応
- 教員による留学相談
- 国連ユースボランティアプログラム

5. 学内運営

- ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- 国際交流委員会 海外派遣候補者選考 WG 委員
- 国際教養・複合型プログラム（OUSSEP）運営WG 委員
- 国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- 国際教育交流センター 広報出版委員会 委員
- 国際教育交流センター 将来計画及び評価に関する原案の作成を行うWG 委員
- 国際教育交流センター 合理的配慮検討委員会 委員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金 若手研究 2019-2022 年度 課題番号 19K14125「ノルウェーの教育政策における多文化主義とその実践にかんする研究」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- Kitayama, Y., Kawaguchi, H., Hashizaki, Y. and Minamiura, R. (2020) ‘Teacher Education for Social Justice:

Case studies of Japanese and Norwegian educators', *Annals of Educational Studies*, No.25, pp.51-62, 査読無.

- 南浦涼介・川口広美・橋崎頼子・北山夕華（2020）「多様性の視点を日本の学校教員養成に取り入れるための教師教育者の戦略：ペダゴジーと制度の観点から」『東京学芸大学紀要 人文社会学系』第71集、pp.109-126、査読無.

(2) 雑誌等

- 北山夕華「イングランドのシティズンシップ教育から『主権者教育』を考える」『Voters』No.51、pp.6-7.

(3) 口頭発表

- Kitayama, Y. and Hashizaki, Y. 'Examining the ethics of care as an inclusive approach for education for social justice.' Korean Association for Multicultural Education International Conference, Seoul National University, 24 May 2019, 査読有.
- Kitayama, Y., Kawaguchi, H., Minamiura, R., Hashizaki, Y. 'Teacher education for inclusive and culturally sensitive classrooms: Case studies of two educators from Japan and Norway.' World Education Research Association Focal Meeting, Gakushuin University, 6 August 2019, 査読有.
- Kitayama, Y. 'Education for citizenship and global challenges to democracy: Case studies of educational initiatives in Norway.' 日本教育学会第78回大会 特別課題研究, 学習院大学、2019年8月7日、招待有.
- Kitayama, Y. 'Narratives of student teachers on cultural diversity, struggles, and citizenship.' European Conference on Educational Research, University of Hamburg, 4 September 2019. 査読有

8. 学外運営

- Japan Society for Promotion of Science Alumni Club Norway 理事
- BRIDGE Fellowship program 委員
- World Education Research Association Focal Meeting 査読者

12. その他

- シティズンシップ教育研究大会 2019 パネルディスカッション「シティズンシップ教育研究の語り方・語られ方」パネリスト、大阪国際大学 2019年8月26日.
- J-CEF スタディ・スタヂオ KYOTO「普遍的『自由』を問う—世界価値観調査を用いた、東アジアと西欧の文化的価値の検証—」コーディネーター、キャンパスプラザ京都、2020年1月7日.

1. 専門分野

グローバル教育、ESD、防災コミュニケーション、減災ガバナンス、地政学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○秋学期

多文化コミュニケーション

多文化コミュニケーション・セミナーII

(5) 国際交流科目

○秋学期

近現代日本の諸事情／Modern Japanese Circumstances

3. 学生指導

留学生交流情報室 IRIS・豊中分室などで生活・留学相談、地震・台風など災害時アドバイジング

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター広報・出版委員会
- ・留学生指導フロントスタッフネットワーク
- ・老年学研究会
- ・未来共創思考サロン「フォワイエ阪大（防災・減災・発災時コミュニケーション共創サロン）」

7. 研究業績

論文(査読付き)

- ・留学生ら災害情報弱者の避難行動におけるソーシャルメディアの有用性. 日本セーフティプロモーション学会誌. 第12巻2号. pp.33-36. 2019年10月. 査読有
- ・地球温暖化時代における博多湾高潮と予想される福岡市の都市災害. 自然災害研究協議会論文集. 44号. pp.1-4. 2020年2月. 査読有

学会抄録(査読なし)

- ・災害(情報)弱者の避難行動に必要な地域ソーシャルキャピタルの活用. 2019年度日本農村生活学会(第67回大会). 2019年10月. 明治大学駿河台キャンパス. 東京

その他

- ・多言語防災マップ作成システムと防災における人流データ解析手法の検討「災害対応多言語地図の作成および配信システムに関する研究」報告書. 2020年3月. 2019年度大阪大学国際共同研究促進プログラム

8. 学外運営

- 日本農村生活学会 理事・総務委員
- 日本セーフティプロモーション学会 編集委員・第13回学術大会（@大阪市）準備委員会役員
- 箕面市豊川南小学校地区防災委員会 委員（外国人市民支援班）
- 国立病院機構大阪医療センター「G20 現地医療対策本部（多言語・多文化対応班）」

9. 会議運営

- 大阪大学・地域ボランティア留学生支援連絡協議会、企画運営、大阪大学銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール、2020年2月
- 大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）「出合いの会」、企画運営、大阪大学国際教育交流センターほか、2019年4月、10月（計4回）

12. その他の活動

- 2019年度春学期 日本語日本文化教育センター「学生生活オリエンテーション@箕面キャンパス CJLCホール」、2019年4月
- 2019年度春学期 新規渡日留学生対象「セーフティプロモーション・CPR講習会@豊中キャンパス」企画運営 2019年4月
- 2019年度秋学期 日本語日本文化教育センター「学生生活オリエンテーション@箕面キャンパス CJLCホール」、2019年9月
- 2019年度秋学期 新規渡日留学生対象「セーフティプロモーション・CPR講習会@豊中キャンパス」企画運営 2019年11月

1. 専門分野

留学生教育、社会心理学、ディスコース分析

2. 授業担当

(1) 共通教育

○ 秋冬学期

Media and Communications in Japan

(2) 学部授業

○ 集中

共生行動論Ⅱ（人間科学部）

(3) 大学院授業

○ 集中

共生行動論特講Ⅱ（人間科学研究科）

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期；日本の社会とイデオロギー

○ 秋冬学期；日本のメディアとコミュニケーション

(6) その他

○ 演習科目

学外連携実習（ExPERT）

○ 集中プログラム

グローバル長期インターンシップ（UNYV）

グローニンゲン短期滞在学修

ニュージーランド「異文化体験」演習

日本語のバラエティ（UMOS）

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）春夏学期 81 名

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）秋冬学期 76 名

(6) その他

Japanese Short-stay In-session Program (J-ShIP)

06.18-08.09. Summer Program 45 名

Jan.02.-Feb.07 Winter Program

Extension Program for Education in Real-world Trainings (ExPERT)

Japanese Language and Culture

Aug.01-23

4. 教育（学外）

広島大学・客員教授

5. 学内運営

阪神ネット実務者会議メンバー

カリフォルニア大学連携ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング

学生交流プログラム検討ワーキング OUSSEP サブワーキング座長

7. 研究業績

(1) 論文

「日本における英語授業に対する満足度：留学生による9年間の授業アンケートの分析を中心に」（中野遼子、伊藤駿、近藤佐知彦）ジャーナル『未来共生』（印刷中）

(4) 発表

「英語による教養科目が日本人学生に与える影響の考察——学生による授業評価アンケートの分析を中心に——」中野遼子、伊藤 駿、近藤佐知彦、大阪大学第4回豊中地区研究交流会（ポスター発表）、2019年12月、会議報告／口頭発表

司会シンポジウム発表；教育シンポジウム「外国人の受入れ・多文化共生社会構築と高等教育の役割」10月11日 東京アルカディア市ヶ谷 私学会館

8. 学外運営

大阪府市都市魅力戦略推進会議委員

（公財）大阪府国際交流財団理事

（公財）吹田市国際交流協会理事長

（一社）一般社団法人外国人留学生高等教育協会理事

住環境・就職支援等留学生の受入環境支援事業「CARES-Osaka」阪大側運営委員

日本学生支援機構短期プログラム審査委員

官民協働「トビタテ！留学Japan」学識者選考委員

（公財）業務スーパージャパンドリーム財団奨学金選考委員

留学生教育学会理事・会長

アゴラブリタニカ（イギリス研究会）副会長

9. 会議運営

留学生教育学会 24 回研究大会（Aug.22-24、2019）

主催：留学生教育学会

会場：赤門会日本語学校（東京都板橋区）

※留学生教育学会会長として会議運営にあたった。

JAISE – KAIE Joint Seminar 2019 (Feb.03-10, 2019)

主催：KAIE (Korea Association of International Education)

※留学生教育学会会長として韓国での国際ネットワーキング会議のサポートにあたる予定であったが、COVID-19の影響を受け、開会が延期された。

12. その他

2016/10 から（公財）英語検定協会およびBritish Council Tokyo と連携して日本人学生と留学生がペアワークをする Project HELP! (Harmonized English Learning Program) を実施。2018年に引き続き、2019/08 にも（株）甲南学園サービスと連携して、「HELP! Plus」を展開。高校生向け集中講座を運営し、HELP! のメンターとなった学生に有償でメンタリングを行う機会を提供した。

瀬 井 陽 子

1. 専門分野

第二言語習得、日本語教育学、学習者オートノミー

2. 授業担当

(2) 学際融合科目

○秋冬学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションB

(4) 留学生日本語プログラム

○秋冬学期

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

3. 学生指導

該当なし

4. 教育（学外）

該当なし

5. 学内運営

・国際教育交流センター 教務委員会 委員

・マルチリンガル教育センター（兼任） OUマルチリンガルプラザ コーディネーター

6. 外部資金

該当なし

7. 研究業績

(1) 論文

・「学習者の自律学習ノートに見られる個々の学習の進め方」、郷矢明美、瀬井陽子、投稿、『関西学院大学日本語教育センター紀要』第9号、無、pp.21-35

・「これからのSALC（Self-Access Learning Center）の意義と課題」、瀬井陽子、投稿、『多文化社会と留学生交流』第24号、研究ノート、無、pp.19-26

・「日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム「OU日本語ひろば」の開発について」、義永美央子、角南北斗、瀬井陽子、難波康治、投稿、『多文化社会と留学生交流』第24号、実践報告、無、pp.27-34

(3) 口頭発表

・「共通理念に基づく実践をめぐる教師の話し合い——初級レベルにおける作文授業の変遷をもとに——」、第7回言語文化教育研究国際研究集会、フォーラム、西村由美、早川杏子、中岡樹里、志村ゆかり、

瀬井陽子、2019 年 12 月、於：ベトナム、ハノイ、タンロン大学

8. 学外運営

該当なし

9. 会議運営

該当なし

10. 講 演

該当なし

1. 専門分野

留学生教育、留学交流教育、異文化コミュニケーション

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○春学期

異文化コミュニケーションとパフォーマンス、“Intercultural Communication and Performance”

○秋学期

言語コミュニケーションとパフォーマンス、“Language Communication and Performance”

○集中

- ・イギリス「異文化体験」演習、“Pre-Study Abroad Intensive English Program in the UK”
- ・オーストラリア「異文化体験」演習、“Multicultural Interaction between Australia and Japan”
- ・ニュージーランド「異文化体験」演習、“Intercultural Experience in New Zealand”
- ・グローニンゲン短期滞在学修、“Groningen Intensive Short-Study Programme”
- ・グローバル・長期インターンシップ、“Global Internship (Long Term)”
- ・学外連携実習、“ExPERT (Extension Program for Education in Real-world Trainings)”

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP学生 81 名（春夏学期）、77 名（秋冬学期）

(6) その他

- ・J-ShIP学生 54 名（夏季 6/18～8/9）、34 名（冬季 1/6～2/7）
- ・ExPERT学生 1 名（7/1～9/1）
- ・夏季超短期プログラム 西南大学 12 名、大連理工大学 31 名（8/1～23）
- ・UMOSプログラム メルボルン大学 7 名（1/20～2/8）
- ・イギリス「異文化体験」演習 10 名
- ・ニュージーランド「異文化体験」演習 13 名
- ・グローニンゲン短期滞在学修 12 名
- ・国連ユースボランティアプログラム 2 名
- ・オーストラリア「異文化体験」演習 25 名
- ・教員による留学相談 124 名

5. 学内運営

- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営 Sub WG 委員
- ・海外派遣候補者選考 WG 委員
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員

- 国際教育交流センター 財務委員会 委員
- 教員による留学相談 実施担当
- 交換留学経験学生による留学相談 コーディネーター
- Project HELP! (Harmonized English Learning Program) コーディネーター

7. 研究業績

(1) 論文

- 「日本の大学における超短期受け入れプログラムの比較考察」、中野遼子（2020）、『多文化社会と留学生交流』第24号、大阪大学国際教育交流センター、無、pp.35-41
- 「日本における英語授業に対する満足度——留学生による9年間の授業評価アンケートの分析を中心に」、中野遼子・伊藤駿・近藤佐知彦（2020）、『未来共創』7号、大阪大学人間科学研究科未来共創センター、有、pp.221-240

(3) 口頭発表

- 「演劇的手法を用いた多文化コミュニケーション教育の実践研究——留学生と正規学生のコミュニケーションと人間関係構築の事例を中心に——」、2019年11月16日、多文化関係学会第18回年次大会、於 東京未来大学、審査有
- 「英語による教養科目が日本人学生に与える影響の考察——学生による授業評価アンケートの分析を中心に——」（ポスター発表）、中野遼子・伊藤駿・近藤佐知彦、2019年12月17日、大阪大学第4回豊中地区研究交流会、於：大阪大学、審査無

12. その他

- 「国際交流科目受講学生へのLearning Tips集作成ワークショップ」、平成31年度春夏学期・秋冬学期国際交流科目担当教員およびTA予定者対象オリエンテーションおよびFD研修の企画及びファシリテーター、2019年4月5日、於：大阪大学
- 株式会社甲南学園サービスセンターを実施主体とした「IELTSスピーキング&ライティング集中個別講座」（HELP!+）に、本学の学生メンターを募集・派遣するなど実施協力機関となり実施、2019年8月5日～7日、於：甲南大学平生記念セミナーハウス
- 「国際交流科目受講学生へのLearning Tips集作成ワークショップ——解決策編」、2019年度秋冬学期・2020年度春夏学期国際交流科目担当教員およびTA予定者対象オリエンテーションおよびFD研修の企画及びファシリテーター、2019年9月27日、於：大阪大学
- Project HELP!の交流イベントとしてHELP!の宣伝ビデオを作成（6-7月）
- Project HELP!交流会を石橋商店街にある「タローパン」の協力により3回開催、企画および引率を担当、2019年11月6日、12月11日、2020年1月21日、於：タローパン
- オーストラリア「異文化体験」演習の事前研修として、石橋南小学校と石橋商店街の協力の下、J-ShIP students（短期留学生）との交流学習会（コラボイベント）を実施（参加者は大阪大学生21名、冬季J-ShIP学生29名、児童18名）、企画及びファシリテーターを担当、2020年1月11日、於：石橋南小学校
- 関西大学・南海不動産共同研究「住まいと学びFG」の研究会に情報提供者として参加、2020年3月6日、於：関西大学千里山キャンパス

- アクティブラーニング・演劇ワークショップ研究会 vol.2、シンポジウム「演劇ワークショップを活用した国際交流について」にゲストとして参加、2020 年 3 月 1 日、於：京都烏丸 AKIKAN

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(1) 全学共通教育科目

○春・夏学期

専門日本語

(3) 大学院

○春・夏学期

応用マルチメディア論A

○秋・冬学期

応用マルチメディア論B

(5) 国際交流科目

○春・夏学期

総合日本語JA100

総合日本語JA500

○秋・冬学期

総合日本語JA100

総合日本語JA500

(6) インターナショナルカレッジ

○春・夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

○秋・冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

(7) その他

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3 (うち留学生は2)

(2) 博士前期課程 3 (うち留学生は2)

(3) 研究生 1 (うち留学生は1)

4. 教育 (学外)

・東北大学文学部 日本語学習とIT利用 (集中講義)

5. 学内運営

- 教育情報化WG
- CALL システム WG
- インターナショナルカレッジ教務委員会

7. 研究業績

(1) 論文

- 「日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム『OU日本語ひろば』の開発について」、義永美央子・難波康治・角南北斗・瀬井陽子、『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第24号

(3) 口頭発表

- 「日本語学習者による日本語の撥音の知覚判断——撥音に母音が後続する場合——」、韓 喜善・難波康治、韓国日語日文学會、2019年12月21日、於：韓国外国語大学校

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- 公益信託井内留学生奨学基金運営委員会委員

10. 講演

- 「大阪大学における全学留学生対象の日本語プログラムおよび日本語学習支援システムとしての『OU日本語ひろば』の紹介」、第13回大阪大学専門日本語教育研究協議会、2020年2月18日、於：大阪大学吹田キャンパス

1. 専門分野

言語哲学、言語心理学、日本語教育学

2. 授業担当

(3) 大学院

○ 春学期

応用言語学研究 A

言語文化教育論特別研究 A

○ 秋学期

応用言語学研究 B

言語文化教育論特別研究 B

(4) 留学生日本語プログラム

○ 春夏学期

IJ100 講義 (IJ100A・IJ100B 合同) 2 コマ

○ 秋冬学期

IJ100 講義

(5) 国際交流科目

○ 春夏学期

総合日本語 JA300-1

○ 秋冬学期

総合日本語 JA300-1

Psychology of language and Japanese language acquisition

(6) インターナショナルカレッジ

○ 春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

○ 秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 5 (うち留学生は 3)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生は 1)

(3) 研究生 1 (うち留学生は 1)

(4) 日本語集中コース生 19

4. 教育 (学外)

・関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究 F (集中講義)

- ・京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究Ⅲ（集中講義）

5. 学内運営

- ・評価委員会
- ・吹田地区事業場安全衛生委員会
- ・OUSSEP運営サブWG
- ・Maple運営サブWG
- ・日本語・日本文化研修留学生プログラム実施WG

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤C 課題番号 16K02811「ことば行為についての対話論的対照研究 ― 対面的相互行為におけることばの日英比較」平成 28 年度～平成 31 年度（研究代表者）

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「世界内存在とことば ― 第二言語教育における実存論的転回に向けて」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 24 号、研究ノート、無、pp.9-18

(3) 口頭発表

- ・「言語の学習とクリエイティビティ」、言語文化教育研究学会第 6 回年次大会パネルセッション『声の獲得とクリエイティビティ』（西口光一代表、小原俊彦、百濟正和共同）、2020 年 3 月 8 日、於：同志社大学 ※コロナウイルスの影響で大会が中止となったので、予稿集公開をもって発表と代えられた。

8. 学外運営

- ・公益社団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- ・国立大学日本語教育研究協議会 代表理事（2016 年 6 月から）
- ・大阪教育大学 日本語教育プログラム教育課程検討実施委員会及び日本語教育プログラム事業評価委員会 委員
- ・京都女子大学 日本語教師養成課程カリキュラム検討部会及び評価部会 委員
- ・四国大学 日本語教員養成課程検討・実施委員会及び日本語教員養成課程評価委員会 委員

10. 講演

- ・「表現活動中心の日本語教育とNIJ」立命館大学日本語教育センター教員研修会、2019 年 6 月 27 日、於：立命館大学大阪茨木キャンパス AS358 教室
- ・「表現活動中心の日本語教育のNEJ」、コミュニケーション学院教師研修会、2019 年 7 月 24 日、於：コミュニケーション学院
- ・「表現活動中心の日本語教育とNEJとNIJ」、北九州YMCA日本語教師ブラッシュアップ講座、2019 年 9 月 14 日、於：北九州YMCA
- ・「これから求められる日本語教育人材とその育成について」、四国大学日本語教員養成課程検討・実

施委員会、2019 年 10 月 12 日、於：四国大学

- 「つながる日本語力を育てる表現活動中心の日本語教育」、ひょうご日本語教師連絡会議研修会、2019 年 12 月 7 日、於：国際健康開発センター 5 階会議室
- 「日本語教員養成における重要な教育課題は何か——『日本語を教えること』と『日本語上達を支援すること』」、四国大学日本語教員養成課程検討・実施委員会、2020 年 2 月 21 日、於：四国大学
- 「つながりながら、つながる日本語を身につける」、徳島県国際交流協会日本語支援ボランティアスキルアップ講座、2020 年 2 月 22 日、於：徳島県国際交流協会

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春学期

学問への扉（多文化コミュニケーションセミナーⅠ―国際協力と異文化理解Ⅰ―）／
多文化コミュニケーション（日本語）

○秋学期

多文化コミュニケーションセミナーⅡ/多文化コミュニケーション（日本語）

(2) 学際融合教育科目

○春学期

上級専門日本語（アカデミックリーディング）A

○秋学期

上級専門日本語（アカデミックリーディング）B

(3) 大学院

○春学期

言語文化政策論A

○秋学期

言語文化政策論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス
アカデミックリーディングJR600/JR700（日本語）

○秋学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス
アカデミックリーディングJR600/JR700（日本語）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程* 1（うち留学生1）*人間科学研究科

(2) 博士前期課程 2（うち留学生2）

(4) 日本語研修生 18

(5) 日韓共同理工系学部留学生（予備教育生） 5

5. 学内運営

・日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG（日本語科目コーディネーター）

- 男女協働推進センター会議委員
- ハラスメント相談室全学相談員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：19H01446 平成 31 年度～令和 5 年度「政策波及の政治的動態と中央地方関係 — タイ、フィリピン、インドネシアの比較」（研究代表者：永井史男）、研究分担者
- 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所 平成 31 年度「東南アジアにおける地方自治の展開：サーベイ調査にもとづく分析」（主査・幹事：船津鶴代）、委員

7. 研究業績

(1) 論文

- 「2018 年インドネシアの地方自治意識調査」小林盾・岡本正明・長谷川拓也・籠谷和弘・西村謙一・永井史男、『法学雑誌』第 65 巻第 3・4 号、2019 年 12 月、323-375 頁。
- 「東江日出郎、『フィリピンにおける民主的地方政治権力誕生のダイナミクス』、『東南アジア研究』（京都大学）第 57 巻第 1 号、98-101 頁。

(2) 著書

- 「地方分権化後の自治体における政策決定過程」永井史男・岡本正明・小林盾編『東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析 — タイ、フィリピン、インドネシアの地方エリートサーベイから』晃洋書房
- 「フィリピン地方自治における開発評議会の効果 — 住民参加制度は自治体のパフォーマンスにどのような影響を与えるのか —」永井史男・岡本正明・小林盾編『東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析 — タイ、フィリピン、インドネシアの地方エリートサーベイから』晃洋書房
- 「誰が政策過程に参加するのか？ — フィリピン政治の変化の可能性 —」戸田真紀子・三上貴教・勝間靖編著『改訂版 国際社会を学ぶ』晃洋書房

(3) 口頭発表

- “What Improves Local Environmental Governance in the Philippines?: From Results of Philippine Local Government Survey”, Kenichi Nishimura, 2019 Asian Association for Public Administration Annual Conference, May 24, 2019.
- “What Affect the Performance of the Environmental Governance of the Local Governments in the Philippines?”, Kenichi Nishimura, 27th EROPA General Assembly and Conference, University of the Philippines, September 25, 2019.

8. 学外運営

- 兵庫県立高等学校 学校評議員、同 SGH 企画推進委員会委員長

12. その他

- 日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目コーディネーションおよびホームルーム担当

1. 専門分野

言語学、音声学、日本語学、韓国語学

2. 授業担当

(3) 大学院

該当なし

(4) 留学生日本語プログラム

該当なし

(5) 国際交流科目

該当なし

(6) インターナショナルカレッジ

該当なし

3. 学生指導

該当なし

4. 教育（学外）

該当なし

5. 学内運営

該当なし

6. 外部資金

(1) 「日本語における音韻的対立と音声的実現の曖昧さ」(科学研究費補助金 若手研究 課題番号：19K13179 研究代表者：韓 喜善) (2019 年 4 月～2022 年 3 月)

(2) 「個々の話者にとっての母語の母音カテゴリーと英語の母音の知覚・生成の関連について」(科学研究費補助金 基盤C 課題番号：16K02650 研究代表者：野澤 健) (2016 年 4 月～2020 年 3 月) 研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・「韓国語母語話者による英語母音の知覚 ― 母音の比較における話者の組み合わせの認知への影響について ―」、韓喜善、『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』24、学術論文、査読有、pp.1-7.
- ・「F0 influence on the perception of Korean initial stops, affricates and fricatives by Japanese learners of Korean」、韓喜善、『大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト2019 音声言語の

研究』14、学術論文、査読無（印刷中）.

(2) 口頭発表

- 「日本語学習者による日本語の撥音の知覚判断—母音に撥音が後続する場合—」、韓喜善・難波康治、『韓国日語日文学会 冬季国際学術大会』、2019年12月、国際会議（proceedingsあり）、於：韓国ソウル（韓国外国語大学）

8. 学外運営

近畿音声言語研究会 世話役

9. 会議運営

該当なし

10. 講演

該当なし

1. 専門分野

専門日本語教育研究、日本語教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春夏学期

総合日本語

○秋冬学期

総合日本語

(5) 国際交流科目

○春夏学期

総合日本語 JA400-1

○秋冬学期

総合日本語 JA200-1

(6) インターナショナルカレッジ

○春夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

○秋冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

(7) その他

○夏季J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2019年6月18日～8月9日まで）

コーディネーション及び授業担当（週に6コマ）

○夏季超短期プログラム（大連理工大学、西南大学、2019年8月1日～8月23日まで）

コーディネーション

○冬季J-ShIP（ショートステイ学期内日本語専修プログラム、2020年1月6日～2月7日まで）

コーディネーション及び授業担当（週に6コマ）

○UMOS（Faculty-ledのメルボルン大プログラム、2020年1月20日～2月8日まで）

コーディネーション

5. 学内運営

教務委員会

7. 研究業績

(3) 口頭発表

- ・「日本語初級段階からのアカデミックプレゼンテーション教育」（ポスター発表）、2019年12月17日、大阪大学第4回豊中地区研究交流会、於：大阪大学

- 「留学生によるプレゼンテーションをいかに評価するか―日本語教員と他分野教員に対するインタビュー調査の事例分析から―」（ポスター発表）『第22回専門日本語教育学会研究討論会誌』pp.12-13、2020年3月6日、第22回専門日本語教育学会研究討論会、於：金沢大学

村 岡 貴 子

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

- 春～夏学期
専門日本語 A
- 秋～冬学期
専門日本語 B

(2) 大学院

- 春～夏学期
言語技術研究 A
言語コミュニケーション論特別研究 A
- 秋～冬学期
言語技術研究 B
言語コミュニケーション論特別研究 B

(3) 留学生日本語プログラム

- 春～夏学期
日本語集中コース IJ200 (読解)
選択コース JW600/700 (アカデミックライティング)
- 秋～冬学期
日本語集中コース IJ200 (読解)
選択コース JW600/700 (アカデミックライティング)

(6) その他

- 学際融合教育科目
前期「上級専門日本語 アカデミックライティング A」
後期「上級専門日本語 アカデミックライティング B」

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 1 (うち留学生は 1)
- (2) 博士前期課程 2 (うち留学生は 2)
- (3) 日本語集中コース生 17
- (4) 日韓共同理工系学部留学生予備教育生 5

5. 学内運営

- ・教育課程委員会委員

- 大学院言語文化研究科兼任教員
- マルチリンガル教育センター兼任教員
- 日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG座長
- ASEANキャンパス運営WGメンバー
- グローバル教育運営委員会オブザーバー
- 人文系教育研究組織構想検討WGオブザーバー
- 国際教育交流センター財務委員会委員長

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：19H01269 令和元年度～令和4年度「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：16H03434 平成28年度～平成31年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」、（研究代表者：太田亨）研究分担者
- 科学研究費補助金基盤研究（C） 課題番号：17K02878 平成29年度～平成31年度「アカデミック・ライティング技術の習得を目指したピア・レスポンスの実証的研究」、（研究代表者：烏日哲）、研究分担者
- 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」プロジェクト構成員

7. 研究業績

(2) 著書

- 村岡貴子（2020a）「論文作成における文献引用法の改善 学習者は先行研究の引用法をどのように学ぶのか」石黒圭・烏日哲編『どうすれば論文・レポートが書けるようになるのか——学習者から学ぶピア・レスポンス授業の科学』（第5章）ココ出版、pp.73-96
- 村岡貴子（2020b）「論文執筆を目的とした日本語学習者の読解」野田尚史編『日本語学習者の読解過程』ココ出版、pp.245-263

(3) 口頭発表

- 村岡貴子・鎌田美千子・中島祥子・石黒圭・堀一成（2019）「大学における日本語ライティング教育の課題と可能性——言語スキル養成からライティング支援人材の育成まで——」パネルセッション、2019年度日本語教育学会春季大会、2019.5.25、つくば国際会議場、応募
- 村岡貴子（2019）「日韓生の今後の社会人としての活躍に対する期待——大阪大学の事例をもとに——」発表・パネルディスカッション『日韓理工系プログラムによる人材育成の活用を考える』2019年度日韓共同プログラム留学生事業協議会、2019年6月28日、岡山市、ピュアリティまきび、招待

8. 学外運営

- 日本語教育学会調査研究推進委員会委員、2015年6月～2019年5月
- 日本語教育学会審査・運営協力員、2017年9月～
- 専門日本語教育学会代表幹事、2015年3月～

- ・専門日本語教育学会編集幹事・副編集長、2018年3月～

12. その他

- ・日韓共同理工系学部留学生対象日本語科目アドバイザー担当

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育科目

○春～夏学期

専門日本語

○秋～冬学期

専門日本語

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションA

(3) 大学院

○春～夏学期

言語コミュニケーション論A

言語コミュニケーション論特別研究A

○秋～冬学期

言語コミュニケーション論B

言語コミュニケーション論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○春～夏学期

選択コースJC600/700（アカデミックコミュニケーション）

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語JA200-1

○秋～冬学期

総合日本語JA400-1

(6) インターナショナルカレッジ

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 6 (うち留学生は1)
- (2) 博士前期課程 3 (うち留学生は1)

5. 学内運営

- ・人権問題委員会委員 (全学)
- ・ハラスメント相談室専門アドバイザー (全学)
- ・学生生活委員会委員 (全学) (2019年8月まで)
- ・学生支援小委員会委員 (全学) (2019年8月まで)
- ・学生生活調査専門委員 (全学) (2019年8月まで)
- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・国際教育交流センター教務委員長
- ・国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 19K00708 平成31年度～令和4年度「大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発」、研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・義永美央子 (2019) 「第二言語学習者が教室で『わたし』を語るとき——日本で学ぶ大学院研究留学生の事例から——」佐藤慎司編『コミュニケーションとは何か——ポスト・コミュニケーション・アプローチ』くろしお出版. pp.100-127.
- ・義永美央子・角南北斗・瀬井陽子・難波康治 (2020) 「日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム『OU日本語ひろば』の開発について」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』24号、pp.27-34、2020年3月、査読無

(2) 著書

- ・義永美央子・嶋津百代・櫻井千穂 (編著) (2019) 『ことばで社会をつなぐ仕事——日本語教育者のキャリアガイド——』凡人社

(3) 口頭発表

- ・義永美央子 (2020) 「中堅日本語教師研修における越境的対話と越境知」(北出慶子・香川秀太・山口洋典とのパネルセッション「越境による『第三の知』創造を目指した実践——交差と衝突による変容から言語文化教育の展望を考える——」における話題提供) 言語文化教育研究学会第6回年次大会、査読有 (コロナウイルス感染拡大により大会は中止となったが、予稿集掲載を以て発表とみなすことが決定された)

8. 学外運営

- ・日本語教育学会 大会委員 (2019年6月まで)

- 日本語教育学会 常任理事（2019年7月から）
- 社会言語科学会 編集委員
- 第二言語習得研究会 査読委員（2019年12月まで）
- 第二言語習得研究会 大会運営委員副委員長（2020年1月から）
- 言語文化教育研究学会 査読協力者

9. 会議運営

- 2019年度日本語教育学会春季大会、企画運営、於つくば国際会議場、2019年5月

12. その他

- 文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」（事業区分：（2）日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に関する研修）「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修事業」（JCN事業）専門委員
- 日本言語政策学会第21回研究大会パネルセッション「外国人受入れに向けた学校、企業、公共サービスの課題——国内外の受入れ側の研修プログラムを通して考える——」（登壇者：岡本能里子、平高史也、村田和代、岩田一成）コメンテーター（2019年6月9日、於関西学院大学）

資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2019 年度 留学生日本語プログラム 時間割

春～夏学期・吹田キャンパス 科目種別： 留学生日本語選択コース 国際交流科目 日本語集中コース 学際融合教育科目

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当
Ⅰ 8:50 ～ 10:20	1									JB100-T1-2	総合日本語 上仲
	2										
	3			JB300-1	総合日本語		小原				
	4										
	5			JB100-T1-1	総合日本語		滑川				
	6			JB200-T1-1	総合日本語		山崎				
Ⅱ 10:30 ～ 12:00	1			チュートリアル	IJ100A (漢字と語彙)		TA 笹川			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系) IJ100A (漢字と語彙)
	2	JK201	TA リナ		IJ200		山崎	チュートリアル	TA リナ		
	3	JK301	TA 笹川		IJ300		半田				
	4					チュートリアル	IJ300 I100B (漢字と語彙)		菅		
	5	合同講義		JB100-T2-1	総合日本語		岡田		TA 久保		
	6	国際交流科目	我が国の保健サービスと医療ケア	祖父江	総合日本語		滑川			JB100-T2-2	総合日本語
Ⅲ 13:00 ～ 14:30	1			IJ100A	IJ100A (漢字と語彙)		滝井			チュートリアル	IJ100B (漢字と語彙)
	2			IJ200	IJ200		山崎				
	3			IJ300	IJ300		半田				
	4			IJ100B	IJ100B		浦木				
	5										
	6	国際交流科目	異文化コミュニケーションとバリエーション	中野							
Ⅳ 14:40 ～ 16:10	1			IJ100A	IJ100A (漢字と語彙)		滝井				
	2			IJ200	IJ200		村岡				
	3				日本語テーブル		たけのこ				
	4			IJ100B	IJ100B		浦木				
	5			JW400/500	アカデミック ライティング		韓				
	6			JC600/700	アカデミック コミュニケーション		義永				
Ⅴ 16:20 ～ 17:50	1										
	2			学際融合	アカデミック ライティング		村岡				
	3										
	4										
	5										
	6	JR600/700	アカデミック ライティング	西村		合同講義	IJ100A/100B		西口		

時間帯	月			火			水			木			金		
	授	業	担当	講義室	授	業	担当	講義室	授	業	担当	講義室	授	業	担当
I 8:50 ～ 10:20	JA100 -T1/T2	総合日本語 (講義)	難波	C306	JA100 -T1	総合日本語	岡田	C308	JA100 -T1	総合日本語	蔭山	C106			
	JA200 -T1/T2	総合日本語 (講義)	義永	C305	JA100 -T2	総合日本語	花井	C403	JA100 -T2	総合日本語	花井	B306			
	JA300 -T1	総合日本語	上仲	C409	JA200 -T1	総合日本語	上仲	B306	JA200 -T1	総合日本語	矢部	A103			
	JA300 -T2	総合日本語	岡崎	C405	JA200 -T2	総合日本語	半田	B316	JA200 -T2	総合日本語	半田	A305			
	JA400 -T1	総合日本語	田中	B306	JA300 -T1/T2	総合日本語 (講義)	西口	C204	JA300 -T1	総合日本語	滝井	文理融合棟 4F401			
	JA400 -T2	総合日本語	矢部	C408	JA400 -T1	総合日本語	小原	C406	JA300 -T2	総合日本語	岡崎	文理融合棟 5F501			
	JA500 -T1	総合日本語	菅	C107	JA400 -T2	総合日本語	矢部	文法経・ 演習室 3	JA400 -T1/T2	総合日本語 (講義)	福良	法経・研究棟 509			
	JA500 -T2	総合日本語	滝井	C105	JA500 -T1	総合日本語	藤澤	C404	JA500 -T1/T2	総合日本語 (講義)	難波	文法経・ 32 審教室			
	JA600 -T1/T2	総合日本語 (講義)	大谷	C403	JA500 -T2	総合日本語	滝井	C105	JA600 -T1	総合日本語	小原	文法経・ 演習室 4			
					JA600 -T1	総合日本語	岡崎	C307	JA600 -T2	総合日本語	伊藤	法経研究棟305 セミナー室			
II 10:30 ～ 12:00					多文化コミュニケーション			A304							
III 13:00 ～ 14:30															
IV 14:40 ～ 16:10								B107							
V 16:20 ～ 17:50	専門日本語	義永	A212 (HALC1)		総合日本語	総合日本語	大谷	C207 (HALC3)	専門日本語	専門日本語	難波	C405	総合日本語	福良	C207 (HALC3)
	多文化コミュニケーション	岡本	A305		多文化コミュニケーション	多文化コミュニケーション	西村	C107	多文化コミュニケーション	多文化コミュニケーション	北山	C308			

時間帯	講義室	月		火		水		木		金	
		授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当	授 業	担当
Ⅰ 8：50 ～ 10：20	1			JA100-T5	浦木			JA100-T5	韓	JA100-T5	浦木
	2			JB200-T1-1	山崎					JB200-T1-2	滑川
	3										
	4										
	5			JB100-T1-1	岡田					JB100-T1-2	上仲
	6			JB300-T1-1	滑川			JK202/302	TA茶園	JB300-T1-2	矢部
Ⅱ 10：30 ～ 12：00	1	IJ100 漢字と語彙 (非漢字系)	西口	チュートリアル	TA笹川	チュートリアル	IJ100 (漢字と語彙)	チュートリアル	TA久保	チュートリアル	TA久保
	2	JK201	TAリナ	IJ200	山崎	チュートリアル	IJ200 (漢字と語彙)	IJ200	村岡	JB100-T2-2	竹内
	3	JK301	TA笹川	IJ300	半田			IJ300	松田		
	4	専門基礎 日本語①	KOSMOS	JB100-T2-1	滑川	理系 日本語①	KOSMOS			専門教科 英語	スミス
	5			JB200-T2-1	岡田	JW400/500	アカデミック ライティング			JB200-T2-2	滑川
	6			JB300-T2-1	小原					JB300-T2-2	梅本
Ⅲ 13：00 ～ 14：30	1	IJ100	蔭山	IJ100	滝井	IJ100		IJ100	蔭山	IJ100	浦木
	2	IJ200	小原	IJ200	山崎	IJ200		IJ200	小原	IJ200	笹川
	3	IJ300	西村	IJ300	半田	IJ300		IJ300	松田	チュートリアル	TA久保
	4	専門教科 物理I	KOSMOS		寺井	理系 日本語②	KOSMOS			専門基礎 日本語③	上仲
	5			日本語テーブル（休みも）		B1500/600/700	ビジネス日本語 コミュニケーション	JC400/500-T2	アカデミック コミュニケーション		
	6	国際交流科目	言語コミュニケーション ハフターマンズ								
Ⅳ 14：40 ～ 16：10	1	IJ100	蔭山	IJ100	滝井	IJ100		IJ100	蔭山	IJ100	浦木
	2	IJ200	小原	日本語テーブル				IJ200	小原	IJ200	笹川
	3										
	4	専門教科 物理II	KOSMOS	金		専門基礎 日本語②	KOSMOS			専門基礎 日本語④	上仲
	5			JC400/500-T1	菅					国際交流科目	蔵満
	6			JC600/700	瀬井						
Ⅴ 16：20 ～ 17：50	1										
	2										
	3										
	4										
	5	国際交流科目	言語心理学と 日本語の習得	JW600/700	村岡						
	6	JR600/700	アカデミック ライティング	西村	西村						

秋～冬学期・豊中キャンパス 国際交流科目 & KOSMOS & 全学共通教育科目

科目種別： 国際交流科目 (日本語: JA) 全学共通教育科目 KOSMOS

時間帯	月			火			水			木			金			
	授業	担当	講義室	授業	授	担当	講義室	授業	授	担当	講義室	授業	授	担当	講義室	
Ⅰ 8:50 ~ 10:20				JA100-T1/ T2/T3/T4	総合日本語 (講義)	難波	C306	JA100-T1	総合日本語	岡田	C404	JA100-T1	総合日本語	蔭山	A305	
				JA200 -T1/T2	総合日本語 (講義)	福良	C206	JA100-T2	総合日本語	花井	B316	JA100-T2	総合日本語	花井	C405	
				JA300-T1	総合日本語	上仲	C405	JA100-T3	総合日本語	住吉	B206	JA100-T3	総合日本語	住吉	C303	
				JA300-T2	総合日本語	岡崎	C107	JA100-T4	総合日本語	山田	C105	JA100-T4	総合日本語	伊藤	法経 505 セミナー室	
				JA400-T1	総合日本語	田中	C407	JA200-T1	総合日本語	上仲	C305	JA200-T1	総合日本語	矢部	B218	
				JA400-T2	総合日本語	矢部	C408	JA200-T2	総合日本語	半田	C204	JA200-T2	総合日本語	半田	A214	
				JA500-T1	総合日本語	菅	C409	JA300 -T1/T2	総合日本語 (講義)	西口	C406	JA300-T1	総合日本語	川光	C306	
				JA500-T2	総合日本語	滝井	C304	JA400-T1	総合日本語	小原	C205	JA300-T2	総合日本語	岡崎	B118	
				JGU600	グローバル 理解演習	大谷	C403	JA400-T2	総合日本語	矢部	C107	JA400 -T1/T2	総合日本語 (講義)	義永	B306	
Ⅱ 10:30 ~ 12:00				JA100-T1/ T2/T3/T4	総合日本語 (講義)	難波	A202					日本事情・ 異文化適応	KOSMOS	花井	共 C405	
				化学	KOSMOS	立光	共 C409									
Ⅲ 13:00 ~ 14:30				化学	KOSMOS	立光	共 C409					数学	KOSMOS	畑中	共 C セミナー室4	
				数学	KOSMOS	宮田	共 C204									
Ⅳ 14:40 ~ 16:10																
Ⅴ 16:20 ~ 17:50	専門日本語	義永	共 C207	専門日本語	大谷	共 C208	共 C207	専門日本語	村岡	共 C405	総合日本語	福良	共 C207			
	多文化コミュニケーション	岡本	共 A305	多文化コミュニケーション	西村	共 C107	共 C307	多文化コミュニケーション	大谷	共 B307	多文化コミュニケーション	後藤	SC セミナー室A			

資料2 2019年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数（実人数）一覧

2-1 春～夏学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研究科 / 学部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科 / 文学部	8	3	2	0	2	1
人間科学研究科 / 人間科学部	7	3	3	1	0	0
法学研究科 / 法学部	5	5	0	0	0	0
経済学研究科 / 経済学部	4	3	1	0	0	0
理学研究科 / 理学部	8	2	6	0	0	0
医学系研究科 / 医学部	13	0	8	5	0	0
歯学系研究科 / 歯学部	1	0	0	1	0	0
薬学研究科 / 薬学部	1	0	1	0	0	0
工学研究科 / 工学部	52	9	34	4	0	5
基礎工学研究科 / 基礎工学部	7	1	5	0	1	0
言語文化研究科	7	0	2	5	0	0
国際公共政策研究科	2	0	0	2	0	0
情報科学研究科	9	0	8	1	0	0
社会経済研究所	0	0	0	0	0	0
産業科学研究所	4	0	0	4	0	0
生命機能研究科	1	0	1	0	0	0
接合科学研究所	0	0	0	0	0	0
レーザー科学研究センター	1	0	0	1	0	0
免疫学フロンティア研究センター	0	0	0	0	0	0
蛋白質研究所	1	0	0	1	0	0
国際教育交流センター ^{*3}	4	0	0	4	0	0
計 ^{*5}	135	26	71	29	3	6

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。

*3. 国際教育交流センター欄の研究生4名は、他大学配属日本語集中コース生。

*4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。

*5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	11	0	10	1	0	0
200	39	4	25	7	0	3
300	22	3	8	10	0	1
400	9	1	6	2	0	0
500	14	5	6	2	0	1
600	18	9	2	4	2	1
(超上級レベル) 700 [*]	22	4	14	3	1	0
計	135	26	71	29	3	6

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。ただし、「ビジネス日本語コミュニケーション 500/600/700」は除く。

2-2 秋～冬学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*4}	研究生 ^{*1}	特 別 研究学生 ^{*2}	特 別 聴講学生 ^{*2}
文学研究科/文学部	6	3	1	1	1	0
人間科学研究科/人間科学部	13	7	3	1	1	1
法学研究科/法学部	6	6	0	0	0	0
経済学研究科/経済学部	8	7	1	0	0	0
理学研究科/理学部	8	0	8	0	0	0
医学系研究科/医学部	27	8	6	12	0	1
歯学系研究科/歯学部	4	0	4	0	0	0
薬学研究科/薬学部	4	3	1	0	0	0
工学研究科/工学部	68	11	48	1	4	4
基礎工学研究科/基礎工学部	7	3	2	2	0	0
言語文化研究科	3	0	1	2	0	0
国際公共政策研究科	0	0	0	0	0	0
情報科学研究科	12	0	6	6	0	0
社会経済研究所	2	0	0	2	0	0
産業科学研究所	4	0	0	4	0	0
生命機能研究科	7	0	5	1	0	1
連合小児発達学研究科	1	0	0	1	0	0
接合科学研究所	2	0	0	2	0	0
微生物病研究所	1	0	0	1	0	0
レーザー科学研究センター	2	0	0	2	0	0
国際教育交流センター ^{*3}	3	0	0	3	0	0
計 ^{*5}	188	48	86	41	6	7

【特記事項】

*1. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。

*2. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。

*3. 国際教育交流センターの研究生3名は、他大学配属日本語集中コース生。

*4. 大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。

*5. JA（国際交流科目）科目受講学生は含まない。

また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	35	2	21	8	1	3
200	32	1	26	3	2	0
300	43	8	21	12	1	1
400	20	7	6	6	1	0
500	15	8	3	4	0	0
600	25	16	1	4	1	3
(超上級レベル) 700 [*]	18	6	8	4	0	0
計	188	48	86	41	6	7

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。ただし、「ビジネス日本語コミュニケーション 500/600/700」は除く。

資料 3-1 国際交流科目授業時間割（平成 31 年 春・夏学期）

時 限	時 間	月	火		水	木		金		
		吹田キャンパス	豊中／吹田キャンパス		豊中／吹田キャンパス	豊中／吹田キャンパス		吹田／箕面キャンパス		
Ⅰ	8:50 ～ 10:20		日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 500, 600-1, 600-2) 《国際教育交流センター》				
			100：難波 康治 200：義永美央子 300-1：上仲 淳 300-2：岡崎 洋三 400-1：田中 真衣 400-2：矢部 正人 500-1：菅 摂子 500-2：滝井 未来 600：大谷 晋也		100-1：岡田亜矢子 100-2：花井 理香 200-1：上仲 淳 200-2：半田佳奈子 300：西口 光一 400-1：小原 俊彦 400-2：矢部 正人 500-1：藤澤 好恵 500-2：滝井 未来 600-1：岡崎 洋三 600-2：山田真知子		100-1：藤山 拓 100-2：花井 理香 200-1：矢部 正人 200-2：半田佳奈子 300-1：滝井 未来 300-2：岡崎 洋三 400：福良 直子 500：難波 康治 600-1：小原 俊彦 600-2：伊藤 創			
			100：全学教育 C306 200：全学教育 C305 300-1：全学教育 C409 300-2：全学教育 C405 400-1：全学教育 C306 400-2：全学教育 C408 500-1：全学教育 C107 500-2：全学教育 C105 600：全学教育 C403		100-1：全学教育 C308 100-2：全学教育 C403 200-1：全学教育 B306 200-2：全学教育 C316 300：全学教育 C204 400-1：全学教育 C406 400-2：全学教育 文法経・演習室3 500-1：全学教育 C404 500-2：全学教育 C105 600-1：全学教育 C307 600-2：全学教育 C305		100-1：全学教育 C106 100-2：全学教育 B 306 200-1：全学教育 A103 200-2：全学教育 A305 300-1：文理融合棟 4F401 300-2：文理融合棟 5F501 400：法経・演習室 2 500：文法経講義棟 32 講義室 600-1：文法経・演習室 4 600-2：法経研究棟 505 セミナー室			
Ⅱ	10:30 ～ 12:00	我が国の保健サービスと医療ケア 《医学部》	日本法の諸問題 《法学部》	文化人類学入門 《人間科学部》	比較法の諸問題 《法学部》	日本の社会階層 《人間科学部》	科学英語入門 《国際教育交流 センター》			
		祖父江友孝	Elbalti Beligh	MOHACSI Gergely	Elbalti Beligh	Paola Cavaliere	岡本 紗知			
		IC Hall Room 6	文法経講義棟 22 講義室	全学教育 SC セミナー室 B	文法経講義棟 22 講義室	人間科学部 本館 32	全学教育 C407			
Ⅲ	13:00 ～ 14:30	異文化コミュニケーションと パフォーマンス 《国際教育交流センター》	比較社会学 《人間科学部》	ジェンダー論 《人間科学部》	デリバティブ 市場の数学 《基礎工学部》	生物学演習 A 《理学部》				
		中野 遼子	Scott NORTH	Paola Cavaliere	深澤 正彰	高木 慎吾				
		IC Hall Room 6	人間科学部 東館 E 106	全学教育 SC セミナー室 B	全学教育 A103	理学研究科 A427 (生物セミナー室)				
Ⅳ	14:40 ～ 16:10	バイオテクノロジー入門 《工学研究科》	イノベーション の管理と変遷 《国際教育交流 センター》	教育の社会学 《国際教育交流 センター》	オンライン・リ ソースを活用し た L2 学習 《国際教育交流 センター》	日本の社会とイデオロギー 《国際教育交流センター》	日本芸術瞥見 《人間科学部》	家族と結婚の 社会学入門 《人間科学部》	異文化理解演習 《外国語学部》	バイオエシックスと ヘルスロー：バイオ テクノロジー、先端 医療、ヘルスケア・ システムにおける法 的諸問題《法学部》
		渡邊 肇	三森八重子	北山 夕華	魚崎 典子	近藤佐知彦	高安 啓介	Viktoriya KIM	波多野吉徳	瀬戸山晃一
		工学研究科 C3 棟 4 階 サントリーメモリアルホール	全学教育 スチュー デントコ モンズ C	文理融合棟 4F402	サイバー メディア センター CALL 教 室第 1B 教室	文理融合棟 講義室 3	文学研究科 芸術研究棟 芸 3 講義室	全学教育 C304	外国語学部 A101	豊中総合会館 L 3
Ⅴ	16:20 ～ 17:50									

資料 3-2 国際交流科目授業時間割（平成 31 年 秋・冬学期）

時 限	時 間	月		火	水		木		金		
		吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/吹田/箕面キャンパス	
I	8:50 ～ 10:20			日本語 JA (100-1, 100-2, 100-5 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 日本語・グローバル理解演習 JGU600a) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-3, 100-4, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 日本語・グローバル理解演習 JGU600b) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-3, 100-4, 100-5, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 500, 日本語・グローバル理解演習 JGU600c) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-5) 《国際教育交流センター》	
				100-1,2: 難波 康治 100-5: 浦木 貴和 200 : 福良 直子 300-1: 上仲 淳 300-2: 岡崎 洋三 400-1: 田中 真衣 400-2: 矢部 正人 500-1: 菅 摂子 500-2: 滝井 未来 JGU600a: 大谷 晋也		100-1: 岡田亜矢子 100-2: 花井 理香 100-3: 住吉 秀紀 100-4: 山田真知子 200-1: 上仲 淳 200-2: 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1: 小原 俊彦 400-2: 矢部 正人 500-1: 藤澤 好恵 500-2: 竹内 茜 JGU600b: 岡崎 洋三		100-1: 藤山 拓 100-2: 花井 理香 100-3: 住吉 秀紀 100-4: 伊藤 創 100-5: ハン ヒソン 200-1: 矢部 正人 200-2: 半田佳奈子 300-1: 川光 真二 300-2: 岡崎 洋三 400 : 義永美央子 500 : 難波 康治 JGU600c: 小原 俊彦		浦木 貴和	
				100-1,2: 全学教育 C306 100-5: IC Hall Room 5 200 : 全学教育 C206 300-1: 全学教育 C405 300-2: 全学教育 C107 400-1: 全学教育 C407 400-2: 全学教育 C408 500-1: 全学教育 C409 500-2: 全学教育 C304 JGU600a: 全学教育 C403		100-1: 全学教育 C404 100-2: 全学教育 B316 100-3: 全学教育 B206 100-4: 全学教育 C105 200-1: 全学教育 B305 200-2: 全学教育 C204 300 : 全学教育 C406 400-1: 全学教育 C205 400-2: 全学教育 C107 500-1: 全学教育 C304 500-2: 全学教育 C407 JGU600b: 全学教育 C308		100-1: 全学教育 A305 100-2: 全学教育 C405 100-3: 全学教育 C303 100-4: 法経研究棟505セミナー室 100-5: IC Hall Room5 200-1: 全学教育 B218 200-2: 全学教育 A214 300-1: 全学教育 C306 300-2: 全学教育 B118 400 : 全学教育 C104 500 : 文法経講義棟 32 講義室 JGU600c: 全学教育 B107		IC Hall Room 5	
II	10:30 ～ 12:00	社会学 《人間科学研究科》		日本語 JA100-3、100-4 《国際教育交流 センター》	日本法の諸問題 《法学研究科》	比較法の諸問題 《法学研究科》	移動の社会学 《人間科学研究 科》	科学と社会 《国際教育 交流センター》	日本経済史 《経済学研究科》	メディア社会学 《人間科学研究科》	
		Christian Etzrodf		難波 康治	Elbalti Beligh	Elbalti Beligh	Viktoriya KIM	岡本 紗知	Pierre-Yves Donze	Viktoriya KIM	
		人間科学部本館 31		全学教育 A202	文法経講義棟 22 講義室	文法経講義棟 22 講義室	人間科学部 本館 41	全学教育 C106	文法経講義棟 32 講義室	全学教育 C107	
III	13:00 ～ 14:30	国際理解入門 《工学研究科》	言語コミュニケーション とパフォーマンス 《国際教育交流 センター》	シティズンシップと多文化共生 《国際教育交流センター》		特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題) 《法学研究科》		近代・現代日本文学 《言語文化研究科》			
		藤田 清士	中野 遼子	北山 夕華		LeonardoCiano		村上スミス・アンドリュウ			
		工学研究科 C1-111	ICHall Room 6	文理融合棟 講義室 3		文法経講義棟 23 講義室		全学教育 SCセミナー室 B			
IV	14:40 ～ 16:10	多変量統計科学 《人間科学研究科》	日本のサル学 《人間科学研究科》	日本と中国の文学 と言語 《文学研究科》	コンピュータを活用した語 学学習 《国際教育交流セ ンター》	ソーシャルバージョンと ショッシャルデザイン 《高等教育入試研究開発 センター》	日本のメディアとコミュニケー ション 《国際教育交流セ ンター》	近現代日本の 諸事情 《国際教育交流 センター》	文化：その理解へのアプローチ 《国際教育交流センター》	21 世紀の 電気工学 《工学研究科》	異文化理解演習 《外国語学部》
		足立 浩平	中道 正之	岸本 恵実	魚崎 典子	三森八重子	近藤佐知彦	後藤 厳寛	有川 友子	蔵満 康浩	波多野吉徳
		人間科学部本 館 33	人間科学部本 館 44	全学教育 C404	サイバー メディア センター CALL教室 第1B教室	全学教育 A212 (HALC1)	全学教育 C405	文理融合棟 講義室 1	全学教育 C404	IC Hall Room 5	外国語学部 A101
V	16:20 ～ 17:50	言語心理学と日本語の習得 《国際教育交流センター》						2次元の幾何学 《理学研究科》		持続可能な開発における 地球総合工学の役割 《工学研究科》	
		西口 光一						馬場 伸平		小林 知広	
		IC Hall Room 5						理学部 B301		工学部S1 棟 712 室	

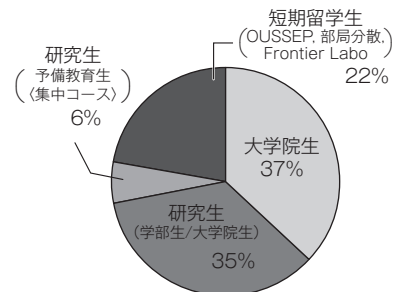
資料 4 日本語授業についてのアンケート

2019 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分 回答者のみ

(1) 大学院生	19
(2) 研究生（学部生／大学院生）	18
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	3
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	11
計	51



* 延総受講者数 179 名のうち、アンケート回答者数 59 名（全体の約 33%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値					
<table><tr><td>50%未満 1</td><td>50～70% 2</td><td>70～80% 3</td><td>80～90% 4</td><td>90%以上 5</td></tr></table>						50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.6
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5							
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。											
<table><tr><td>全くそう思わない 1</td><td>そう思わない 2</td><td>どちらともいえない 3</td><td>そう思う 4</td><td>強くそう思う 5</td></tr></table>						全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.3
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5							
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。											
<table><tr><td>全くしない 1</td><td>～30分 2</td><td>～60分 3</td><td>～90分 4</td><td>91分以上 5</td></tr></table>						全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	3.0
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5							
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。											
<table><tr><td>全くしない 1</td><td>～30分 2</td><td>～60分 3</td><td>～90分 4</td><td>91分以上 5</td></tr></table>						全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	2.6
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5							
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。											
<table><tr><td>一度もしなかった 1</td><td>1回 2</td><td>2～3回 3</td><td>4～5回 4</td><td>6回以上 5</td></tr></table>						一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.0
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5							
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。											
<table><tr><td>ぜんぜん 上達しなかった 1</td><td>ほとんど 上達しなかった 2</td><td>すこしだけ 上達した 3</td><td>かなり 上達した 4</td><td>とても 上達した 5</td></tr></table>						ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.8
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5							

B. 授業への感想

授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------

(1) この授業は体系的に構成されていた。

4.4

(2) 教師は十分な準備をしていた。

4.5

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

4.4

(4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。

4.5

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

4.2

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

4.2

(7) 宿題の量は適切だった。

4.1

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

4.3

(9) この授業を受講してよかったと思う。

4.4

2019 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ175名	のべ51名	29.14%

○各科目平均集計

1. 選択コース

科目名 設問	全科目 平均値		JB 100-T1		JB 200-T1		JB 200-T2		JK 201		JK 202		JB 300		JK 301		JK 302		JC 400		JC 500		JW 400		JW 500		BJ 500		BJ 600		BJ 700		JC 600		JR 600		JR 700		JW 600		JW 700							
	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数								
質問項目	51	175	2	4	1	7	1	16	5	11	0	13	0	6	4	11	1	8	4	8	1	8	6	12	0	6	7	10	5	11	2	7	2	2	2	9	2	5	2	8	0	1	1	7	3	5		
(1)		4.45	4.50	3.00	4.00	4.00	4.60	—	—	—	—	—	3.75	5.00	4.00	4.00	3.00	5.00	—	—	—	—	—	—	4.71	5.00	4.50	4.50	4.50	5.00	—	—	—	—	—	—	—	—	5.00	5.00	—	—	5.00	4.00	—	—	5.00	4.00
(2)		4.16	5.00	4.00	4.00	2.80	—	—	—	—	—	—	4.00	4.00	4.50	4.00	4.17	—	—	—	—	—	—	4.29	4.20	4.00	4.00	4.00	4.50	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	5.00	4.00	—	—	5.00	4.00				
(3)		3.01	2.00	3.00	1.00	3.40	—	—	—	—	—	—	2.75	4.00	2.50	4.00	3.33	—	—	—	—	—	—	2.71	2.80	2.50	2.00	3.50	3.50	3.50	—	—	—	—	—	—	—	—	3.00	4.67	—	—	3.00	4.67				
(4)		2.50	3.50	2.00	1.00	3.40	—	—	—	—	—	—	2.00	3.00	2.50	2.00	3.00	—	—	—	—	—	—	2.71	2.60	2.50	2.00	3.00	3.00	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00	2.33	—	—	2.00	2.33				
(5)		3.11	3.50	4.00	3.00	3.20	—	—	—	—	—	—	2.75	3.00	3.25	2.00	3.00	—	—	—	—	—	—	2.86	3.00	3.50	3.00	3.00	2.00	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	5.00	3.00	—	—	5.00	3.00				
(6)		3.86	5.00	3.00	5.00	4.20	—	—	—	—	—	—	4.25	4.00	4.25	3.00	3.33	—	—	—	—	—	—	3.71	3.60	3.50	3.00	4.00	3.50	4.00	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	3.67	—	—	4.00	3.67				
(7)		4.31	4.50	4.00	5.00	4.60	—	—	—	—	—	—	4.75	4.00	4.75	4.00	4.33	—	—	—	—	—	—	4.57	4.20	4.00	3.00	4.00	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	5.00	4.33	—	—	5.00	4.33				
(8)		4.41	4.50	4.00	5.00	4.80	—	—	—	—	—	—	4.75	4.00	4.75	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	4.57	4.40	4.50	4.00	3.50	4.00	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	5.00	4.67	—	—	5.00	4.67			
(9)		4.30	4.50	3.00	5.00	4.40	—	—	—	—	—	—	4.75	4.00	4.75	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	4.57	4.60	4.00	4.00	4.00	4.50	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.33	—	—	4.00	4.33			
(10)		4.42	4.50	4.00	5.00	4.80	—	—	—	—	—	—	4.75	4.00	4.75	4.00	4.60	—	—	—	—	—	—	4.57	4.80	4.50	4.00	4.50	4.50	4.50	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.33	—	—	4.00	4.33		
(11)		4.19	4.50	4.00	5.00	4.50	—	—	—	—	—	—	4.50	4.00	4.75	4.00	4.33	—	—	—	—	—	—	4.29	3.40	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.67	—	—	4.00	4.67			
(12)		4.13	5.00	3.00	5.00	4.60	—	—	—	—	—	—	3.75	4.00	4.75	4.00	4.33	—	—	—	—	—	—	4.43	3.80	4.00	2.50	4.00	4.00	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.67	—	—	4.00	4.67			
(13)		4.05	5.00	3.00	5.00	4.80	—	—	—	—	—	—	3.75	4.00	4.75	4.00	4.00	—	—	—	—	—	—	4.00	3.80	4.00	2.00	4.00	4.00	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.33	—	—	4.00	4.33			
(14)		4.20	4.50	4.00	5.00	4.40	—	—	—	—	—	—	4.50	4.00	4.75	4.00	4.50	—	—	—	—	—	—	4.57	3.80	3.00	2.50	4.00	4.00	4.50	5.00	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.67	—	—	4.00	4.67			
(15)		4.32	5.00	4.00	5.00	4.80	—	—	—	—	—	—	4.50	4.00	4.75	4.00	4.33	—	—	—	—	—	—	4.57	4.20	4.00	3.50	4.00	4.00	4.50	4.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4.00	4.67	—	—	4.00	4.67			

設問内容

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(5) あなたは、この授業中（90分）にいつものどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2～3回	4～5回	6回以上
1	2	3	4	5

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	すこしだけ上達した	かなり上達した	とても上達した
1	2	3	4	5

B. 授業への感想

- (7) この授業は体系的に構成されていた。
(8) 教師は十分な準備をしていた。
(9) 教師の説明はわかりやすかった。
(10) 教師は質問にいいに答えてくれた。
(11) 練習やアクティビティは役に立った。
(12) クイズや課題・テストなどは適切だった。
(13) 宿題の量は適切だった。
(14) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。
(15) この授業を受講してよかったと思う。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

2019 年度 秋～冬学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆回答者身分：データなし

* 延総受講者数 179 名のうち、アンケート回答者数 59 名（全体の約 33%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。 (5：高評価) 全科目平均値

50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.0
------------	-------------	-------------	-------------	------------	-----

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.0
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------	-----

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.5
------------	-----------	-----------	-----------	------------	-----

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	3.0
------------	-----------	-----------	-----------	------------	-----

(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.7
---------------	---------	-----------	-----------	-----------	-----

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	4.3
----------------------	----------------------	--------------------	------------------	------------------	-----

B. 授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------

- | | |
|--------------------------------|-----|
| (1) この授業は体系的に構成されていた。 | 4.5 |
| (2) 教師は十分な準備をしていた。 | 4.4 |
| (3) 教師の説明はわかりやすかった。 | 4.4 |
| (4) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。 | 4.2 |
| (5) 練習やアクティビティは役に立った。 | 4.2 |
| (6) クイズや課題・テストなどは適切だった。 | 4.2 |
| (7) 宿題の量は適切だった。 | 4.1 |
| (8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。 | 4.2 |
| (9) この授業を受講してよかったと思う。 | 4.3 |

資料 5-1 国際交流科目 授業アンケート (質問票)

International Exchange Subjects First Questionnaire on the Subject you attended Conducted by Center for International Education and Exchange

*Note:

This format of the questionnaire is for all exchange students. If you are NOT an exchange student, please answer to the Japanese questionnaires instead.

The main purpose of this survey is to enhance the educational effect and teaching quality of the instructors in the rest of the semester. The information may be used only by the instructor, coordinator and the staff of the program as reference for study and educational purposes.

Your answers to the questions below are irrelevant to your grade. Do NOT write your name.

Please spend at least 10 minutes to answer the questionnaires.

Do NOT submit this sheet to the instructor, please submit it after you have filled in to the designated students.

Year : 20 _____ Term : Spring and Summer / Fall and Winter

1. Which is your program?

A: OUSSEP B:iExPO C: Frontier Lab D: Maple
E: International-College (G30) CBCMP, F: International-College (G30) HUS, G: Others

2. Title of the Subject:

3. Name of the instructor:

4. Which below-mentioned field is your major close to?

1 ☐ Dentistry, 2 ☐ Economics, 3 ☐ Engineering, 4 ☐ Engineering-Science
5 ☐ Foreign Studies, 6 ☐ Human Sciences, 7 ☐ Information Science and Technology,
8 ☐ International Public Policy, 9 ☐ Language and Culture, 10 ☐ Law and Politics, 11 ☐ Letters,
12 ☐ Medicine, 13 ☐ Pharmaceutical, 14 ☐ Sciences, 15 ☐ Others

5. How often did you attend this class so far?

A: all B:80%~ C:60%~ D:50~59% E:less than half

6. (a) Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?

(Osaka University would encourage the international students to transfer the academic credits)

Yes No

(b) If “No”, please choose the reason.

A: I'm an Osaka University's student. B: I can transfer, but I don't need credits.
C: I cannot transfer. D: other

7. Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.

8. Are you satisfied with this class?

A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all

<Continue to the reverse side>

9. To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?
A: yes, very much B: to some extent C: not so much D: not at all
10. Is the lecture understandable?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
11. Does the instructor speak English understandably?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
12. Is the class conducted in accordance with the syllabus?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
13. Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
14. Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.
A: too much B: adequate C: not enough (insufficient)
15. Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?
Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?
A: yes, very much B: to some extent C: not at all
16. (a) Is there any TA in the class? Yes No
(b) If Yes, how well does the TA contribute?
A: yes, very much B: almost always C: to some extent D: not so much E: not at all
17. Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. Audio-visual material, Field trip, Experiments, discussion, quiz, etc.)
18. Let us know your suggestion or advice to improve the class.
19. Please write other comments and frank opinions freely, if any.

Thank you so much for your cooperation!

資料 5-2 国際交流科目 授業アンケート (学期末Web質問票)

タイトル	End of Semester Evaluation Questionnaire (International Exchange Subjects)
概要	*Note: The main purpose of this survey is to evaluate and enhance the educational benefits and teaching quality of the instructors. This information may be used by the instructor, coordinator(s), and/or staff of the program as a reference for educational and improvement purposes in an anonymous form. Your answers to the questions will have no effect on your grade. You have 10 minutes to answer the questions. Please take your time completing the survey.
開講科目名	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)

1:Your gender 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Male
- II. ☐ Female
- III. ☐ Other

2:Your home country 【記述式 100文字以内】 (回答必須)

3:Your native language 【記述式 100文字以内】 (回答必須)

4: Your program 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ OUSSEP
- II. ☐ iExpo (Regular exchange student)
- III. ☐ FrontierLab@Osaka
- IV. ☐ Maple
- V. ☐ International-College(G30)CBCMP
- VI. ☐ International-College(G30)HUS
- VII. ☐ Faculty-level exchange student
- VIII. ☐ Regular Student
- IX. ☐ Auditor
- X. ☐ Others

5:Please write your program if you chose "others" for question 4. 【記述式 100文字以内】

6:Your Japanese level 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Native
- II. ☐ Excellent
- III. ☐ Good
- IV. ☐ Fair
- V. ☐ Poor

7:Your English level 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Native
- II. ☐ Excellent
- III. ☐ Good
- IV. ☐ Fair
- V. ☐ Poor

8:Which field is your major closest to? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Dentist
- II. ☐ Economics
- III. ☐ Engineering
- IV. ☐ Engineering Science
- V. ☐ Foreign Studies
- VI. ☐ Human Sciences
- VII. ☐ Information Science and Technology
- VIII. ☐ International Public Policy
- IX. ☐ Language and Culture
- X. ☐ Law and Politics
- XI. ☐ Letters
- XII. ☐ Medicine
- XIII. ☐ Pharmaceutical
- XIV. ☐ Sciences
- XV. ☐ Others

9:Please write your major if you chose "others" for question 8. 【記述式 100文字以内】

10:Which field is your minor closest to? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

11:Please write your minor if you chose "others" for question 10. 【記述式 1,000文字以内】

12:How often did you attend this class so far? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ All
- II. ☐ 80% ~
- III. ☐ 60% ~
- IV. ☐ 50% ~ 59%
- V. ☐ Less than half

13:If you don't intend to transfer the credit to your home institution, please choose the reason. 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ I'm an Osaka University student.
- II. ☐ I'll transfer the credit.
- III. ☐ I can transfer, but I don't need credits.
- IV. ☐ I cannot transfer.
- V. ☐ Other.

14:Let us know the main reason for taking this class. Please write the reason. (e.g. OUSSEP completion, personal interest, others.) 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

15:Are you satisfied with this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

16: To what extent have you had opportunities to talk to or discuss with your classmates in this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ Not so much.
- V. ☐ Not at all.

17: To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ Not too much.
- V. ☐ Not at all.

18: Is the lecture understandable? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

19: Does the instructor speak English understandably? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

20: Is the class conducted in accordance with the syllabus? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

21: Does the instructor appropriately answer questions that the students have? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

22: Let us know your opinion on the amount of reading and assignments (inside and outside of class). 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Too much.
- II. ☐ Much.
- III. ☐ Adequate.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Too little.

23: Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

24: Was there an opportunity offered to ask questions about the grading scale of the course? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

25: How well does the TA/TF contribute? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all,
- VI. ☐ There are no TAs/TFs.

26: (Only for Osaka University students) Did you become interested in studying abroad through taking this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

27: (Only for Osaka University students) Is this class helpful in preparing for studying abroad? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

28: (Only for Osaka University students) Have you ever studied abroad before? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ I have studied abroad for 6 months or more.
- II. ☐ I have studied abroad for 3 months or more.
- III. ☐ I have studied abroad for less than 3 months.
- IV. ☐ I haven't studied abroad, however I'm thinking about it in the future.
- V. ☐ I haven't studied abroad, and don't plan to do so in the future.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

29: Let us know if there are any favorable methods of teaching or class organization that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. audio-visual material, field trip, discussions, quizzes, etc.) 【記述式 1,000文字以内】

30: Let us know if you have any suggestions or advice to improve the class. 【記述式 1,000文字以内】

31: Please freely write any other comments and opinions. 【記述式 1,000文字以内】

[回答確認](#) [一時保存](#) [クリア](#) [一覧に戻る](#)

資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

1	Which is your program?	Answer	Num.	Legend: □ A: OUSSEP □ B: iExPO □ C: Frontier Lab □ D: Maple ■ E: G30-CBCMP ■ F: G30-HUS ■ G: Others ■ NA
		A: OUSSEP	218	
		B: iExPO	3	
		C: Frontier Lab	0	
		D: Maple	0	
		E: G30-CBCMP	9	
		F: G30-HUS	11	
		G: Others	42	
		NA	11	
		Total Num.	294	
2	Subject	All the International Exchange Subjects (a number of subjects included)		
4	Your Major	Answer	Num.	Legend: □ Dentistry □ Economics □ Engineering □ Engineering-Science □ Foreign Studies □ Human Sciences □ Information Science and Technology □ International Public Policy □ Language and Culture □ Law and Politics □ Letters □ Medicine □ Pharmaceutical □ Sciences □ Others □ NA
		Dentistry	0	
		Economics	27	
		Engineering	35	
		Engineering-Science	11	
		Foreign Studies	25	
		Human Sciences	38	
		Information Science and Technology	3	
		International Public Policy	3	
		Language and Culture	26	
		Law and Politics	34	
		Letters	17	
		Medicine	4	
		Pharmaceutical	11	
		Sciences	43	
		Others	12	
		NA	1	
Total Num.			294	
5	How often did you attend this class so far?	Answer	Num.	Legend: □ A: all □ B: 80%~ □ C: 60%~ □ D: 50~59% □ E: less than half ■ NA
		A: all	149	
		B: 80%~	138	
		C: 60%~	4	
		D: 50~59%	2	
		E: less than half	0	
		NA	1	
		Total Num.		
6 (a)	Do you intend to transfer the credit to the credit at your home institution?	Answer	Num.	Legend: □ A: Yes □ B: No ■ NA
		A: Yes	204	
		B: No	87	
		NA	3	
		Total Num.		
6 (b)	If "No", please choose the reason.			Legend: □ A: I'm an Osaka University's student □ B: I can transfer, But I don't need credits. □ C: I cannot transfer. □ D: Other ■ NA
	Answer	Num.		
	A: I'm an Osaka University's student	21		
	B: I can transfer, But I don't need credits.	29		
	C: I cannot transfer.	29		
	D: Other	12		
	NA	190		
Total Num.			294	

7	Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.																		
	interest,advice for thesis																		
	Fun																		
	I am going to write my master thesis soon, so I thought it would be helpful.																		
	I study science and wished to improve my writing abilities.																		
	Wanted to learn more detail about the structure of scientific writing as well as the methods.																		
	To improve my writing skill.																		
8	Are you satisfied with this class?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>124</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>95</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>62</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>7</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>5</td></tr><tr><td>NA</td><td>1</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>294</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	124	B: almost always	95	C: to some extent	62	D: not so much	7	E: not at all	5	NA	1	Total Num.	294	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	124																		
B: almost always	95																		
C: to some extent	62																		
D: not so much	7																		
E: not at all	5																		
NA	1																		
Total Num.	294																		
9	To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>36</td></tr><tr><td>B: to some extent</td><td>34</td></tr><tr><td>C: not so much</td><td>57</td></tr><tr><td>D: not at all</td><td>166</td></tr><tr><td>NA</td><td>2</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>295</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	36	B: to some extent	34	C: not so much	57	D: not at all	166	NA	2	Total Num.	295	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: to some extent ▓ C: not so much ■ D: not at all ■ NA		
Answer	Num.																		
A: yes,very much	36																		
B: to some extent	34																		
C: not so much	57																		
D: not at all	166																		
NA	2																		
Total Num.	295																		
10	Is the lecture understandable?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>135</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>91</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>58</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>5</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>3</td></tr><tr><td>NA</td><td>2</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>294</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	135	B: almost always	91	C: to some extent	58	D: not so much	5	E: not at all	3	NA	2	Total Num.	294	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	135																		
B: almost always	91																		
C: to some extent	58																		
D: not so much	5																		
E: not at all	3																		
NA	2																		
Total Num.	294																		
11	Does the instructor speak English understandably?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>146</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>90</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>47</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>6</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>2</td></tr><tr><td>NA</td><td>3</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>294</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	146	B: almost always	90	C: to some extent	47	D: not so much	6	E: not at all	2	NA	3	Total Num.	294	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	146																		
B: almost always	90																		
C: to some extent	47																		
D: not so much	6																		
E: not at all	2																		
NA	3																		
Total Num.	294																		
12	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: yes,very much</td><td>202</td></tr><tr><td>B: almost always</td><td>69</td></tr><tr><td>C: to some extent</td><td>17</td></tr><tr><td>D: not so much</td><td>2</td></tr><tr><td>E: not at all</td><td>1</td></tr><tr><td>NA</td><td>2</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>294</td></tr></table>	Answer	Num.	A: yes,very much	202	B: almost always	69	C: to some extent	17	D: not so much	2	E: not at all	1	NA	2	Total Num.	294	Legend: □ A: yes,very much ▒ B: almost always ▓ C: to some extent ■ D: not so much ■ E: not at all ■ NA
Answer	Num.																		
A: yes,very much	202																		
B: almost always	69																		
C: to some extent	17																		
D: not so much	2																		
E: not at all	1																		
NA	2																		
Total Num.	294																		

13	Does the instructor answer appropriately to the questions that students raise?	Answer	Num.	☐ A: yes,very much ☐ B: almost always ☐ C: to some extent ☐ D: not so much ☐ E: not at all ☐ NA
		A: yes,very much	185	
		B: almost always	71	
		C: to some extent	29	
		D: not so much	3	
		E: not at all	1	
		NA	5	
		Total Num.	294	
14	Let us know your opinion on the amount of reading materials and assignment.	Answer	Num.	☐ A: too much ☐ B: adequate ☐ C: not enough (insufficient) ☐ NA
		A: too much	34	
		B: adequate	239	
		C: not enough(insufficient)	18	
		NA	3	
		Total Num.	294	
15	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? Was there any opportunity offered to ask a question about the grading scale of the course?	Answer	Num.	☐ A: yes,very much ☐ B: to some extent ☐ C: not at all ☐ NA
		A: yes,very much	201	
		B: to some extent	82	
		C: not at all	3	
		NA	7	
		Total Num.	294	
16	Is there any TA in the class?	Answer	Num.	☐ A: Yes ☐ B: No ☐ NA
		A: Yes	176	
		B: No	107	
		NA	11	
		Total Num.	294	
	If YES, how well does the TA contribute?	Answer	Num.	☐ A: yes,very much ☐ B: almost always ☐ C: to some extent ☐ D: not so much ☐ E: not at all ☐ NA
		A: yes,very much	96	
		B: almost always	41	
		C: to some extent	29	
		D: not so much	15	
		E: not at all	5	
		NA	108	
		Total Num.	294	
17	Let us know, if any, favorable method of teaching or organizing classes that you think the instructor should continue to maintain.	Discussion		
		I do enjoy group discussion		
		Very organized		
		Great class discussions, teacher helped organise very interesting topics & groups		
		Group discussion is good.		
		Discussions, Audio-visual material		
		Audio-visual material		
		The visit to the Korean school was very interesting, I feel like I learned a lot.		
		Groupdiscussion, international perspective or education, documentary.		
		The Field trip was nice.		

18	Let us know your suggestion or advice to improve the class.
	Ask for answers from class. If not, it feels like the work we do in class is unimportant. Ask only yes-no questions to class if you want a reply from everyone.
	Perhaps more writing
	There could be a more structured written resource for each class.
	Nothing so far class was very adequate.
	Was a really nice class.
	Sometimes the discussions felt a bit long or too much. More time given to lecture by the professor.
	I think it would be beneficial if we had a larger class to have a larger variety in the people to discuss with.
	Advertising the class to more Japanese students. They likely didn't take it because that
	I was very satisfied with the class.
	Maybe less about Japan but education problem all around the world (access to education, gender ())
19	Please write other comments and frank opinions freely, if any.
	It was very helpful. Thank you.
	The paper is very good.
	Good class, learned a lot but could have had more writing.
	It was very helpful. Thank you.
	I really enjoyed the class.
	I learn more than I thought I would.
	The teacher is fantastic! Very supportive & knowledgeable.
	Really good instructor, interesting class with discussion. Thank you.
	I really enjoyed this class!
	The guest speaker's lecture was very interesting.
	Maybe could be better to talk more about () schools.

2019年度 年 報

2020年7月15日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：株式会社 遊 文 舎